ISSN 0915−1613

年　報　13

平成８年度

1997.3

山梨県埋蔵文化財センター

ISSN 0915－1613

年　報　13

平成８年度

１９９７．３

山梨県埋蔵文化財センター

序

当埋蔵文化財センターが設立されましてから、今年度で15年が経過し、この間、当センターが発掘調査を行ってまいりました遺跡は240件を越え、刊行しました発掘調査報告書も120冊以上となりました。これらの内容は旧石器時代から近代に至るまで幅広く、本県の歴史の解明に大きく役立つものと信じております。また、発掘調査で得られた貴重な資料は「遺跡調査発表会」や「山梨の遺跡展」の開催、収蔵資料の貸し出し等により、本県の歴史を理解していただくための啓蒙普及活動に県内外で広く活用され、その内容も年々充実したものとなっております。

本書は、1996年度に当埋蔵文化財センターが実施しました発掘調査および試掘調査・分布調査の概要と、遺跡調査発表会等の事業内容を報告するものであります。今年度は、23遺跡の発掘調査と6件の事業にかかわる試掘調査を行いました。この中で、高根町清里バイパス第2遺跡から県内で出土例の少ない縄文時代早期中頃の押形文土器が発見されました。また、長坂町酒呑場遺跡からは、国内最古と思われる男根を形作った土製品が住居跡から出土し、大月市塩瀬下原遺跡から縄文時代中期末葉の住居跡と配石遺構群が発見され、縄文時代の精神文化を解明する手がかりとなる発見が相次ぎました。中部横断自動車道関連の中巨摩郡櫛形町十五所遺跡では弥生時代後期の方形周溝墓が9基確認され、隣接する村前東A遺跡では古墳時代・平安時代の住居跡が39軒発見され、当遺跡が該期の大集落であったことが明らかになりました。鰍沢町では富士川水運の要所であった鰍沢河岸跡が発掘調査され、江戸時代の甲府代官所米蔵にかかわる御蔵台や、明治から大正時代の富士川運輸会社の倉庫施設等の遺構が発見され、近世・近代の富士川水運の様子が、考古学の立場から明らかにされるものと注目されております。このほか、県内の市町村が実施しました発掘調査においても興味深い遺構や遺物が発見されています。

また、昨年度に引き続き、阪神・淡路大震災の復旧・復興対策に伴って行われた遺跡発掘調査の支援に、小林公治主任・文化財主事1名を4月1日から3月31日まで派遣（兵庫県教育委員会事務局技術員兼務）いたしました。

ここ数年、県内においては年間100件にもおよぶ発掘調査が行われております。開発事業は依然としてその数を増加させ、止まることを知りません。このような状況の中で得られた貴重な資料と引き替えに、多くの遺跡が失われていくことを余儀なくされております。祖先の残した文化遺産のひとつである遺跡を可能な限り守り、未来につなげて行くことが私たちの責務であると確信しております。これらのためにも、本書を有効にご利用いただき、埋蔵文化財の保護をはじめ、啓蒙普及活動に一層のご協力とご理解をお願い致します。

1997年3月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 大塚初重

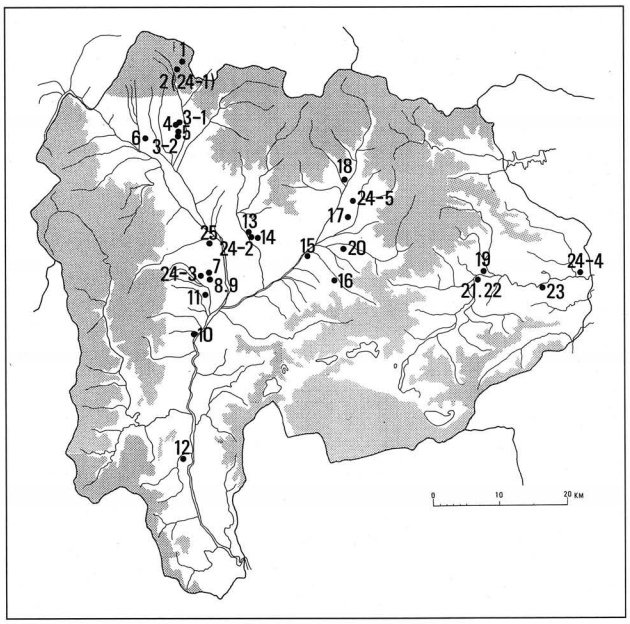
目　　次

Ⅰ　1996年度の事業概要
1　発掘調査 …… 1
2　整理事業 …… 1
3　発掘調査報告書 …… 2
4　収蔵資料の貸し出し及び掲載許可 …… 3
5　調査研究課課内研究グループ …… 6
6　遺跡調査発表会 …… 7
7　山梨の遺跡展'97 …… 8
8　第８回市町村埋蔵文化財専門職員研修会 …… 8
9　調査研究課課内研修 …… 9
10　寄贈・購入図書 …… 9

Ⅱ　各遺跡の発掘調査概要
1　清里バイパス第１遺跡 …… 10
2　清里バイパス第２遺跡 …… 12
3　箕輪バイパス関係遺跡範囲確認調査 …… 13
4　横森・横森前遺跡 …… 14
5　宮の前遺跡 …… 16
6　酒呑場遺跡 …… 18
7　十五所遺跡 …… 20
8　村前東Ａ遺跡（Ⅲ区） …… 22
9　村前東Ａ遺跡（Ⅴ区） …… 24
10　鰍沢河岸跡 …… 26
11　宮沢中村遺跡 …… 28
12　梅平本田遺跡 …… 28
13　音羽遺跡 …… 29
14　甲府城跡（県指定史跡） …… 30
15　石和高校周辺遺跡 …… 33
16　桂野遺跡 …… 34
17　一ノ坪遺跡 …… 35
18　窪平バイパス関係遺跡（諏訪前遺跡） …… 36
19　強瀬北遺跡 …… 37
20　古婦毛遺跡 …… 38
21　大月遺跡（第８次調査Ⅰ・Ⅱ区） …… 40
22　大月遺跡（第10次調査Ⅰ・Ⅱ区） …… 42
23　塩瀬下原遺跡 …… 44
24　八ケ岳東南麓他遺跡分布調査 …… 46
25　中部横断道予定地内試掘調査 …… 49

Ⅲ　県内の概況
山梨県埋蔵文化財発掘調査件数の推移（グラフ）・1996年度発掘調査一覧表 …… 50

例　　言



1996年度発掘調査　位置図

1．本書は、1996年度の山梨県埋蔵文化財センターの事業をまとめたものである。

2．本書の編集は田口明子、萩原孝一、村松佳幸がおこなった。

3．今年度の発掘調査一覧表及び資料の記載は３月末日現在で集計したものである。

4．第Ⅱ章各遺跡の発掘調査概要の発掘調査面積の（　　）内は調査対象面積である。

5．左記の地図は1996年度発掘調査遺跡の位置図である。なお地図中の番号は第Ⅰ章１発掘調査の表に対応している。

職　員　組　織

所長	大塚初重
次長	穂阪忠
総務課課長	穂阪忠
埋蔵文化財指導幹	森和敏
調査研究第１課課長	森和敏
調査研究第２課課長	田代孝

総務課		
総務担当	副主査	一瀬好史
	主事	矢崎寛
	主事	中村紀子
	文書事務員	有泉百合恵
	業務員	久保川一三

調査研究第一課		
調査第一担当	副主幹・文化財主事	坂本美夫
	主任・文化財主事	高野玄明
	主任・文化財主事	村石眞澄
	主任・文化財主事	土屋浩之
	主任・文化財主事	雨宮芳夫
調査第二担当	主査・文化財主事	小野正文
	副主査・文化財主事	保坂康夫
	主任・文化財主事	山本茂樹
	主任・文化財主事	川手昌英
	主任・文化財主事	熊谷栄二
	非常勤嘱託	村松佳幸
調査第三担当	主査・文化財主事	八巻與志夫
	※主任・文化財主事	小林公治
	文化財主事	﨑田哲
	文化財主事	田口明子
	文化財主事	野代幸和
	文化財主事	米山真

調査研究第二課		
調査第四担当	主査・文化財主事	新津健
	主査・文化財主事	小林広和
	文化財主事	森原明廣
	文化財主事	保坂和博
	文化財主事	萩原孝一
	文化財主事	小林健二
調査第五担当	主査・文化財主事	米田明訓
	主査・文化財主事	保坂一英
	主任・文化財主事	三田村美彦
	主任・文化財主事	清水裕司
	文化財主事	石神孝子
	非常勤嘱託	雨宮信仁
調査第六担当	副主査・文化財主事	長沢宏昌
	主任・文化財主事	吉岡弘樹
	文化財主事	伊藤伸一
	文化財主事	笠原みゆき
	文化財主事	大庭勝
	文化財主事	宮里学

※兵庫県派遣

Ⅰ　1996年度の事業概要

1　発掘調査

今年度は23遺跡の発掘調査と６事業にかかわる試掘調査を行った。調査の原因は、道路建設14、建物建設７、公園整備１、河川改修１となる。調査は４月中旬から３月下旬まで行われ、主として12月以降を整理期間とした。各遺跡の概要は、第Ⅱ章で述べることとする。

番号	遺　跡　名　他	番号	遺　跡　名　他
1	清里バイパス第１遺跡	16	桂野遺跡
2	清里バイパス第２遺跡	17	一ノ坪遺跡
3	箕輪バイパス関係遺跡範囲確認調査	18	窪平バイパス関係遺跡（諏訪前遺跡）
4	横森・横森前遺跡	19	強瀬北遺跡
5	宮の前遺跡	20	古婦毛遺跡
6	酒呑場遺跡	21	大月遺跡（第８次調査Ⅰ・Ⅱ区）
7	十五所遺跡	22	大月遺跡（第10次調査Ⅰ・Ⅱ区）
8	村前東Ａ遺跡（Ⅲ区）	23	塩瀬下原遺跡
9	村前東Ａ遺跡（Ⅴ区）	24-1	清里遺跡・石堂遺跡試掘調査
10	鰍沢河岸跡	24-2	富士見一丁目遺跡試掘調査
11	宮沢中村遺跡	24-3	八田畑遺跡試掘調査
12	梅平本田遺跡	24-4	上野原郵便局遺跡試掘調査
13	音羽遺跡	24-5	伊保水遺跡試掘調査
14	甲府城跡（県指定史跡）	25	中部横断道予定地内試掘調査
15	石和高校周辺遺跡		

2　整理事業

今年度は下記の整理を行った。

No.	遺　跡　名	事　業　名	発　掘　年　度
1	甲ッ原遺跡	須玉八ケ岳公園線建設	1990・1991
2	米倉山遺跡	米倉山ニュータウン建設	1990～1994
3	二本柳遺跡	国道52号（甲西道路）改築他	1992
4	向河原遺跡	国道52号（甲西道路）改築他	1992
5	油田遺跡	国道52号（甲西道路）改築他	1992～1994
6	音羽遺跡	音羽県職員宿舎改築	1992～1996
7	大師東丹保Ⅰ遺跡	国道52号（甲西道路）改築他	1993
8	大師東丹保Ⅱ・Ⅲ遺跡	国道52号（甲西道路）改築他	1993・1994
9	大師東丹保Ⅳ遺跡	国道52号（甲西道路）改築他	1994
10	大月遺跡	都留高校改築	1994
11	酒呑場遺跡	酪農試験場整備	1994・1995

No	遺　跡　名	事　業　名	発掘年度
12	岩清水遺跡	風土記の丘曽根丘陵公園整備	1995
13	大林上遺跡	国道141号箕輪バイパス改築	1995
14	海道前Ｃ遺跡	国道141号箕輪バイパス改築	1995
15	大塚遺跡	御勅使南工業団地造成	1995
16	一ノ坪遺跡	県営熊野団地建設	1995・1996
17	塩瀬下原遺跡	桂川流域下水道終末処理場建設	1995・1996
18	横森・横森前遺跡	国道141号箕輪バイパス改築	1996
19	清里バイパス遺跡	清里バイパス改築	1996
20	古婦毛遺跡	県営勝沼団地建設	1996
21	山梨県指定史跡　甲府城跡	舞鶴城公園再整備	1996
22	宮沢中村遺跡	国道52号（甲西道路）改築他	1996
23	村前東Ａ遺跡	国道52号（甲西道路）改築他	1996
24	十五所遺跡	国道52号（甲西道路）改築他	1996
25	桂野遺跡	国道137号黒駒バイパス改築	1996
26	大月遺跡	国道20号大月バイパス改築	1996
27	諏訪前遺跡	国道140号窪平バイパス改築	1996
28	石和高校周辺遺跡	県立石和高等学校運動場拡張整備	1996
29	梅平本田遺跡	国道52号身延バイパス改築	1996
30	鰍沢河岸跡	富士川改修	1996
31	中部横断自動車道試掘調査	中部横断自動車道建設	1996
32	八ケ岳東南麓他遺跡分布調査	八ケ岳東南麓他遺跡分布調査	1996

3　発掘調査報告書

今年度は下記の報告書を刊行した。

No	報　告　書　名	No	報　告　書　名
第124集	清里バイパス遺跡	第135集	酒呑場遺跡（第１・２次）
第125集	音羽遺跡	第136集	酒呑場遺跡（第３次）
第126集	石和高校周辺遺跡	第137集	大塚遺跡
第127集	三ケ所遺跡	第138集	西田遺跡
第128集	十五所遺跡調査概報Ⅲ	第139集	大月遺跡（都留高等学校体育館）
第129集	向河原遺跡調査概報	第140集	山梨県指定史跡　甲府城跡Ⅶ
第130集	油田遺跡	第141集	一ノ坪遺跡
第131集	大師東丹保Ⅰ遺跡	第142集	古婦毛遺跡
第132集	大師東丹保Ⅱ・Ⅲ遺跡	第143集	梅平本田遺跡
第133集	大師東丹保Ⅳ遺跡	第144集	甲ッ原遺跡Ⅲ
第134集	村前東Ａ遺跡概報４		

4　収蔵資料の貸し出し及び掲載許可

今年度は以下の収蔵資料を貸し出した。

番号	申　請　者	利　用　目　的	貸し出し期間	申　請　物　件　名
1	町田市立博物館	「縄文人の造形－土偶と土面－」展に展示	4.16～6.15	金生遺跡出土中空土偶１点
2	茅野市尖石考古館	特別展「縄文のビーナスたち」に展示	4.23～5.24	金生遺跡出土中空土偶（レプリカ）１点
3	山梨学院大学	山梨学院大学創立50周年記念展示会「水晶の歴史展」に出品	5.30～6.4	銚子塚古墳出土勾玉１点、四ツ塚古墳出土切子玉１点
4	名古屋大学文学部考古学研究室	ソフトX線による形態調査のため	6.7～7.12	寺所遺跡出土鋸１点
5	長野県立歴史館	夏季企画展「縄文人の一生～北村遺跡に生きた人々」に展示	6.20～9.15	中谷遺跡出土耳飾りをした土偶（レプリカ）１点
6	相模原市立博物館	特別展「勝坂の民・農耕の民」に展示	7.20～9.8	村上遺跡出土顔面把手付土器１点、安道寺遺跡出土顔面把手２点、宿尻遺跡出土顔面把手１点、上の平遺跡出土顔面把手１点、安道寺遺跡出土猪把手付土器１点
7	甲府市教育委員会	土器作り教室の教材として	7.15～12.10	金生遺跡出土中空土偶１点、一の沢西遺跡出土縄文土器３点、一の沢西遺跡出土有孔鍔付土器１点、海道前Ｃ遺跡出土顔面把手付土器１点、海道前Ｃ遺跡出土石棒１点、安道寺遺跡出土縄文土器１点
8	「縄文まほろば博」実行委員会	「縄文まほろば博」に展示	7.12～12.10	金生遺跡出土中空土偶１点、一の沢西遺跡出土縄文土器３点、一の沢西遺跡出土有孔鍔付土器１点、海道前Ｃ遺跡出土顔面把手付土器１点、海道前Ｃ遺跡出土石棒１点、安道寺遺跡出土縄文土器１点
9	十日町市立博物館	特別展「縄文の美－火焔土器の系譜」展に展示	9.12～11.10	上野原遺跡出土深鉢形土器２点、甲ツ原遺跡出土深鉢形土器１点、宮の前遺跡出土深鉢形土器１点、一の沢西遺跡出土深鉢形土器１点
10	上田市立博物館	特別展「金箔瓦の城」に展示	10.2～11.20	甲府城跡鯱瓦１点・鯱瓦片５点・鬼瓦１点・鬼板瓦２点・飾り瓦３点・飾り瓦片４点・鳥衾瓦１点・軒丸瓦２点・獅子瓦１点
11	釈迦堂遺跡博物館	特別展「縄文の舞～土器に描かれた人体形象文の世界～」展に展示	10.7～12.6	上野原遺跡出土深鉢形土器２点、甲ツ原遺跡出土深鉢形土器１点、金の尾遺跡出土深鉢形土器１点、一の沢西遺跡出土深鉢形土器３点、西田遺跡出土深鉢形土器１点、重郎原遺跡出土深鉢形土器４点、酒呑場遺跡出土浅鉢形土器２点、酒呑場遺跡出土ミニチュア土器１点、酒呑場遺跡出土顔面装飾付土器１点、酒呑場遺跡出土深鉢形土器13点
12	島田市博物館	特別展「縄文の土器展～縄文人からのメッセージ」展に展示	1.10～3.20	上野原遺跡出土深鉢形土器１点、甲ツ原遺跡出土深鉢形土器１点、甲ツ原遺跡出土猪把手付深鉢形土器１点、一の沢西遺跡出土深鉢形土器４点、安道寺遺跡出土猪把手付深鉢形土器１点、安道寺遺跡出土有孔鍔付土器１点

今年度は以下の写真等の掲載許可申請があり許可した。

番号	申請日	申　請　者	利　用　目　的	申　請　物　件　名
1	3.26	日本放送出版協会	「縄文まほろば博、三内丸山遺跡とその世界」展公式ガイドブックに掲載	金生遺跡中空土偶１点、一の沢西遺跡縄文土器３点・有孔鍔付土器１点、安道寺遺跡縄文土器１点、海道前Ｃ遺跡顔面把手付土器１点・石棒頭部１点
2	4.1	ニューサイエンス社	「考古学ジャーナル」№403に掲載	銚子塚古墳壺形埴輪１点、銚子塚古墳遠景１点
3	4.17	山梨県史編さん室	「山梨県史研究」第４号に掲載	小平沢古墳斜縁二神二獣鏡１点
4	5.14	秋田書店	「歴史と旅」７月号に掲載	縄文時代の竪穴住居ジオラマ１点
5	5.14	日本放送出版協会	ＮＨＫブックス「縄文学への道」に掲載	釈迦堂遺跡土偶の集合写真１点
6	5.22	十日町市立博物館	特別展「縄文の美ー火焔土器の系譜」展示図録に掲載	上野原遺跡深鉢形土器２点、甲ツ原遺跡深鉢形土器１点、宮の前遺跡深鉢形土器１点、一の沢西遺跡深鉢形土器１点
7	5.23	相模原市博物館	特別展「勝坂の民・農耕の民」展示図録に掲載	村上遺跡顔面把手付土器１点、安道寺遺跡顔面把手２点・猪把手付土器１点、宿尻遺跡顔面把手１点、上の平遺跡顔面把手１点
8	5.23	雄山閣出版	「考古学による日本歴史」第２巻に掲載	大師東丹保遺跡鎌倉時代水田跡１点、丘の公園遺跡中世の陥穴１点、二本柳遺跡平安時代水田跡１点
9	5.31	朝日新聞社出版局	朝日選書557「縄文人」に掲載	重郎原遺跡縄文土器１点
10	6.3	講談社	「Ｘ百科事典」に掲載	殿林遺跡深鉢形土器１点
11	6.6	朝日新聞社出版局	「古墳読本・古墳への旅」に掲載	銚子塚古墳・丸山塚古墳鳥瞰写真１点
12	6.17	学習研究社	「縄文への旅」に掲載	安道寺遺跡有孔鍔付土器１点、一の沢西遺跡深鉢形土器３点、有孔鍔付土器１点
13	6.20	山梨日日新聞社出版局	「ザ・やまなし」７月号に掲載 「縄文まほろば博」会場内映像展示	上の平遺跡航空写真１枚、風土記の丘航空写真１枚、銚子塚古墳石室１点・画文帯神獣鏡１点
14	6.20	「縄文まほろば博」	への収録・ＮＨＫ番組への収録	安道寺遺跡水煙把手付土器１点
15	6.25	「縄文もほろば博」実行委員会	「縄文まほろば博」物販のため	安道寺遺跡深鉢形土器１点、海道前Ｃ遺跡顔面把手付土器１点、一の沢西遺跡大型把手付土器１点
16	6.25	日経１ＢＰ社	日経アート８月号　矢部良明氏『花と陶芸』に掲載	殿林遺跡深鉢形土器１点
17	7.2	山梨日日新聞社出版局	「ザ・やまなし」８月号に掲載	経塚古墳全景写真１点
18	7.4	ＮＨＫエデュケーショナル	ＮＫＨ教育テレビ「日曜美術館」に収録	安道寺遺跡水煙把手付土器１点、金生遺跡中空土偶１点、海道前Ｃ遺跡顔面把手付土器１点
19	7.13	新潮社	「芸術新潮」９月号に掲載	金生遺跡中空土偶１点
20	7.26	角川書店	「発見の古代史」第１巻「原人から縄文社会へ」に掲載	甲ツ原遺跡琥珀玉図版１点
21	8.15	㈱雅麗	学習研究社「古代史発見」３『謎の天皇陵と巨大古墳（仮）』に掲載	銚子塚古墳壺型埴輪１点
22	8.31	朝日新聞社出版局	「古代史発掘'91～'95新遺跡カタログ」（仮）に掲載	米倉山Ｂ遺跡貸泉出土状況１点、経塚古墳発掘状況（94年）３点・（95年）２点
23	9.11	日本放送協会 仙台放送局	ＮＨＫ総合テレビ東北スペシャル「土器に探る縄文の心」に収録	安道寺遺跡水煙把手付土器１点
24	9.12	上田市立博物館	特別展「金箔瓦の城」展示図録の掲載	甲府城跡天守台石垣１点・鯱瓦１点・鯱瓦片５点・鬼瓦２点
25	9.13	釈迦堂遺跡博物館	特別展「縄文の舞～土器に描かれた人体形象文の世界～」展示図録に掲載	上野原遺跡深鉢形土器１点、甲ツ原遺跡深鉢形土器１点、金の尾遺跡深鉢形土器１点、一の沢西遺跡深鉢形土器３点、西田遺跡深鉢形土器１点、重郎原遺跡深鉢形土器４点、酒呑場遺跡浅鉢形土器２点・ミニチュア土器１点・顔面装飾付土器１点・深鉢形土器13点
26	9.19	ＮＨＫ大阪放送局	ＢＳスペシャル「タイムトリップ１万年～小学生考古学探険～」第３話に収録	金生遺跡イノシシ骨出土状況１点
27	10.4	講談社	「歴史発掘第２巻　縄文土器出現」に掲載	一の沢西遺跡他縄文土器集合写真１点
28	10.17	山梨日日新聞社出版局	「ザ・やまなし」11月号に掲載	大月遺跡敷石住居写真１点、御所遺跡石杵１点
29	10.22	東京映画新社	日本テレビ系「知ってるつもり？！柳沢吉保」に収録	甲府城模型１点
30	10.24	㈱ランダムコミュニケーションズ	「旅行読売ＭＯＯＫ　知的ロマンへの旅・古代遺跡めぐりガイド」（仮）に掲載	風土記の丘公園全景１点、考古博物館外観１点・展示室１点・竪穴住居ジオラマ１点、殿林遺跡縄文土器１点、金生遺跡土偶１点、一の沢西遺跡土偶１点、身洗沢遺跡木製農具１点、大丸山古墳鉄製短甲１点、銚子塚古墳全景１点、丸山塚古墳全景１点、風土記の丘公園近景１点、釈迦堂遺跡土偶集合写真１点

31	10.29	小学館	「日本美術館」に掲載	殿林遺跡深鉢形土器１点、安道寺遺跡有孔鍔付土器１点
32	10.31		「日本美術館」に掲載	釈迦堂遺跡土偶集合写真１点
33	11.28	財団法人あすか青年育成国際財団	情報誌「ふれあいの森」に掲載	一の沢西遺跡縄文土器１点
34	11.28	日経ＢＰ社	「日経アート４月号　赤瀬川原平・山下裕二の日本美術応援団」に掲載	殿林遺跡深鉢形土器１点、一の沢西遺跡深鉢形土器１点、上野原遺跡深鉢形土器２点、安道寺遺跡獣面把手付土器１点、宮の前遺跡深鉢形土器１点・埋甕出土状況１点
35	12.3	島田市博物館	特別展「縄文の土器展～縄文人からのメッセージ」展示図録に掲載	上野原遺跡深鉢形土器１点、甲ツ原遺跡深鉢形土器１点・猪把手付深鉢形土器１点、一の沢西遺跡深鉢形土器４点、安道寺遺跡猪把手付深鉢形土器１点・有孔鍔付土器１点
36	12.4	示人社	「山内清男　先史考古学論文集」カタログに掲載	殿林遺跡深鉢形土器１点
37	12.13	山梨新報社	「山梨新報」１月１日号特集「甲府城」に掲載	甲府城違鷹羽軒丸瓦２点・金箔鯱瓦１点・金箔鯱瓦（復元）１点・五三桐瓦１点
38	1.1	山梨日日新聞社	（仮）「新訂　山梨の遺跡」に掲載	立石遺跡調査風景１点・石器一括１点、丘の公園調査風景１点・遺跡遠景１点・接合資料１点・石器群１点・剥片類一括１点、兄川調査風景１点、天神遺跡集落風景１点・漆塗り土器１点・硬玉製勾玉１点、海道前Ｃ遺跡出産土器１点、宮の前遺跡埋甕出土状況１点、上野原遺跡水煙把手付土器１点、安道寺遺跡水煙把手付土器１点、猪把手付土器１点・猪アップ１点・蛇付土器１点、一の沢西遺跡深鉢形土器６点、土器一括１点、上の平遺跡土鈴１点・方形周溝墓１点・土器一括１点、柳坪遺跡土鈴１点・石帯セット１点・則天文字墨書土器１点，甲ツ原遺跡土鈴１点・猪把手付土器１点・琥珀玉一括１点・漆塗り土器１点、殿林遺跡深鉢形土器１点、大月遺跡敷石住居風景１点・敷石住居１点・集落風景１点、金生遺跡全景１点・硬玉セット１点・土製耳飾りセット１点・２号配石１点・陶磁器一群１点・陶磁器ウサギ水滴１点・亀ケ岡式土器１点・２号配石一括遺物１点、菖蒲池遺跡調査風景１点・遺物１点、向河原遺跡水田全景１点、平野遺跡火災住居１点、長田口遺跡鏡１点、米倉山遺跡貨泉１点、十五所遺跡方形周溝墓１点・土器１点、東丹保遺跡地割れ１点・噴砂１点・かぼちゃ椀１点・航空写真１点・調査風景１点・網代の調査風景１点・網代部分１点・建物柱列１点・斎串出土状況１点・かぶ椀１点・下駄１点・水田跡１点・水田杭列１点、身洗沢遺跡木製農具１点、金の尾遺跡ガラス玉１点・磨製石鏃１点・紡錘車１点、東山古墳群航空写真１点、東山北遺跡磨製石包丁１点・炭化米１点・２号方形周溝墓遺物１点・空撮１点、桜井畑遺跡１号方形周溝墓全景１点・遺物１点、塩部遺跡周溝墓調査風景１点・馬の歯出土状況１点・ヒトガタ１点・人形出土状態１点・勾玉１点、榎田遺跡周溝墓遺物出土状況１点・篭目文土器１点、大丸山古墳全景１点、銚子塚古墳復元後全景１点、副葬品１点、小平沢古墳墳丘風景１点、東丹保遺跡Ⅳ区壺出土状況１点・古墳全景１点、かんかん塚古墳調査風景・馬具１点、稲荷塚古墳象嵌大刀１点・調査風景１点、東山Ｂ遺跡盆地を望む全景１点・県内最古須恵器１点、経塚古墳俯瞰写真１点・石室１点、村前東遺跡全景航空写真１点・土器セット１点、新居道下遺跡カマド１点・住居調査風景１点、二宮・姥塚遺跡集落全景１点・土器セット１点、大塚遺跡調査風景１点・土器セット１点、二本柳遺跡平安水田跡１点・井戸１点・かわらけ群出土状況１点・水田調査風景１点・木簡の調査風景１点、油田遺跡平安水田跡１点、堅杵１点、狐原遺跡墓跡全景１点、墨書土器１点、桜井畑Ａ遺跡仏堂風建物跡１点・灯明皿出土状態１点、緑釉陶器香炉蓋１点・瓦１点、寺所遺跡鉄製品１点、甲府城石垣修復部分１点・石垣下調査風景１点・濠調査１点・胴木１点・本丸調査１点・金鯱瓦１点・遺物出土状態１点、鰍沢河岸跡お蔵台１点・航空写真１点、宮沢中村遺跡調査風景１点・参道１点・農家の礎石１点・石垣と胴木１点・井戸１点・池１点・出土遺物１点、東河原遺跡調査風景１点・水田跡１点、小倉窯跡１点、宇津谷窯跡１点、花鳥山遺跡押型文土器片１点・オコゲ付土器１点・鯉１点・堅果類一括１点、笠木地蔵遺跡有舌尖頭器１点、獅子之前遺跡獣面土器１点、水呑場遺跡押型文土器片１点・オコゲ付土器１点、中溝遺跡遺物１点、小平沢古墳二神二獣鏡１点、御所遺跡金粉付石杵１点、酒呑場遺跡出産土器１点・漆塗り土器１点・蛇文把手アップ１点、硬玉１点、
39	1.7	山梨郷土研究会	「甲斐路」季刊№８６に掲載	花鳥山遺跡球根類オコゲ１点・ボタン状貝製品１点、住居址出土エゴマ１点、甲ツ原遺跡発掘調査遠景１点・近景１点・土器出土状態２点・掘立柱建物跡１点・発掘調査風景１点・住居跡２点、油田遺跡竪杵１点、経塚古墳墳丘正面１点・墳丘全景１点、大師東丹保遺跡建物跡１点・柱根１点・網代垣検出状況２点・甲府城跡稲荷曲輪櫓台出土輪宝１点・人質曲輪出土鬼瓦１点
40	1.15	日経ＢＰ社	「日経アート４月号　赤瀬川原平・山下裕二の日本美術応援団」に掲載	考古博物館展示室風景１点
41	2.24	日立デジタル平凡社・平凡社	ＣＤ－ＲＯＭ版百科事典「マイペディア」（仮称）並びにＣＤ－ＲＯＭ版「世界大百科事典」に掲載	殿林遺跡深鉢形土器１点
42	2.27	山梨日日新聞社出版局	「ザ・やまなし」３月号に掲載	金の尾遺跡風景１点・土器一括１点、油田遺跡木製竪杵１点、大師東丹保遺跡噴砂１点
43	3.6	文化風土社	「パノラマ歴史館」に掲載	安道寺遺跡深鉢形土器１点、一の沢西遺跡深鉢形土器１点・浅鉢形土器１点、上野原遺跡深鉢形土器１点、天神遺跡浅鉢形土器２点、花鳥山遺跡深鉢形土器２点
44	3.19	山梨日日新聞社出版局	「ザ・やまなし」４月号に掲載	長田口遺跡銅鏡１点、村前東遺跡風景１点

5　調査研究課課内研究グループ

本年度は５部会を設定し、以下のような内容で毎月末日ごとに自主研究を行った。

縄文部会　縄文部会では、昨年度に引き続き県内出土の縄文土器の集成を行った。この作業は草創期から晩期までの“縄文土器絵引き”を作成することを目的としており、そのために報告書毎に縄文土器を時期分類しつつ集成を試みたものである。当センター刊行の報告書・紀要・年報掲載資料については昨年度までの刊行分については終了したが、今年度刊行分や新資料の追加を行い、市町村刊行の報告書の集成を行っている。集成の方針としては、できるかぎり完形品を収載することとしているが、県内の特徴として中期に資料が集中し、草創期など完形品のない時期については破片資料でも掲載するようにした。来年度中には、古い時期から順次、配布を予定している。

古墳部会　県内の古墳編年は先達の努力によって方向性は導き出されているが、総合的な分布状況やグルーピングなどについてはいまだに確立されているとはいえない。そこで古墳部会では昨年度より県内の古墳に関するデータカードの作成を試みることにした。その手初めとして八代町において、1990年に八代町教育委員会より刊行された「遺跡詳細分布調査報告書」をもとに、約100基余りの古墳を竹居地区より北側に向かって網羅するようその分布状況を現地に赴き、調査した。その結果、南側山間部においては畑等の改修が急速に進み、古墳の位置すら確認が非常に難しい状況であった。このような現状から、当該地域のデータを早急に蓄積し、いち早くカードの公開ができるよう、努力しなければならない。

中・近世部会　当部会は、昨年に続き「山梨における中世土器の考古学編年の確立」を研究テーマに作業を続けてきた。地域性も考慮する中で、県内を５地域に分け各担当ごとに資料を収集し、編年一覧の骨組みを構えることを目的としてきた。かわらけの編年についての問題は共伴する陶磁器であるが、これもふくめた資料収集の完成までには至らなかった。一応、鎌倉時代の様相および戦国時代後半の実態はつかめつつあるが、その間の14世紀～15世紀の資料の検討が今後の問題として残された。来年度に期待したい。

考古教材研究部会　当部会は、センターに文化財主事として赴任した公立の中学校、及び高等学校の教員で構成され、また専門の文化財主事も参加した。今年度の研究活動として、月に一度の研究活動、また学校現場（県内小・中・高等学校）へのアンケート調査、学校現場向けの遺跡だよりの作成及び配布を行った。特にアンケート調査は、学校現場からの要望をまとめ、今後、専門の文化財主事と議論しながらセンターと学校現場との協力をはかっていく。

実験考古学研究部会　本部会は「遺構・遺物等の解釈について、実際に製作するなどの方法によってそのヒントを模索すること」を目的に設定された。今年度の研究テーマとしては主に「打製石斧」を取り上げるものとし、石器石材の収集・製作・使用実験などの活動を行った。これらの成果については、製作工程の写真や製作上の留意点などを盛り込んだ冊子としてまとめる予定である。来年度以降のテーマは未定であるが、土器・鉄器などの遺物を中心に「実験することによって明らかになる課題」について取り組んで行く予定である。

6　遺跡調査発表会

当センターでは、県内で実施された遺跡調査の内容を一般県民に広く知っていただくため、山梨県考古学協会と共催で年２回の遺跡調査発表会を実施している。例年のごとくスライドをまじえた口頭発表に加えて出土遺物や写真などの展示もおこなった。以下概要を述べる。

1996年度上半期遺跡調査発表会　（10月19日（土）　於：県国際交流センター　約120名参加）

１．寺所第２遺跡　大泉村西井出210番地外［大泉村教育委員会：伊藤　公明］　縄文時代中期の住居跡93軒、土坑約250基、平安時代の住居跡37軒（石製銙帯、「倉」の墨書土器等が出土）、掘立柱建物跡２棟が発見された。

２．村前東Ａ遺跡　櫛形町十五所297外［当センター：石神　孝子］　24ページ参照

３．中秣塚古墳　竜王町竜王地内・双葉町下今井地内［竜王町教育委員会：皆川　　洋］

直径約15ｍ、高さ2.3ｍの墳丘を検出し、石室からは直刀、金環、鉄鏃が出土し、また前庭部からは大甕、蓋、坏などの須恵器片が出土した。

４．松ノ尾遺跡　敷島町中下条・大下条地内［敷島町教育委員会：大嶌　正之］

古墳時代後期の住居跡５軒、平安時代中期から後期の住居跡19軒、土坑43基、溝跡５条、竪穴状遺構３基を検出し、平安時代の銅製の阿弥陀如来の坐像が二躰発見された。

５．武田氏館跡　甲府市古府中町中曲輪・味噌曲輪・笹堀［甲府市教育委員会：志村　憲一］

館の造営から武田氏滅亡後の再整備に至る、数時期に渡る遺構が良好な状態で検出された。

1996年度下期遺跡調査発表会　（３月８日（土）於：昭和町総合会館　約120名参加）

１．諏訪原遺跡　明野村上神取1556－１［明野村教育委員会：佐野　　隆］

平成７年度の発掘調査の結果、縄文時代中期後半から末葉の住居跡が44軒発見され、埋甕や石棒などが検出された。

２．富士登山道関連遺跡　富士吉田市上吉田［富士吉田市教育委員会：布施　光敏］

富士山一合目にあたる鈴原神社に直登するルートの存在が確認され、石造物や階段を形成していたと思われる木材や山小屋跡が発見された。

３．鰍沢河岸跡　鰍沢町明神町地内［当センター：新津　　健］　26ページ参照

４．十五所遺跡　櫛形町十五所吉田地内［当センター：保坂　一英］　20ページ参照

５．昭和町かすみ堤　昭和町河西地内［昭和町教育委員会：田中　大輔］

釜無川の氾濫に対する治水施設であるかすみ堤の構造と河川の氾濫による破壊のため堤を補修した様子が明らかになった。出土遺物として葺石と蛇籠や木杭などが発見された。

上半・下半期の発表会をとおして各発表者には発表の際一般の人たちにも分かるように努めて頂いた。また、下半期においては発表会場も当センター施設や甲府市内の会場ではなくあえて発表遺跡に近い会場を選んで行い、地元の人達をはじめ多くの参加者にきて頂いた。

7　山梨の遺跡展'97

本年度、当埋蔵文化財センターおよび市町村教育委員会が実施した発掘調査の出土資料・成果を、いち早く一般に公開することを目的に、当センター主催で実施した。

開催は、本年３月15日から４月６日まで、県立考古博物館特別展示室で入場は無料とした。

展示内容は、全体を①縄文文化と古墳文化、②埋蔵文化財センター展示、③市町村展示、④パネル展示、⑤科学の目で見る考古学の五つの構成に分けた。①では、整理調査の進んだ縄文時代の酒呑場遺跡と古墳時代の村前東Ａ遺跡に焦点をあて、両文化の比較展示を行なった。②では当センターが調査を実施した中の８遺跡を紹介した。③は、富士吉田市、敷島町、竜王町、昭和町各教育委員会より発掘資料を借用し展示した。④では資料展示よりも写真・パネルによる展示の方が有効的と思われる遺跡を取り上げ展示した。⑤は、「土器はどこからやってきたのか？」というテーマで、帝京大学山梨文化財研究所河西学氏の協力で、胎土分析から見た土器の生い立ちを顕微鏡の世界から紹介し、また塩部遺跡の保存処理した木器の展示を行った。

全体として、19遺跡300点以上の資料を展示した。本年度の傾向として、鰍沢河岸跡、富士登山道関連遺跡、昭和町かすみ堤など江戸時代から昭和初期の展示が目立ち、興味の対象とされた。展示方法としては、案内・解説・キャプション等の字体・文字数・文字の大きさ・内容・年代表記などに統一性を持たせ、平易な表現で見学者の年齢に関わりなく展示内容の理解度が深められるよう留意した。

8　第８回市町村埋蔵文化財専門職員研修会

山梨県内の市町村教育委員会等に勤務する埋蔵文化財専門職員の技術・知識の向上を目的とする『市町村埋蔵文化財専門職員研修会』を例年通り開催した。

第８回を迎えた今回の研修会は平成９年２月21日に山梨県立考古博物館風土記の丘研修センターを会場に実施した。今回の研修テーマは「土器復元の新技法」とし、講師には徳永哲秀氏（財団法人　長野県埋蔵文化財センター　長野調査事務所）をお迎えした。

研修テーマである「土器復元」は、整理作業においては避けて通ることのできない重要な作業工程であるとともに、時間・労力を要することから効率的な作業が望まれている作業でもある。また、将来的な展示・保管という文化財保護の観点からも、十分な復元に際しての技術・知識に関する項目はもとより、作業工程や人員配置などの効率的な方法にまで踏み込んだご講演をいただくこととなった。特に土器復元の効率的な復元方法については、参加者の関心が高く、莫大な量の土器復元を含む整理調査を担う市町村埋蔵文化財専門職員の苦労が窺えた。また、講演後には土器復元用の新素材である形状記憶樹脂やエポキシ樹脂などを実際に使用した実習も指導していただき、今後の山梨県内の埋蔵文化財保護業務の推進に役立つ研修会になったものと考えられる。

9　調査研究課課内研修

当センターでは隔月に一回程度の割合で「調査研究課課内研修会」を開催している。これは発掘調査に携わる職員が、様々な知識を得る機会を設けることを主目的としている。本年度開催した研修会は下記の通りである。

	開催日	講演・発表テーマ及び発表者	備　　考
1	1996. 4 .26	「兵庫県復興調査支援報告」 小林健二　当センター	支援職員として復興調査に参加しての報告
2	1996. 5 .31	「金属器の劣化防止方法」 ～出土金属器保存 『ＰＲシステム』の利用について～ 豊田拓男氏　㈱三菱ガス化学 「写真のコンピューター処理について」 村石真澄　当センター	発掘現場でできる金属器保存方法についての実例を交えた講演 Ｐｈｏｔｏ　ＣＤを活用しての報告
3	1996. 7 .31	「三次元形状実測機器のデモンストレーション」 長谷川信男氏・金沢龍秀氏　㈱樫村	コンピューターを利用した実測方法の講演
4	1996. 8 .30	「震災復興調査の様子」 小林公治　当センター	現在、復興調査を担当しての報告
5	1996.10.31	「土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム 『人類学講座・初級編』に参加して」 田口明子　当センター	96年六月に山口県で行われた講座の参加報告
6	1997. 1 .30	「歴史考古学の展望と課題」 坂誥秀一氏　立正大学文学部教授	歴史考古学の歩みと実例についての講演
7	1997. 2 .28	「考古資料教材化の今後の展望」 考古教材研究会　当センター	考古資料活用についてのディスカッション

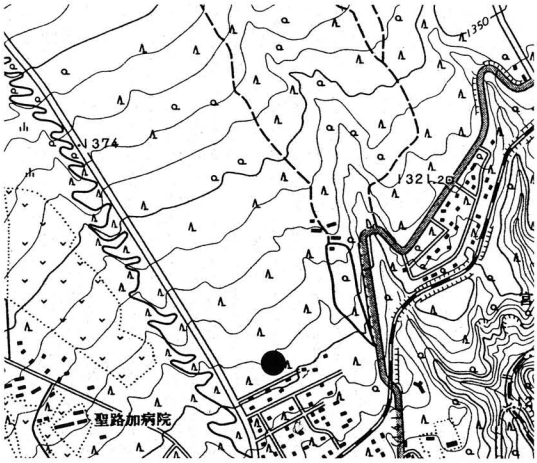
10　寄贈・購入図書

今年度の登録図書数は、約4,850冊に及ぶ。当所においては約33,000冊以上の蔵書があり、来所される方や、職員に幅広く活用されている。蔵書類は、主に全国各地の発掘調査報告書と考古学および日本古代史に関する概説書は当然のことながら、最近では中世・近世の歴史や民族史に係わるものなど種類を増やしつつある。図書室を開設して15年程になるが、最近の発掘件数の増加に反映されるように、全国各県・市町村教育委員会から寄贈される発掘調査報告書や、博物館・資料館などからの企画展示・常設展示図録の数は年々増加してきている。また、発掘による資料の増加は、研究者の研究活動にも拍車をかけ良質の論文が多く書かれている。研究機関として、最新の情報と資料を提供するため多くの図書を必要とするが、当所の登録図書の大部分は各関係機関から寄贈されるもので、今年度、購入した図書はその中の約150冊にすぎない。

Ⅱ　各遺跡の発掘調査概要

1．清里（きよさと）バイパス第１遺跡

所 在 地　北巨摩郡高根町清里3545－１
事 業 名　主要地方道須玉八ケ岳公園線（清里バイパス）建設
調査期間　1996年４月24日～６月12日
調査面積　3,000㎡のうち2,400㎡
担 当 者　山本茂樹・川手昌英



清里バイパス第１遺跡　位置図

山梨県の北西部に位置する八ケ岳山麓には広大な県有林があり、清里の森と称されている。その清里の森地内にバイパス建設事業が計画され、事業に先立って埋蔵文化財の有無の確認のため試掘調査が行われた。その結果、陥し穴が発見されたことにより、本調査が実施された。本調査は約１ヶ月半にわたって行われ、陥し穴の総数76基が確認された。

本遺跡の標高は1,306m前後で、県内でも高所に位置している。調査区は八ケ岳山麓が形成されているやせ尾根状の台地で、浅い谷が尾根の両脇に入り込んだ地形をなし、本調査区を挟む谷部特に北斜面部では、表土のすぐ下に礫層が形成されていることが確認され、本調査区に陥し穴が掘られたことも納得のいくところである。

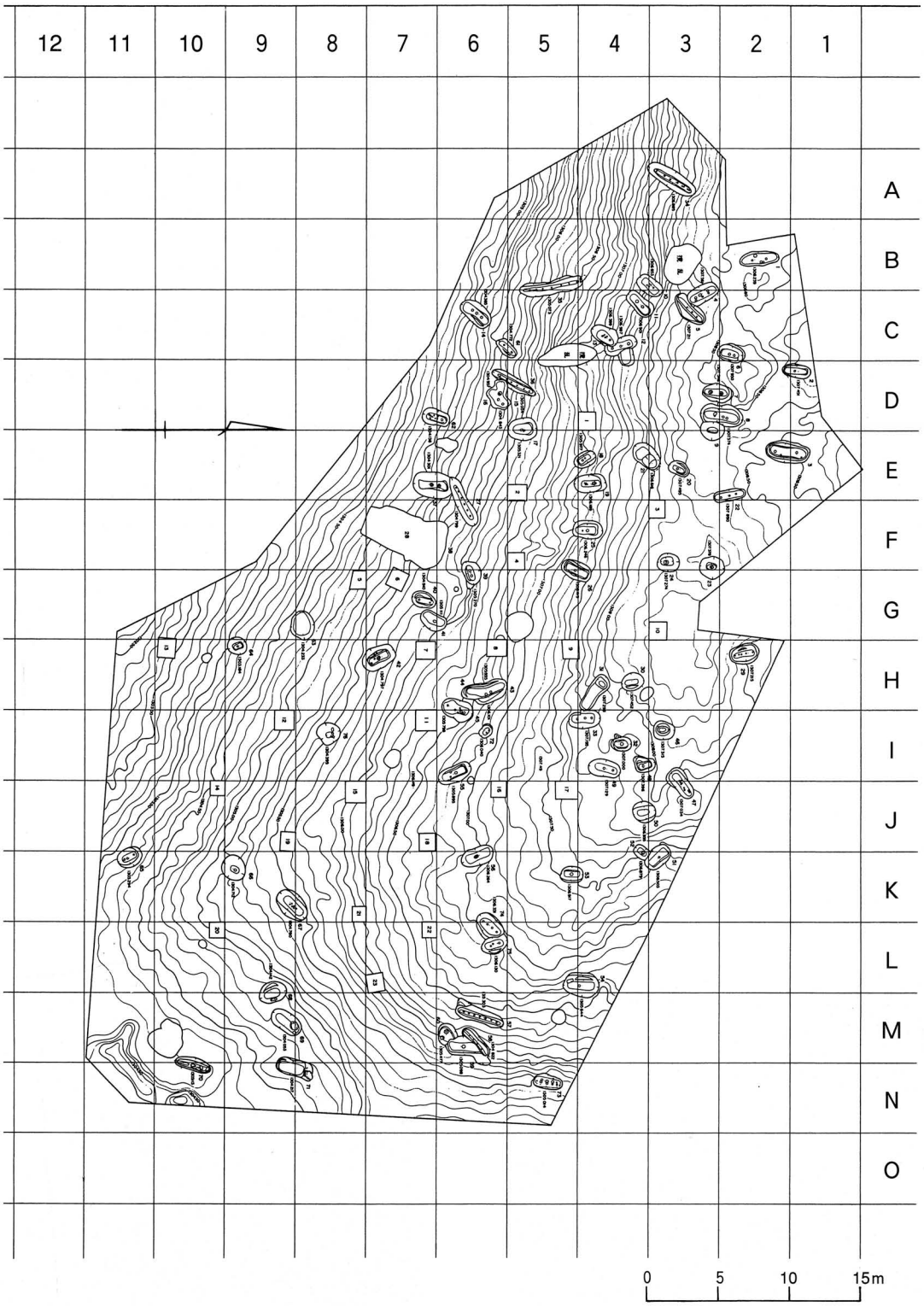
昭和60年度に本遺跡から北約100m、標高約1,317mの地点で調査がなされており、縄文時代中期の住居跡１軒と陥し穴が２基が発見されている。このようなことから、本調査区においても住居跡が確認されるのではないかと思われたが、結果的には確認されなかった。

調査は重機によって、ローム層の上面まで掘削を行い、ジョレンによって遺構の確認作業を行った。その後、５×５mのグリッドを設定し調査を行った。

調査区全体は黒色を呈する腐食土層に覆われ、厚いところでは80㎝以上も堆積している箇所もある。調査区の南側は谷が形成され、いつも水が湧きでている状態である。北側の谷では、腐食土層の下には、礫層が形成されている。

本調査の結果、縄文時代の陥し穴と考えられる遺構と、中世以降のものと思われる陥し穴が発見された。時期的な区分は、陥し穴に堆積した土のしまり具合と陥し穴の形態によって分けられる。特に中世以降と考えられる遺構は、細長い形態で底には６～７カ所程度の小穴が規則的に配されているのが特徴である。遺物については、陥し穴という性格上、発見することはできなかったものの、排土中より縄文時代中期後半の土器片数点を表採することができ、石器としては石鏃１点が発見された。また細長い中世以降と思われる陥し穴の底の小穴から、杭が打ち込まれたと考えられる杭の基部（根本）が３基の陥し穴から発見されている。それぞれ杭の端部は尖らせており、太さは1.8～3.4㎝を計測する。

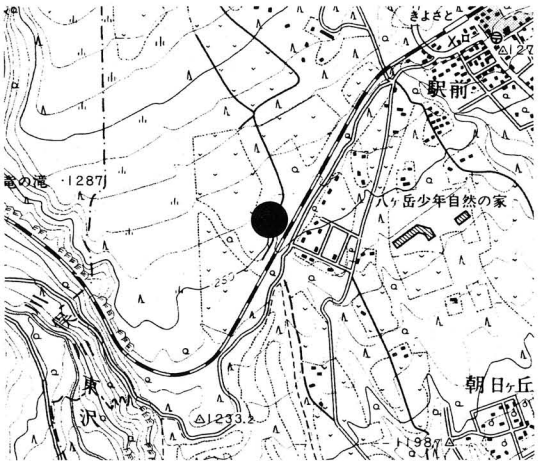
旧石器時代の遺構の確認作業は、23ケ所の試掘坑を設定しておこなったが、遺構および遺物は発見されなかった。



清里バイパス第１遺跡　全体図

2．清里（きよさと）バイパス第２遺跡

所 在 地　北巨摩郡高根町清里3545
事 業 名　主要地方道須玉八ケ岳公園線（清里バイパス）建設
調査期間　1996年７月29日～９月19日
調査面積　2,600m²
担 当 者　坂本美夫・川手昌英
　　高野玄明・雨宮芳夫



清里バイパス第２遺跡　位置図

本調査を行った清里地区は、通称「念場原」と称する台地上に広がる。この台地は、東を大門川、西を川俣川の深い谷によって切られ、八ケ岳の広大な裾野の一部を構成し、大半が森林や牧草地のため、遺跡の把握が困難な地域であり、本遺跡は、こうした条件下の標高約1,250m前後に立地する。今回の調査は、清里バイパス建設に先立つ試掘調査を行った結果、遺物が検出されたため、本調査に至った。調査は、表土（腐植土）を重機を用いて除去し、その後、遺物が検出された暗褐色・黒褐色粘質土を掘り下げた。その結果、遺構は全く検出できなかったものの、暗褐色・黒褐色粘質土中から縄文時代早期中頃の土器片や黒曜石製の有茎・無茎石鏃、それに黒曜石・チャート・シルト岩などの剥片が検出された。土器片については、楕円押型文や山形押型文を施すもの、縦方向の帯縄文を施すもの、半截竹管による押引文が施されるものなど、県内で、あまり出土例のない遺物が検出された。

本遺跡は、前述したとおり遺構は全く検出されておらず、また、調査面積から見ると遺物の総点数も少ない。これは、調査区東側において人頭大程の礫が流れ込んでいる状況が窺え、それと平行するように、小さな沢状の落ち込みが検出され、さらに遺物も流路と平行した状況で分布していることから、遺物が付近に存在していたと思われる遺跡から流入した結果であろう。

清里バイパス第２遺跡　調査風景

清里バイパス第２遺跡　全景

3．箕輪バイパス関係遺跡範囲確認調査

事 業 名　国道141号（箕輪バイパス）建設工事

①所 在 地　北巨摩郡高根町箕輪横森地内

調査期間　1996年10月29・30日

12月19・20日

調査面積　2,512㎡（7,000㎡）

担 当 者　坂本美夫・川手昌英

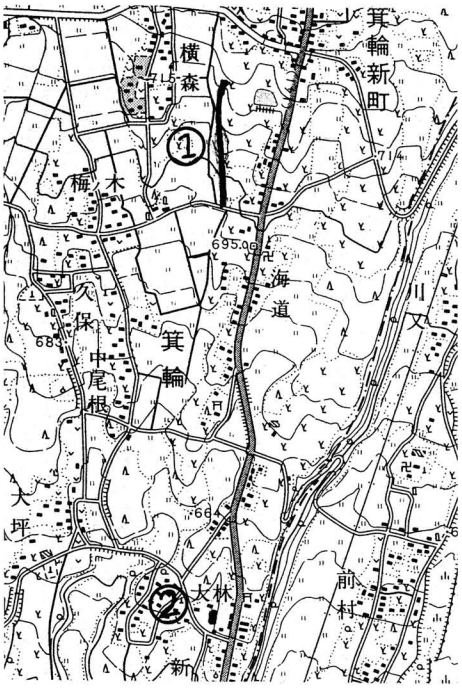
高野玄明・雨宮芳夫

②所 在 地　北巨摩郡高根町箕輪2601－２外

調査期間　1996年６月７日

調査面積　約70㎡（600㎡）

担 当 者　田口明子・米山　真



箕輪バイパス関係遺跡
範囲確認調査　位置図

①　用地買収が完了している道路用地内に、重機により試掘トレンチを設定し、範囲確認調査を行った。その結果、調査区中央付近の地表面に五輪塔が７基ほど確認されており、その内の５基ほどが箕輪バイパス計画路線内に分布していた。このため、地中にも五輪塔並びに下部遺構が存在している可能性も考えられることから、未買収地を除いた用地の一部分の掘り下げを行ったところ、深さ50㎝程の黄褐色粘質土（ローム層）上面より五輪塔の一部が確認され、さらに周辺から検出される可能性が非常に高いと考えられる。特に、注目されのものとして、おびただしい炭化材と炭化材中に焼骨が含まれる五輪塔の下部遺構が検出されている。遺構内にはカワラケがふせた状態で置かれ、炭化材下部には平石や焼土が検出された。五輪塔の下部遺構は、埋葬に関する遺構と考えられるもので、下部遺構の検出はこれまでほとんど例がない。下部遺構についても、周辺に分布している可能性が非常に強いものと考えられる。

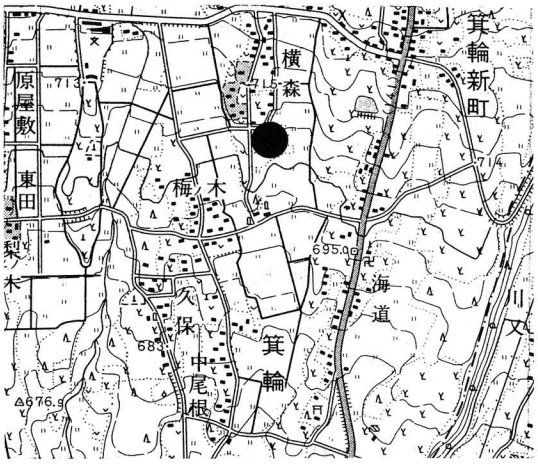
今回の調査により、検出された五輪塔や下部遺構については、遺物などから推定すると中世に造られたと考えられ、中世における県内の埋葬形態を知る上で貴重な資料となるであろう。

なお、遺跡が確認された部分について、来年度本調査を行う予定である。

②　昨年度、本調査した平安時代の集落跡である大林上遺跡の南隣において、範囲確認調査を行った。重機により幅約１m、長さ約12～20mの試掘トレンチを４箇所設定した。その結果、調査区の北側のトレンチからは何も発見できなかったが、ほぼ中央のトレンチからは古墳時代の土師器破片が若干出土した。また、南側のトレンチより古墳時代の土師器破片が数点、黒曜石の剥片が１点出土した。いずれの土師器破片も、ほとんど磨滅がみられないが、遺構は発見できなかった。

4．横森（よこもり）・横森前遺跡（よこもりまえ）

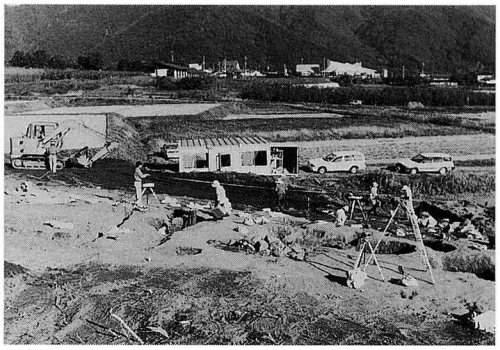
所 在 地　北巨摩郡高根町横森前636番地外
事 業 名　国道141号（箕輪バイパス）建設工事
調査期間　1996年９月24日～12月９日
調査面積　1,453㎡
担 当 者　坂本美夫・川手昌英
　　高野玄明・雨宮芳夫



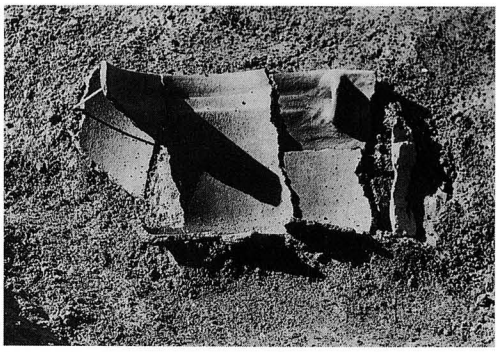
横森・横森前遺跡　位置図

横森・横森前遺跡は、緩やかに傾斜した八ケ岳南麓の裾野で、富士川と須玉川に解析された台地上の微高地に立地し、標高約700mに位置する。本遺跡は、箕輪バイパス建設工事に関わる調査で、高根町教育委員会の遺跡台帳にも登録されている遺跡である。調査に先立ち、表面採集による事前調査では少量であるが、縄文時代の土器片が採集されていることから、縄文時代の遺跡の可能性が考えられた。しかし、重機による表土剥ぎの結果、中世の遺物が目立つようになり、中世における何らかの遺構の存在が示唆された。その結果、主な遺構として中世の竪穴状の建物跡２軒、地下式土壙20基、小型の方形を呈する土坑24基、溝状遺構４条、掘立柱建物跡１棟などが検出された。竪穴状の建物跡について１号建物跡は、長辺4.5m、短辺3.5mの隅丸長方形を呈し、壁高0.7mを測る。床面はかなり踏み固められた状況が窺え、壁際には周溝や柱穴が廻る。今回の調査で、数多く検出され注目されるものに地下式土壙がある。地下式土壙は、竪坑と横坑とに分かれており、竪坑は長径0.6～1.15m、深さは遺構確認面より1.0～1.85m。横坑は最大幅0.75～2.76m、奥行き1.35～2.78m、深さは遺構確認面より2.0mを測り、底面形態は柄鏡状・羽子板状を呈するものが見られ、規模や形態は多様である。また、横坑の壁面には、掘削したときについたと思われる工具痕が明瞭に残っている地下式土壙が、数基ではあるが確認されている。地下式土壙周辺に見られる小型の方形を呈する土坑については、一辺が約1.0～1.5m四方の方形及び長方形を呈するもので、覆土中から土師質土器片や石臼・内耳土器などが伴って検出された遺構も確認されている。また、土坑底面から焼けた人骨片が検出された遺構もみられる。

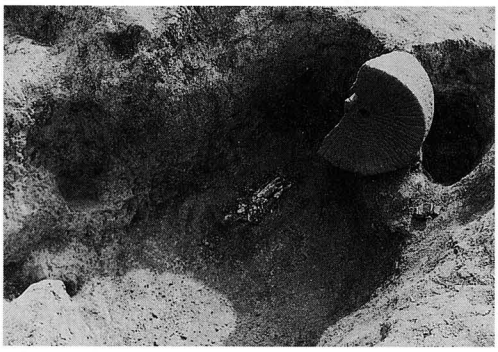
なお、本遺跡は東田・原屋鋪を遺跡名としていたが、誤記の為、遺跡名を変更し東田・原屋鋪から「横森・横森前遺跡」とした。



調査風景

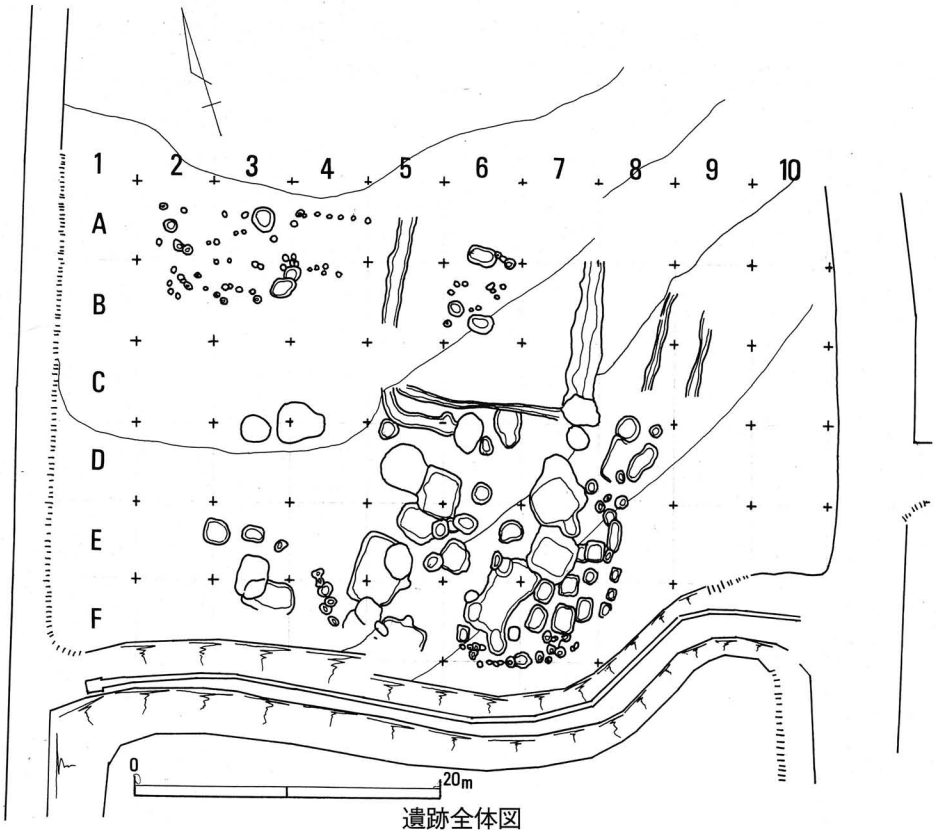


内耳土器　出土状況



25号土坑（人骨・石臼）出土状況

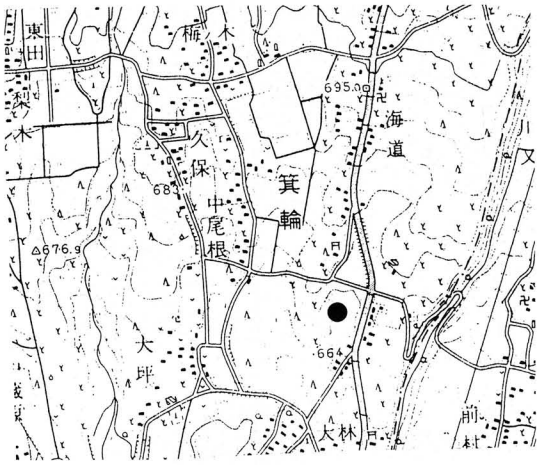
13号地下式土坑



遺跡全体図

5．宮の前遺跡

所 在 地　北巨摩郡高根町箕輪2343外
事 業 名　国道141号（箕輪バイパス）建設工事
調査期間　1996年４月22日～９月６日
調査面積　4,000㎡
担 当 者　田口明子・米山　真



宮の前遺跡　位置図

本遺跡は県北西部、八ケ岳を背景として南北に走る標高約670mの尾根の斜面上に位置する。国道141号（箕輪バイパス）建設事業に伴うもので1994年度に本調査に先立ち、10本のトレンチを設定して試掘が行われたが、その結果平安時代と思われる住居跡１軒、溝２条、炭焼窯、方形土坑、ピット群が確認され、遺物としては縄文土器１片が出土したことから今回の調査が実施された。

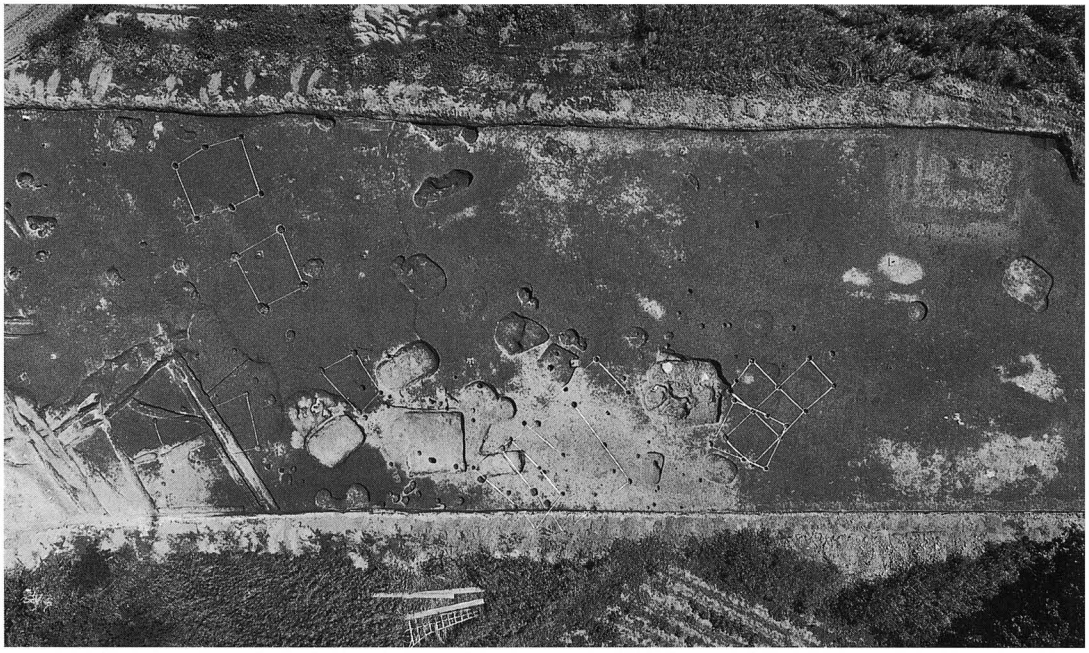
今回の発掘調査の結果、縄文及び平安時代の竪穴住居跡３軒、掘立柱建物跡10ないし11軒、時期不明の土坑約50基、方形土坑10基、集石土坑２基、焼土跡17基、中世以降とみられる溝21条などが確認された。

１号住居跡は長辺4.6m、短辺3.5mのほぼ方形で東側にカマドが位置しており、中心部にも焼土化した部分が認められた。また、床面の南半分ほどには厚さ２～６㎝ほどの貼土が施してあった。２号住居跡は、長辺3.2m、短辺2.8mの方形である。カマドは南東隅に位置し、その焼土及び貯蔵穴と思われる土坑の中からは坏が出土した。

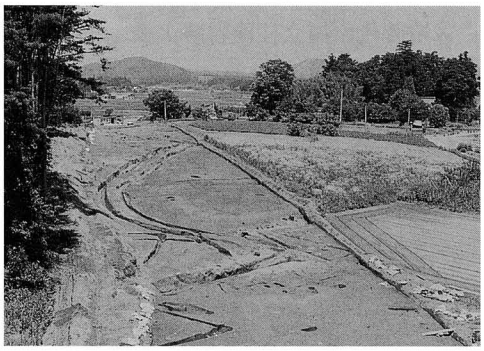
３号住居跡は確認面が浅かったため床面は確認できなかったものの柱穴と見られるピット５基が円形をなしており、また中心部に炉と見られる焼土跡が確認されたことから直径5.7m程度、縄文時代のものと思われる。焼土中からは坏が出土しており、また南西側には直径15㎝ほどの埋甕が確認された。１・２号住居跡と３号住居跡の中間付近では炉と思われる遺構が確認されたが、こちらも３号住居跡と同様確認面が浅かったため床面・柱穴等は確認することができなかった。

１号住居跡周辺及び２号住居跡の北西側には数十基の柱穴群が確認され、約10軒の掘立柱建物跡があったと推測される。溝についての詳細な時期は不明だが、壁や底にみられる工具痕から中世以降のものと思われる。深さ数十㎝ほどの浅いものと深さ１mを超える深いものの２種類があるが、遺物の多くが砂層から出土していることなどから水路として利用されていた可能性が高い。

その他の遺構としては集石土坑が２基確認された。特に１号集石土坑は直径1.6m、深さ50㎝ほどの円形で中心部に20～30㎝の深さで焼けた石が十数点入っており、底面からは平安時代のものと思われる鉄製品が出土した。

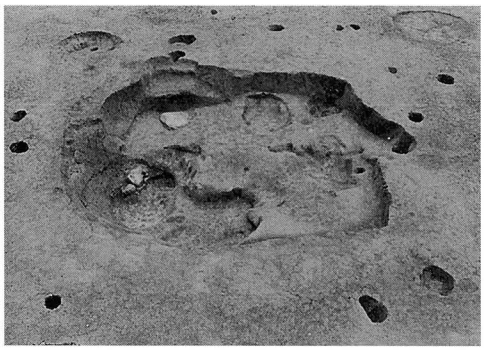


1・2号住居跡及び掘立柱建物群

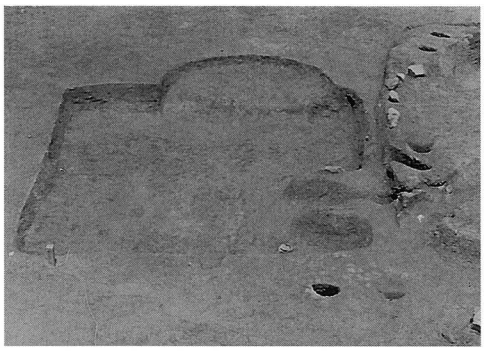


宮の前遺跡全景（南より）

4～9号溝



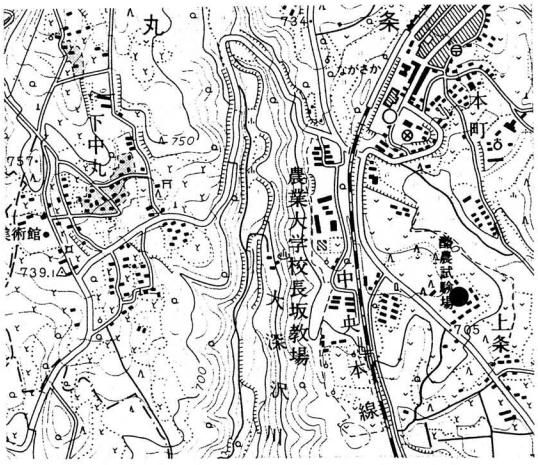
1号住居跡



2号住居跡

6．酒呑場遺跡（さけのみば）

所 在 地　北巨摩郡長坂町長坂上条621－２外
事 業 名　酪農試験場整備
調査期間　1996年４月15日～11月13日
調査面積　3,000㎡
担 当 者　保坂康夫・村松佳幸



酒呑場遺跡　位置図

酒呑場遺跡はＪＲ中央線長坂駅から南へ1.25㎞下った、大深沢川と宮川に挟まれた舌状台地上の、標高690～710ｍに位置する。1994年から調査が開始され、今年度で第３次調査となる。

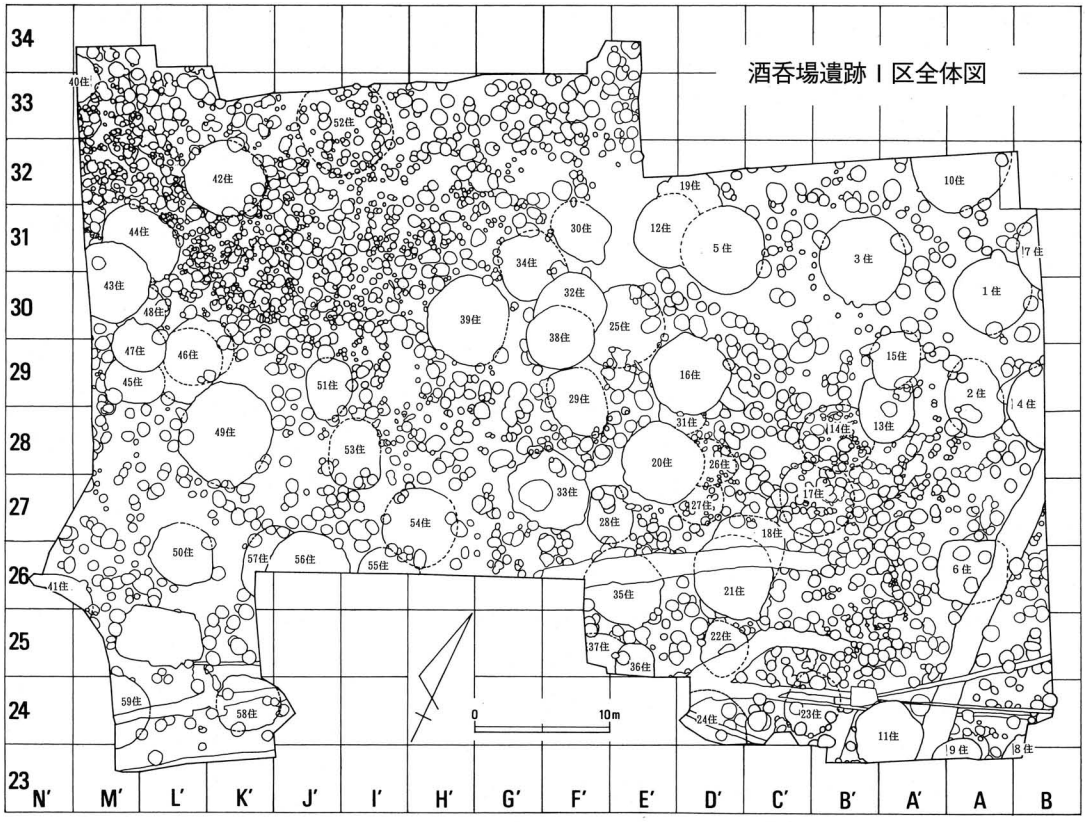
昨年度調査区Ｃ区のすぐ南側に搾乳牛舎が改築されるため、その範囲を昨年度からの続きでＩ区として発掘調査した。昨年度までの調査の結果、縄文時代では前期後半・中期前半・中期後半・後期前半の集落が確認され、特に中期の集落は大環状集落であることが分かった。そして、Ｉ区において、縄文時代前期後半・中期前半・中期後半の集落が重なりあっていると推定され、今年度の調査でそのことが確認された

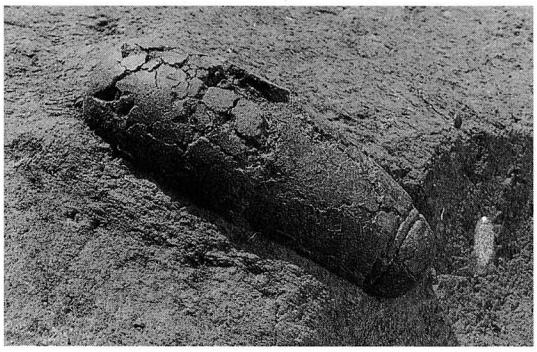
発見された遺構は、縄文時代前期後半の住居跡10軒・中期前半の住居跡47軒・中期後半の住居跡２軒・土坑約1800基・配石遺構９基・屋外埋甕13基、古墳時代の掘立柱建物跡１棟、古墳時代の掘立柱建物跡の柱穴と思われるピット１基、中世または近世のものと思われる溝１条である。配石遺構・屋外埋甕は主に中期末葉のものであり、中期前半集落の上に構築されていた。

出土遺物は、縄文時代前期から中期の土器・石器がプラスチックコンテナ（約40ℓ）にして約700箱分出土しているが、土偶・土鈴・さじ形土製品・玦状耳飾・土製耳飾・垂飾などの特殊遺物も出土している。その中でも男性性器をかたどった土棒（男根状土製品）が出土しており注目される。前期後半の第２号住居跡の床面から１～２㎝浮いたところから出土したのだが、その住居跡内には墓壙と思われる土坑があり、それと住居跡が一緒に埋められていた。そのような出土状況をみると、土棒は葬送儀礼に関わるものではないかと思われる。土棒（男根状土製品）は、全国的に見ても数例しか確認されておらず、しかもそれらは縄文中期以降、特に後期に多く見られるもので、今回出土したものが国内最古のものであろう。

また、第10号住居跡の南側壁際から、直径約26㎝の盤状台形土器と人頭大の粘土塊が並んで出土した。そして、すぐ脇の土坑の中からも、直径約18㎝の盤状台形土器とそれと同じくらいの大きさの粘土塊がセットで出土した。盤状台形土器と粘土塊がセットで出土することも珍しいのに、そのセットが２組も同じ住居跡から発見されたことは大変貴重である。

他にも、県内２例目となる「の」字状石製品や、製品にはなっていないが県内４例目の琥珀、昨年度調査に続いて漆塗り土器、そして、本遺跡では初めてとなる旧石器時代の石刃が１点出土している。

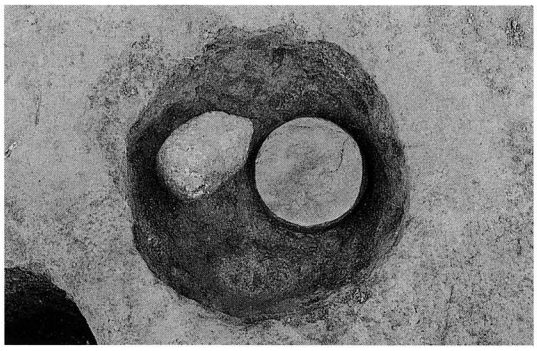




土棒　出土状況

住居跡　調査風景

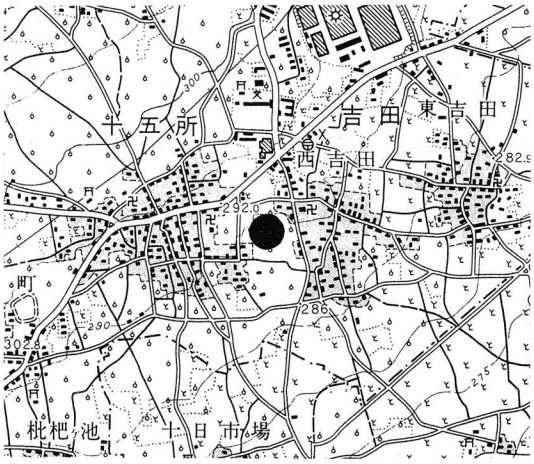
盤状台形土器と粘土塊（第10号住居跡南壁出土）



盤状台形土器と粘土塊（第10号住居跡ピット出土）

7．十五所遺跡

所 在 地　中巨摩郡櫛形町十五所吉田
事 業 名　一般国道52号改築工事
　　中部横断自動車道建設工事
調査期間　1996年４月15日～12月26日
調査面積　12,000㎡
担 当 者　米田明訓・保坂一英

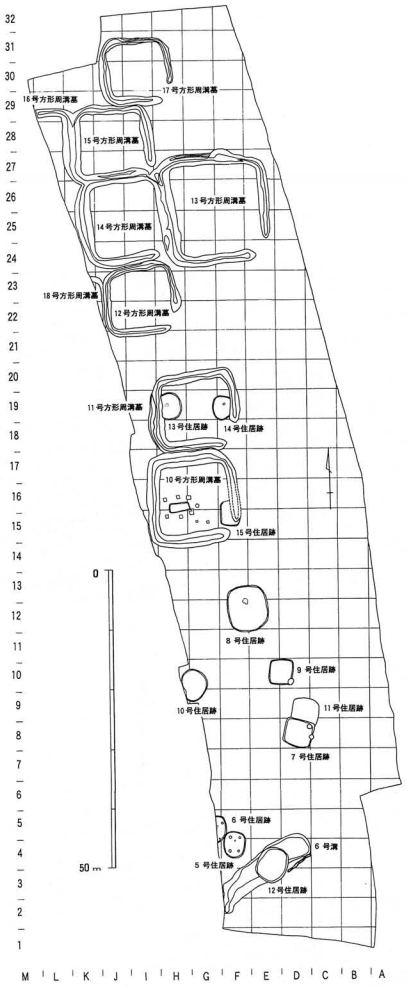


十五所遺跡　位置図

十五所遺跡は甲府盆地西部の中巨摩郡櫛形町に所在し、櫛形山を望む御勅使川扇状地の北西から南東に向かって広がる緩やかな傾斜地上の標高約290m付近に位置している。

発掘調査は国道52号（甲西バイパス）の改築工事と中部横断自動車道の建設工事に伴い、平成６年度から平成８年度までの３年間にわたって実施された。昨年度までは県道甲府櫛形線の北側が調査区域であったが、本年度は県道以南を発掘した。また、本年度調査区域を二つに区分し、県道甲府櫛形線の南70m付近を東西に走る町道より南をⅢ区、町道より北をⅣ区とした。発掘はⅢ区の南端より、地表から深さ約１m50㎝で掘り始め、Ⅲ区終了後にⅣ区の発掘を同様に南端より行った。

その結果、本年度分調査区域から、古墳時代と平安時代の住居跡がそれぞれ９基と２基の合計11基、弥生時代後期の方形周溝墓が９基発見された。過去３年間の十五所遺跡全体での遺構をまとめると、総調査面積25,300㎡の調査区域から、古墳時代と平安時代の住居跡15基と、弥生時代後期の方形周溝墓18基の遺構が確認された。このようにまとまった数の方形周溝墓が富士川以西の峡西地域で発見されたのは、初めての発掘例である。



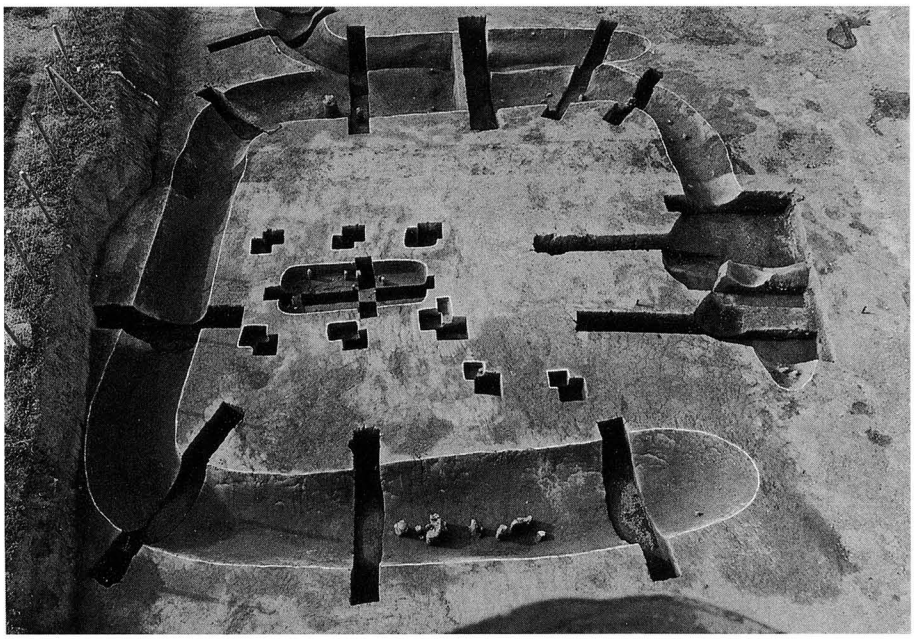
十五所遺跡Ⅲ区 全体図

方形周溝墓は死者を埋葬するための墓壙を囲む正方形の溝状遺構の形状や陸橋部に特徴があるが、本遺跡で確認された方形周溝墓の多くは、溝状遺構の長さがおよそ10m前後で、各辺の方向は四方位にほぼ沿っている。さらに、いずれの方形周溝墓も一つの陸橋部を四隅のどこかに持っている。この平面形態は、山岸良二（『原始・古代日本の墓制』1991、同成社）による関東地方（一部中部山岳地帯）の弥生時代後期代「多様なタイプ混在期」

に属すると思われる。また、数多くないが、底部に穿孔をもった小型壺型土器などが出土し、それらは葬送儀礼に使用されたことが想像される。たとえばⅣ区Ｄ３から出土した壺形土器の一部は推定高さ約11㎝・直径10㎝の小型土器で、底部に焼成後に開けられた1.8㎝×2.3㎝の長方形穿孔が有った。

発見された９基の方形周溝墓のうち、10号方形周溝墓（以下、10号墓と略記）では本遺跡唯一の墓壙を確認した。10号墓は一辺約16m、陸橋部は南東隅にあり、その中心よりやや西よりに幅約1.1m・長さ約3.5mの墓壙があった。墓壙低部の壁面や底面には赤い焼土があり、底面の西部には板状の炭化物がまとめて発見された。この炭化物が棺の一部か敷物であったかは定かではなく、分析の結果が期待される。また、この墓壙は周囲に６つの四角い柱穴を伴っており、注目を集めた。墓壙の南北に３つずつ造られた穴は、その中心から隣の穴の中心まで丁度２m間隔で造られていた。これらの柱穴は、遺体を正式に埋葬するまで仮に安置する上屋を設けるためのものであった可能性が高いと思われる。いわゆる「殯」の風習がすでに存在していたのかもしれないことが想像された。このような発見例について、本センター大塚所長は「東日本では初めてではないか。四角い柱穴は西日本でも例がないと思う。」と述べている。

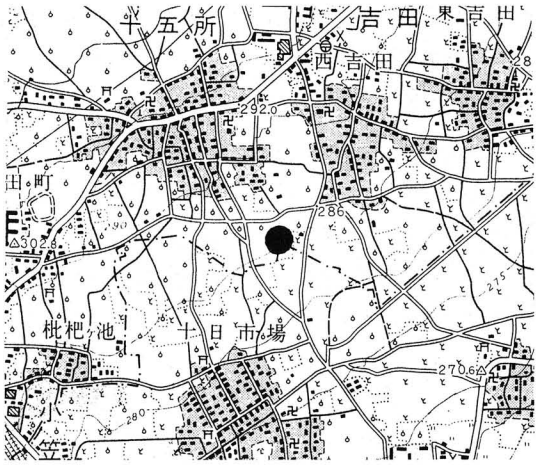
なお、本遺跡南に隣接する村前東遺跡では弥生時代後期の住居跡の確認はされたが、方形周溝墓が全く発見されていない。そのことから弥生時代後期に限って言えば、村前東遺跡が弥生人の住居域で、十五所遺跡が墓域であったと考えられる。



10号方形周溝墓全景（南上から）

8．村前東（むらまえひがし）Ａ遺跡（Ⅲ区）

所 在 地　中巨摩郡櫛形町十五所字村前東297外
事 業 名　一般国道52号改築工事
　　中部横断自動車道建設工事
調査期間　1996年４月15日～12月26日
調査面積　12,000㎡
担 当 者　三田村美彦・雨宮信仁



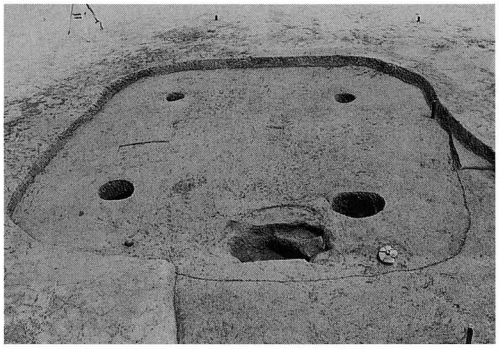
村前東Ａ遺跡　位置図

本遺跡は、甲府盆地西部の御勅使川扇状地扇端部の南側に位置し、標高約280mに立地している。本年は、中部横断自動車道インターチェンジ建設予定地内のうち、町道10号線南側の昨年度調査であった箇所をⅢ区と呼称し行った。本区は昨年度までに、近世から平安時代の調査を終了しており、今年度は古墳時代（３面）以前の文化層の調査となった。以下、各時代毎に概観してみたい。

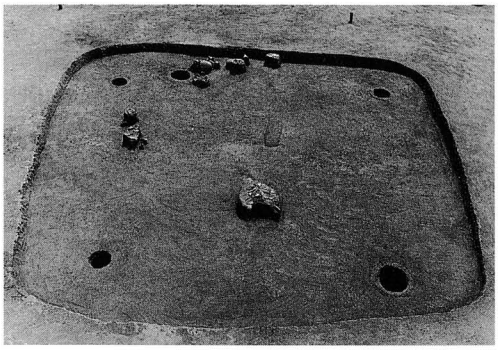
３面では古墳時代の住居跡24軒・掘立柱建物跡１棟が検出された。住居跡は調査区西側とほぼ中央に集中する傾向がみられ、その多くが複雑あるいは、隣接して構築されている。プランは一辺約５～７ｍの正方形を呈すものが主体となり、４本の主柱穴と炉跡が確認されるものが多い。炉跡は地床炉で、浅い掘り込みに粘土を貼ったいわゆる火皿をもつものや、縁辺の一部に凸堤を持つものが認められた。また、住居跡のコーナー付近には貯蔵穴と思われる凸堤の巡る土坑が検出されたものがある。掘立柱建物跡は群在する住居跡からやや離れた、調査区の北側で３×２間のものが１棟検出された。検出された遺構からは、壺・甕・ヒサゴ壺・高坏・器台・手焙り形土器など古墳時代前期に比定される古式土師器が多数出土している。これらのなかにはＳ字状口縁台付甕など、非在地系の土器が多く含まれている。

４面では昨年度検出された弥生時代水田跡の畦畔と思われる遺構の広がりを確認する作業を行ったが、今年度の調査区からは検出されなかった。また隣接するＶ区から、水田跡確認面よりさらに下層で、弥生時代中期に比定される条痕文土器の包含層が検出されたことから、本区でもその確認調査を行ったが、検出には至らなかった。しかし、Ｖ区で確認された層位の状況から、水田跡の構築時期が古墳時代前期以前、弥生時代中期以降にほぼ限定できるという成果が得られた。

1990年度から開始した村前東Ａ遺跡の発掘調査も、本年ですべて終了することとなる。インターチェンジ部分の調査ということで面積も広範囲にわたったが、確認された遺跡も大規模なものであった。また、弥生から近世に至る様々な遺構が層位的に検出され、その性格も多岐にわたる。これから本格的な整理作業を開始するが、各時代ごとに検討しなければならない問題が山積しており、遺跡の実態にどこまで迫れるか、今後の大きな課題である。

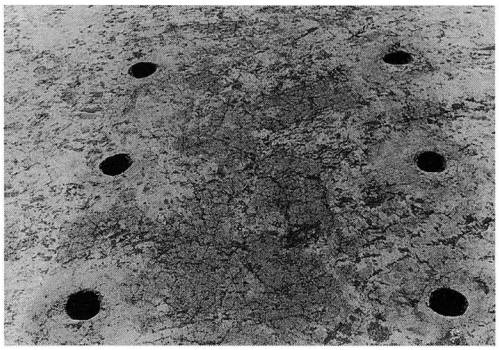


古墳時代住居跡（139号住）



古墳時代住居跡（146号住）

古墳時代住居跡遺物出土状況

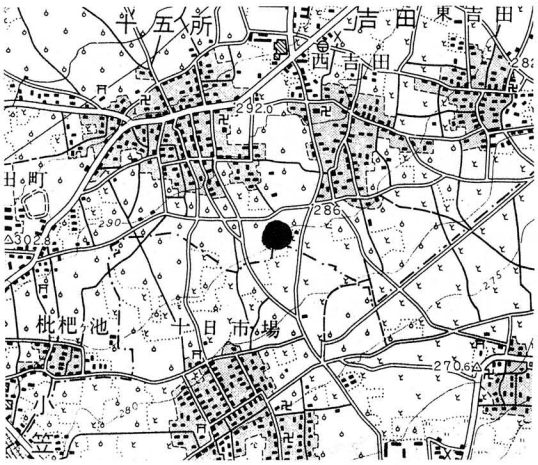


古墳時代掘立柱建物跡

村前東Ａ遺跡Ⅲ区　全景

9．村前東（むらまえひがし）Ａ遺跡（Ｖ区）

所 在 地　中巨摩郡櫛形町十五所字村前東297外
事 業 名　一般国道52号改築工事
　　中部横断自動車道建設工事
調査期間　1996年４月15日～12月26日
調査面積　17,850㎡
担 当 者　石神孝子・清水裕司



村前東Ａ遺跡　位置図

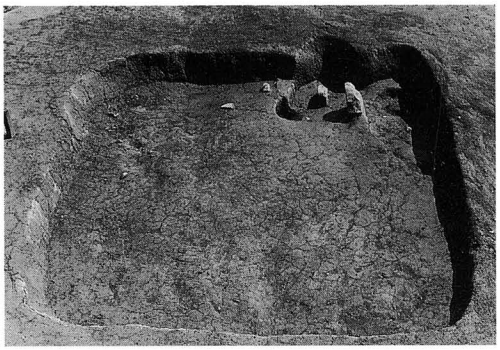
本遺跡は、甲府盆地西部の御勅使川扇状地扇端部の南側に位置し、標高約280mに立地している。本年度は、中部横断自動車道インターチェンジ建設予定地内のうち、町道10号線北側をＶ区として行った。本区では近世以降（１面）・平安時代（２面）・古墳時代（３面）・弥生時代（４面）の４枚の文化層が確認された。以下、時代毎に概観してみたい。

１面では、近世以降に構築されたと思われる溝状の遺構が検出された。このうち、掘り方のしっかりした溝状遺構の覆土には、砂礫が堆積しており、御勅使川の氾濫の影響を想起させるものである。遺物は、古墳・平安時代の土師器から近世陶磁器の破片が僅かに出土したにすぎず、詳細な時期を決定するには至らない。

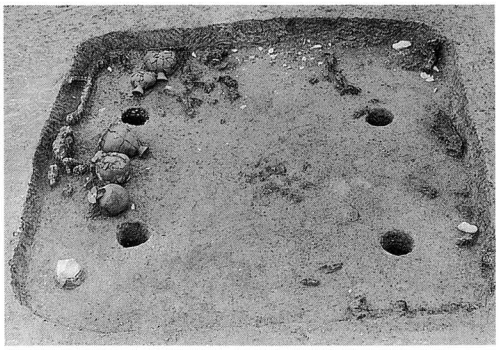
２面では、平安時代の住居跡10軒、掘立柱建物跡１棟が確認された。これらの遺構は調査区域南側半分に分布し、北側では確認されていない。住居跡は一辺２～４ｍを測る方形プランとなり、竈は東壁の中央から、南東コーナーにかけて構築されるものが多い。掘立柱建物跡は３×３間となる。遺物は主に住居跡から、土師器坏・甕、須恵器甕のほか、紡錘車・鎌等の鉄製品が出土している。

３面では、古墳時代の住居跡が５棟検出された。いずれも調査区の南側で確認されており、北側は平安時代同様遺構の分布はみられない。プランは一辺３～５ｍを測る方形となり、４本柱主柱穴となるものが多い。炉跡は床面を若干掘り込んだ地床炉の他、縁辺の一部に礫を配するものがある。住居跡からは古墳時代前期に比定される壺・甕・高坏などが出土している事から、町道10号線を挟んで南側のⅢ区で確認された、当該期集落の一部と考えられる。

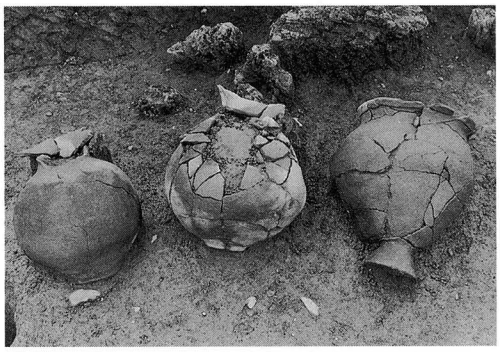
４面では、弥生時代水田跡の確認を行ったが、本区では検出されなかった。しかし、水田跡確認面よりさらに約２ｍ下層から、弥生時代中期に比定される条痕文土器の包含層が確認された。本層は、暗褐色を呈する粘性の強いシルトで一部砂礫層に浸食されており、残存状況は悪く構築と思われる落ち込みは認められない。出土した土器は、いずれも外面に条痕を施す胴部破片で、点数も十数点と少なく器形の窺えるものは皆無である。ただ、今回の調査で、昨年Ⅳ－ａ区で検出された水田跡の時期が弥生時代中期以降、古墳時代前期以前に構築されたことが確認されたことは大きな成果であった。



平安時代住居跡

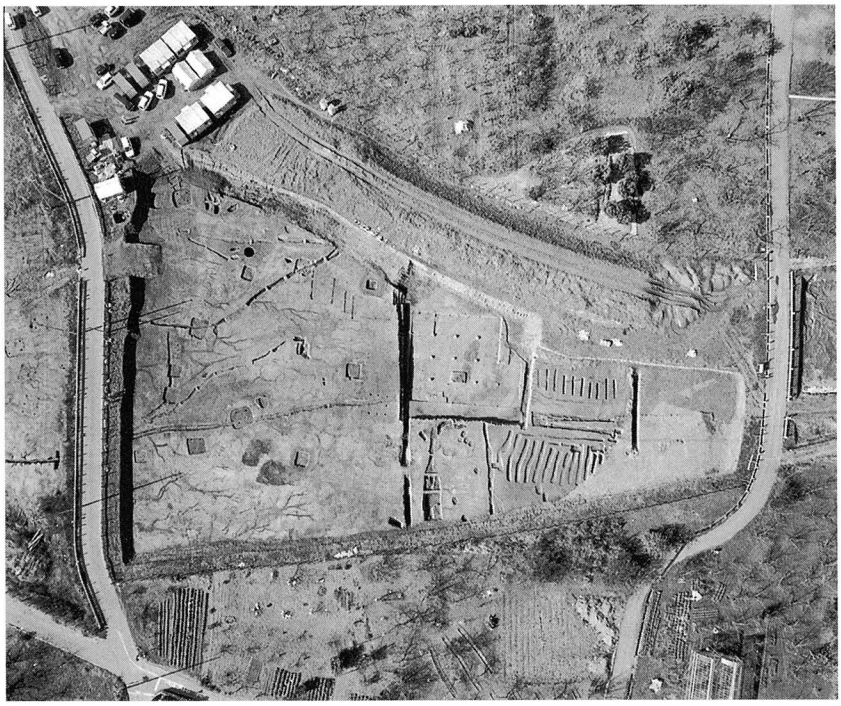


古墳時代住居跡



古墳時代住居跡遺物出土状況

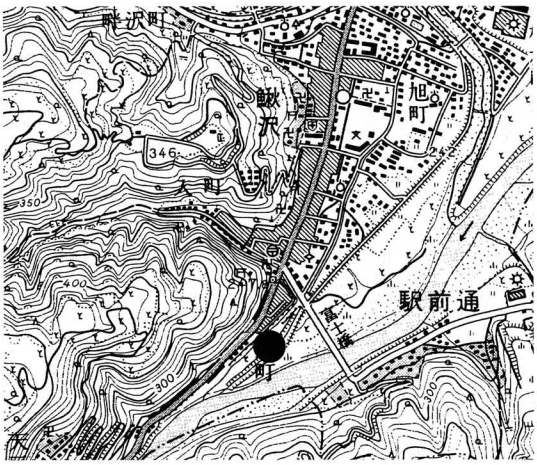
作業風景（弥生時代）



村前東Ａ遺跡Ｖ区　全景

10. 鰍沢河岸跡（かじかざわかしあと）

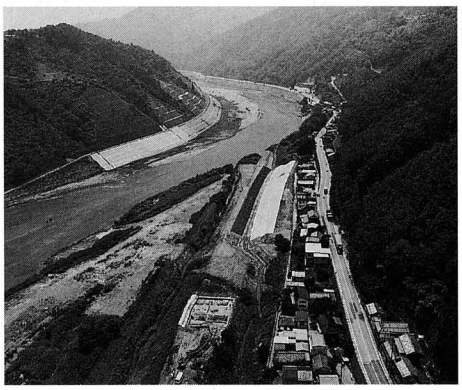
所 在 地　南巨摩郡鰍沢町鰍沢字明神町地内
事 業 名　富士川改修
調査期間　1996年５月８日～８月８日
　　1996年10月７日～11月29日
調査面積　約3,000m²
担 当 者　新津　健・萩原孝一



鰍沢河岸跡　位置図

甲府盆地の南端、富士川中流右岸に位置する鰍沢河岸跡は、標高約245ｍを測る。本遺跡は、富士川改修に伴うものである。

鰍沢河岸は、江戸時代に開かれた富士川水運の三河岸（鰍沢・黒沢・青柳）の一つとして知られ、岩渕～蒲原～清水を経て江戸蔵前に至る年貢米の輸送に大きくかかわった。明治時代になると、富士川運輸会社を始めとして、いくつかの水運会社や陸運会社が設立され、山梨のみならず長野県南部をも含めた交通・経済の要所として栄え、特に明治20年代から30年代前半がその最盛期であったと伝えられている。しかし、明治36年の中央線、昭和３年の富士身延鉄道の全通により、輸送拠点としての任務を終えた。


鰍沢河岸跡を北東から眺む

今回の発掘調査では、主に三つの生活面が確認された。これらの面は硬く踏み固められており、かつての地表面であったことが分かる。まず最も上層にある第一面は、現在の地表下約１ｍの深さのところに広がっており、蔵の入り口と見られる石敷（一号建物）や水路跡、それに道と思われる石列などが確認された。これらの建物が壊された跡からは、著しい量の陶磁器や目薬・ビール・牛乳・糊などのビン類、硯・水滴・石盤・石筆などの文具、キセルの雁首、かんざし、泥面子などのおもちゃなど、当時の風俗を物語る遺物が多数出土している。

第二面はさらに50㎝ほど下がったところにあり、ここからは礎石をともなった建物跡が確認された（２号建物）。赤瓦が散乱していることから瓦葺きの建物であったことがわかる。この建物の全面（南側）には、土手状の高まりが何筋も並んで発見されたが、これは野積の荷物置き場と推測される。全面から陶磁器や古銭が出土している。

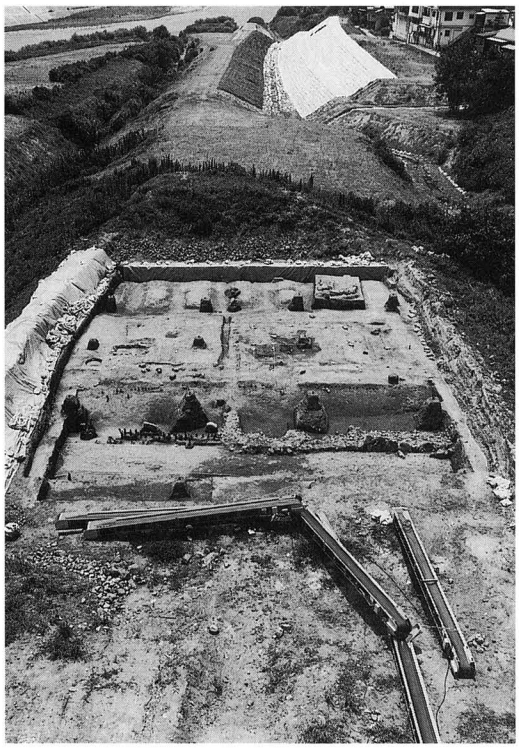
第三面はさらに30～40㎝下である。特に、２号建物の下には一回り小さい２×３間の範囲に礎石が並んでおり、これを３号建物とした。この建物の西側や南側は庭になっており、第２面と同様の荷積用の高まりが規則正しく並んでいる。

これら三つの生活面の時代は、陶磁器や古銭などから判断して、第一面が大正時代から明治後半頃、第二面が明治前半期、第三面が江戸時代のものと考えられる。特に第三面の３号建物から

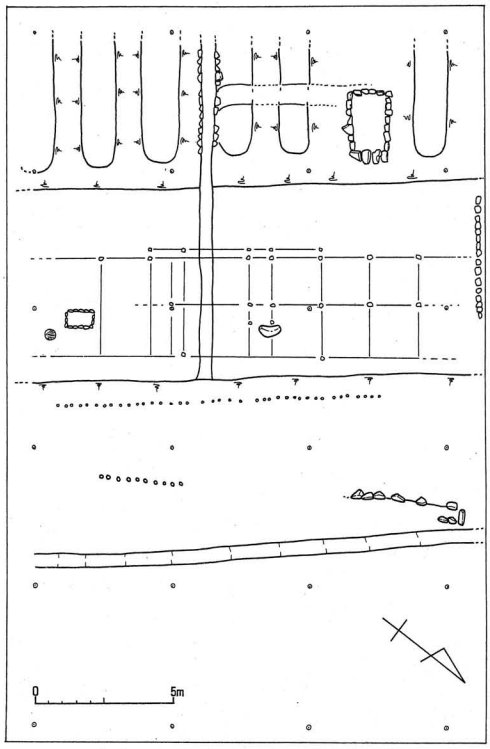
は、18世紀後半と見られる「くらわんか碗」が出土している。また、古銭については、第一面と第二面とからは「一銭」「二銭」銅貨が出土するのに対して、第三面からは「銭」貨は全く出土せず、すべて「寛永通宝」となる。

さらに、建物など施設の性格については、第三面が甲府代官所米蔵にかかわる御蔵台、第二面と第一面とが御蔵台を引き継いだ富士川運輸会社の倉庫施設という見方ができる。特に御蔵台とした理由は、第三面建物の北側に杭列が走り、ここから急傾斜で１m程下がり再び杭列が走るといった施設が見つかったからである。御蔵台とは周囲より一段高く土盛りされた場所を指し、なおかつ矢来で囲まれていたと伝えられているからである。この杭列の外側には３尺から一間幅の道の跡が重なって確認された。船着き場に至る道と考えられる。

以上の各面や諸施設は、幾重にも細かい砂の層に覆われており、何度も水害を受けたことがわかる。今後の整理作業や文献資料等の検討から、河岸施設の復元が期待される。



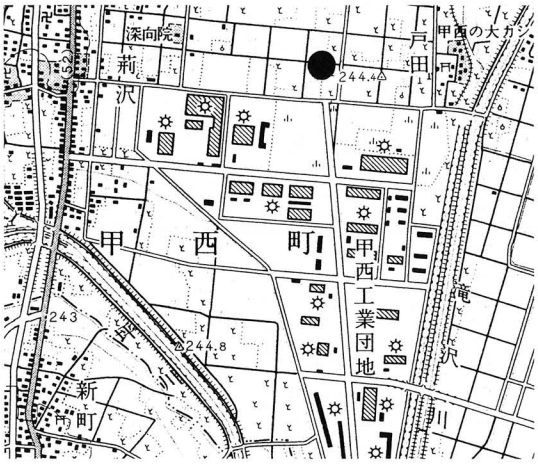
鰍沢河岸跡　調査区全景



鰍沢河岸跡　全体図（略図）

11. 宮沢中村遺跡（みやざわなかむら）

所 在 地　中巨摩郡甲西町宮沢字東宮沢
事 業 名　一般国道52号改築工事
　　中部横断自動車道建設工事
調査期間　1996年７月１日～11日　11月26日～12月16日
担 当 者　新津　健・萩原孝一
調査面積　300㎡



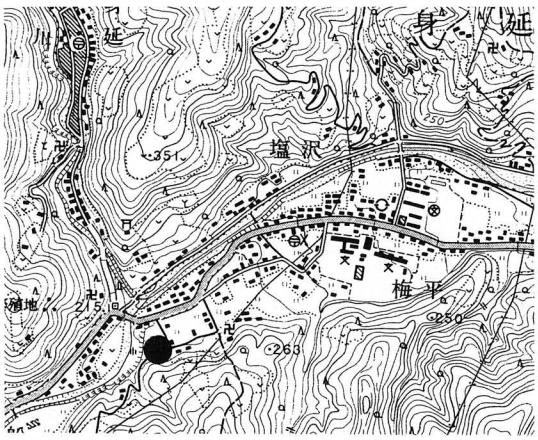
宮沢中村遺跡　位置図

本遺跡は富士川右岸の標高244ｍの沖積地に位置する。通称甲西バイパスの建設に伴いこの遺跡は既に平成６年度に発掘が実施され、江戸時代後期の村と寺および中世前半期（鎌倉時代）を中心とした遺跡であることが確認されていた。今年度の調査は、前回移転が済んでおらず調査できなかった墓地部分である。

わずかな調査区域ではあったが、江戸時代の寺跡（大正年間に現位置に移転された法浄寺）の本堂部分に該当しており、その礎石の大半が発掘された。前回調査の成果と合わせて、６間×４間の建物規模が確認できた。出土遺物は染め付け磁器や土器類、それに五輪塔部材などである。また、本堂の北側から横倒しの桶に埋葬された人骨も確認できた。

12. 梅平本田遺跡（うめだいらほんでん）

所 在 地　南巨摩郡身延町梅平字本田
事 業 名　一般国道52号改築工事
調査期間　1996年８月27日～10月８日
担 当 者　新津　健、萩原　孝一
調査面積　600㎡



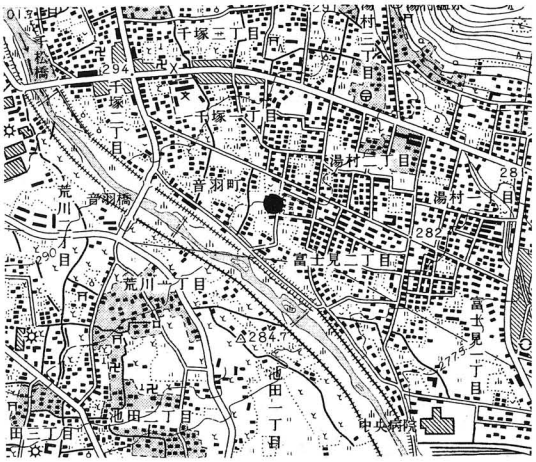
梅平本田遺跡　位置図

本遺跡は、富士川の支流、波木井川の右岸に発達する河岸段丘上に位置する。付近には町史跡に指定され、昭和57年に発掘調査の行われた南部氏館跡がある。今回の調査区域は通称身延バイパス建設に伴う平成７年度の試掘調査で発見されたものである。

調査の結果、平安時代から中世初頭と見られる、鍛冶遺構１、建物跡２、柱穴列２などの遺構が発見された。鍛冶遺構は調査区外に延びることから半分が調査できただけであるが、床面中央の穴から鉄滓や鍛造剥片が多く出土している。遺跡全体からの出土遺物は少ないが、平安時代の甲斐型坏や甕の破片、中世渥美系や常滑系甕の破片などが出土した。発掘例の少ない河内地域にあって、古代の川合郷や南部氏の実態を知る上での資料を提供した。

13. 音羽（おとわ）遺跡

所 在 地　甲府市音羽町４番
事 業 名　音羽県職員宿舎建設工事
調査期間　1996年９月３日～12月26日
調査面積　約1,050㎡
担 当 者　田口　明子・米山　　真



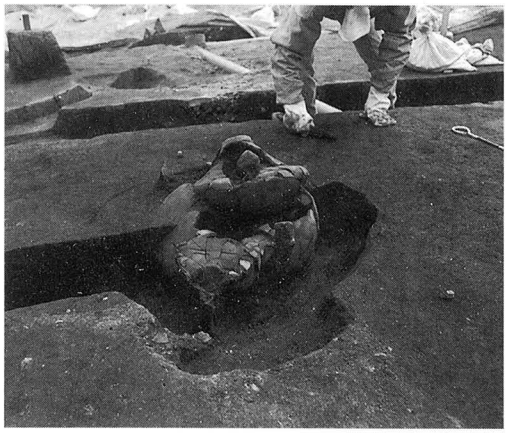
音羽遺跡　位置図

甲府盆地北部の荒川左岸に位置する音羽遺跡の発掘も、今年度で３回目となった。これまでに発見された遺構は、弥生時代後期・古墳時代後期～奈良時代初頭の住居跡８、土坑14、溝状遺構13である。今年度は、１、２回目の中間に位置する地区を発掘調査し、古墳時代後期～奈良時代初頭の住居跡２、土坑10、溝状遺構12、他に集石３、焼土跡１などを確認した。

２号住居跡は、東西約4.5m、南北約3.9mのやや東西に長い隅丸方形を呈する。カマドは北壁の東よりにあったと思われるが、焼土と粘土が面的に残っているのみである。壁は、確認面からの深さ約10～35cmである。遺物は甕の破片が出土している。３号住居跡は、南壁を確認できなかったため、南北の規模は不明だが、東西約4.3mの隅丸方形と思われる。確認面からの深さは約５cmである。カマドは北壁の中央よりやや東側にあるが、西側は後世の攪乱を受けている。遺物は甕・鉢、坏の破片などである。４号土坑は、90×70cmのほぼ円形を呈し、覆土中に４個体の土器がつぶれたように発見された。まず、口縁部と底部が欠けている壺が横位にあり、その上に口縁が欠損した壺が逆位に被さっている。その脇には鉢が横位にある。また、下の壺の横には口縁部の欠けた甕が横位にある。

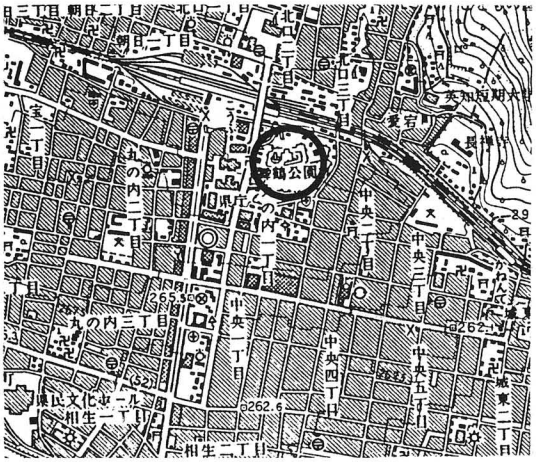
遺物は縄文時代前期から後期、弥生時代後期、古墳時代後期から奈良時代初頭にかけての土器と石器が出土した。昨年度と同じく、多数の昆虫遺体が発見され、本遺跡の自然環境を知る上で大きな手がかりとなるだろう。

調査区　全景


４号土坑

14. 甲府城跡（県指定史跡）

所 在 地　甲府市丸の内１丁目５番地内
事 業 名　舞鶴城公園整備
調査期間　1996年４月８日～1997年３月31日
調査面積　約7,000㎡
担 当 者　八巻與志夫・﨑田　哲



甲府城跡　位置図

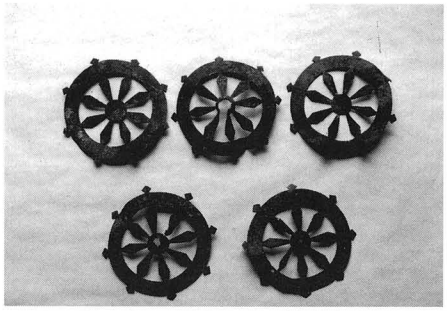
舞鶴城公園整備事業に伴う県指定史跡甲府城跡の発掘調査も本年度末で満７年を迎える。

本年度は稲荷曲輪櫓台・北腰石垣、本丸、鉄門下階段、中ノ門、銅門南腰石垣、内松陰門などで調査を行い、一部は継続中である。以下に本年度調査の概要をまとめるが、内容については1997年２月現在のものであることを断っておく。

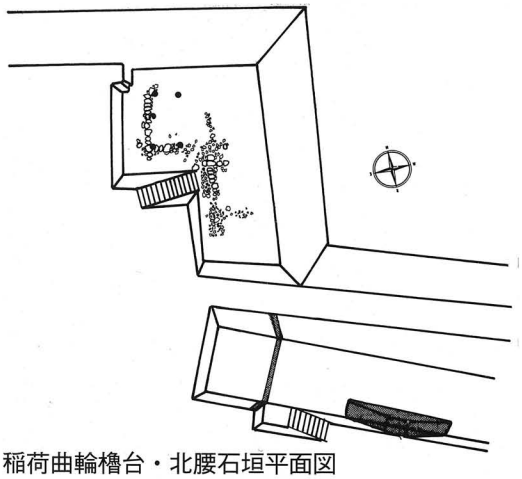
まず昨年度から継続して行った稲荷曲輪櫓台の遺構調査を挙げてみたい。稲荷曲輪とは、県立青少年科学センターが建っている一画を称し、櫓台はこの施設の北側に位置する。この台上では、密教法具である「輪宝」が５点、検出された。このうち１点は、原位置から移動している痕跡があるが、残りの４点は、いずれも台上に存在した櫓の母屋の部分にあたる礎石の下から出土しており、櫓建築の際に行った地鎮のための鎮壇具として使用されたものとみられる。この櫓の建築時期、及び「輪宝」の使用時期については、櫓台西面石垣解体に際して、裏側から崩落痕のある旧石垣が検出されたこと、解体前の石垣面は江戸中期の絵図には既に確認されること、解体した石垣の根石下より浅野家の家紋である「違い鷹の羽」紋を有する鬼瓦が検出されたことなどから、崩落した石垣の上に存在した櫓は築城期のものであり、その建築に先立つ「輪宝」も築城期のものであると判断できる。

また稲荷曲輪を取り囲むように築かれている腰石垣のうち、県立青少年科学センターの北、前述の櫓台の南に当たる部分より、石垣解体に伴って旧石垣面、及び旧合板が検出された。現在、公園東からスロープ状に設置されている出入口は、大正年間、謝恩碑建造の際に開設されたものであり、江戸期の絵図では出入口は確認されないが、検出された旧石垣面は櫓台と腰石垣が元来分離しており、ここ虎口があったことを示す。解体した石垣面の状態を考慮すると、築城後、石垣構築技術の差が生じない時期に縄張りの変更が行われていたことを実証するものである。また旧合板についても、江戸期の絵図では確認できず、周囲の状況から前述の旧石垣面が埋め殺されたのと同時期に封印されたものであろうと思われる。

次に本丸における調査を挙げる。本丸とは、天守台の西下に位置する区画を言い、江戸期の絵図では中央部に御殿が確認できる。当初、江戸期の生活面を発掘していたが、礎石等、建物の遺構は皆無であった。しかし、地山もしくは築城当初の地表面と考えていた層の下方より金箔瓦を検出したため、改めて縦横断に試掘を行ったところ、金箔瓦を有する層が数層ごとに点在し、また岩盤に近い層には、築城期のものと考えられる瓦が多数存在していることが明らかになった。更には大量の石材が岩盤から切り出された痕が確認され、岩に刻まれた矢穴は、いずれも築城当

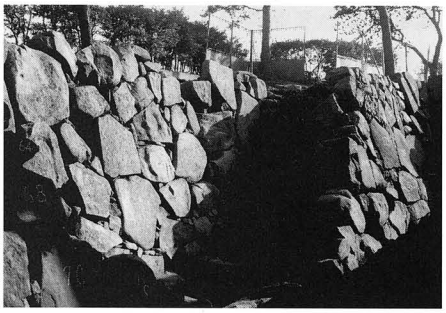


稲荷曲輪櫓台出土「輪宝」

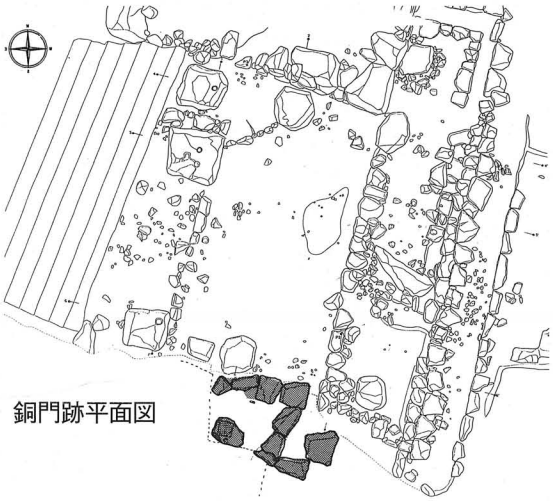


稲荷曲輪櫓台・北腰石垣平面図

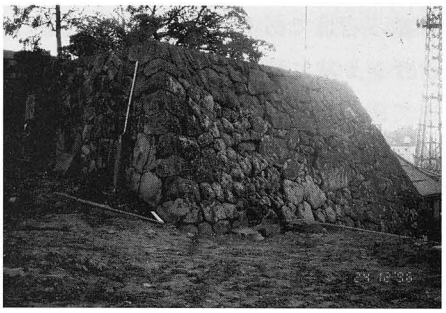
稲荷曲輪北腰石垣「旧石垣」



稲荷曲輪北腰石垣「旧合坂」

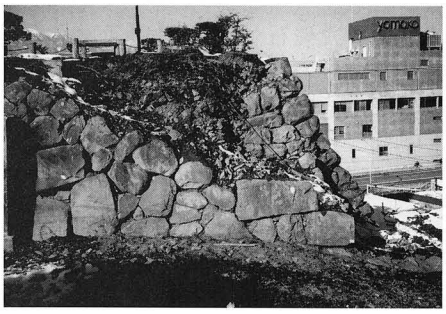


銅門跡平面図



銅門南腰石垣解体前

銅門南腰石垣解体分出土「旧石垣」及び「礎石」



銅門南腰石垣解体直後

初のものとほぼ同様の大きさを有していた。前述の稲荷曲輪の縄張り変更の痕跡と同じ、築城後、比較的早い時期に本丸中央部が掘削され、岩盤から石材を切り出し、その後の大穴に大量の瓦が埋め、再造成した可能性も考えられる。なお、本丸の調査は継続中で、現在、中央部全体を一層ずつ掘り下げ、試掘によって確認した面ごとの精査を行っている。

本丸中央部調査風景

この他、鉄門下階段、中ノ門、銅門南腰石垣、内松陰門などで調査を行ったが、それぞれについて簡単に述べてみたい。

鉄門とは、本丸の南出入口を言う。鉄門下階段は、鉄門と天守曲輪を直接結ぶ通路である。花崗岩によって構築された現在の階段は近年のもので、元来の階段面は鉄門の礎石の位置から考慮して、現在より20°ほど振れていたと思われる。本年度は東半分の現階段を解体し、調査を進めたが、現階段を設置する際に掘削されたおり、遺構の確認は不可能であった。

中ノ門とは、鉄門から天守曲輪に降り立ち、西に折れ下る通路にあった。ここからは門柱の礎石跡とみられる直径約80㎝の穴の確認され、また門の際の雨落側溝とみられる石組水路、更に天守曲輪に登る階段のうち３段ほどが確認された。なお現状では天守曲輪から議員会館に向かう通路は、スロープ状に緩やかな左カーブを描いているが、元来は直線的な通路であったことも確認されている。

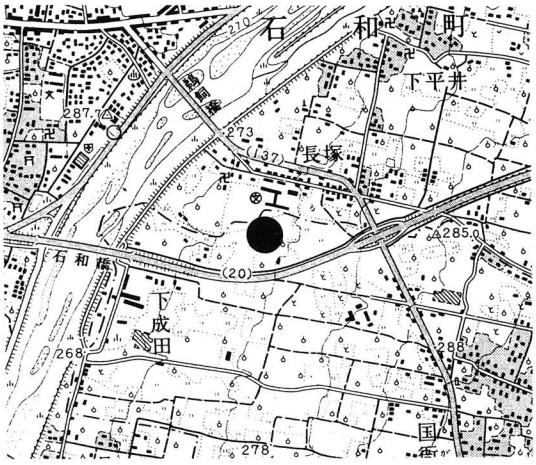
銅門とは、本丸の西側出入口を言い、二重の櫓門であったとされている。南腰石垣は、この櫓が載る石垣である。現状の東面石垣は、後世の積み直しであるため解体したところ、北東隅よりクランク状に積まれた旧石垣面が検出され、銅門の礎石１石と、門の材料であろう鉄釘２点、そして礎石を覆うように焼土が確認された。検出された旧石垣面は過熱によって破砕しており、文献によって知られる享保12年の火災を裏付けるものと判断している。しかし火災を受けた痕跡のある旧石垣は、築城期のものではなく、その後、更に確認された旧石垣面などを考慮すると、同所は数回にわたって改修されていることが推測される。

内松陰門とは、銅門下の階段を下り、北に折れて柵門をくぐり、階段を下り、更に西に折れて階段を下りたところに存在した。現在、武徳殿が立っている区画（二の丸）の北方である。門のものと思われる礎石１石と、柱穴１穴が確認されている。石列も確認されたが、石列の一部には、転用された礎石が認められたため、後世のものであると判断した。

以上、７年目の時を終えようとしている今、本年度調査の概要を記してきた。なお調査はまだ、数年にわたって継続される。

15. 石和高校周辺遺跡（いさわこうこうしゅうへん）

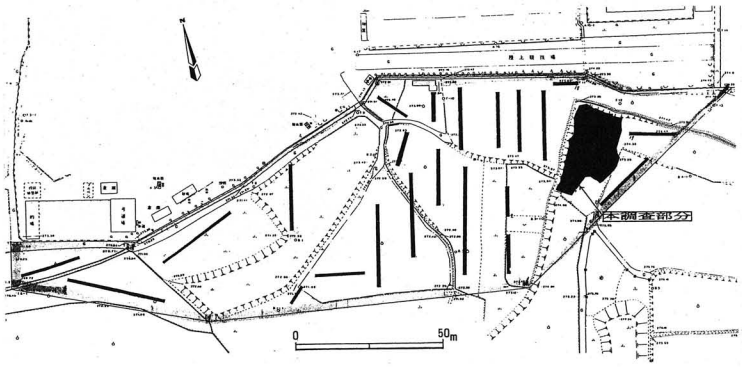
所 在 地　東八代郡御坂町成田1951－２外
　　東八代郡石和町市部３外
事 業 名　県立石和高等学校グランド拡張整備
調査期間　1996年５月20日～７月12日
調査面積　1,059㎡（10,866㎡）
担 当 者　高野玄明・雨宮芳夫



石和高校周辺遺跡　位置図

笛吹川氾濫原に接し、西北方向へ傾斜する金川扇状地の末端部、標高274m付近に本遺跡は立地し、周知の遺跡である石和高校周辺遺跡の西南部にあたる。今回の調査は、グランド整備事業に伴い、調査区全体に範囲確認調査の為、試掘トレンチを設定し、遺構・遺物の有無を確認し、遺構・遺物が確認されたトレンチについては、トレンチ周辺を拡張して、調査を行うことにした。その結果、調査区東側中央付近の微高地上の黒色土中から、遺構・遺物が検出されている。微高地以外の箇所については、深さ40～70㎝程で青色砂層や湧水が伴うなど、遺構・遺物は全く検出できなかった。しかし、微高地上については、弥生時代後期～古墳時代前期の壺型土器・甕型土器片を中心とし、中には縄文時代の土器片・石鏃・打製石斧などや、平安時代・中世の土器片も確認されているが、遺構には伴っていない。確認された遺構については、土坑が１基検出されており、長径1.9m、短径1.3m、深さ0.6mを測り、土坑内覆土中には、20～40㎝程の礫が70点ほど、土坑上面から底部に至るまで検出されており、中には石臼（下臼部１／２欠損）や、土師質土器片や古銭が出土している。古銭は『熙寧元寳』（きねいげんぽう）（北宋銭、初鋳1068年）が一枚検出されている。これらの出土遺物から、中世の所産と考えられるが、土坑の性格は今のところ不明である。

今回、検出されたほとんどの土器片は、いずれも遺構に伴っておらず、さらに縄文時代から中世に至るまで、ほぼ同一レベルでの出土のため、付近からの流れ込みによる可能性が高い。このことは、土器の磨滅の状況からも窺える。



石和高校周辺遺跡トレンチ配置図

16. 桂野（かつらの）遺跡

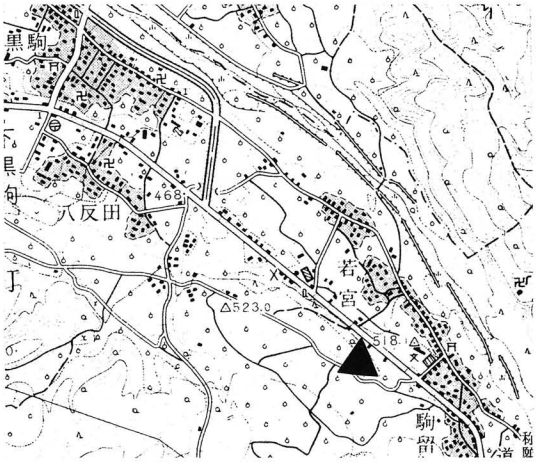
所 在 地　東八代郡御坂町大字上黒駒字桂野大道上1888外

事 業 名　国道137号バイパス（御坂バイパス）建設

調査期間　1996年10月７日～12月25日

調査面積　約1,200㎡

担 当 者　小野正文・熊谷栄二



桂野遺跡　位置図

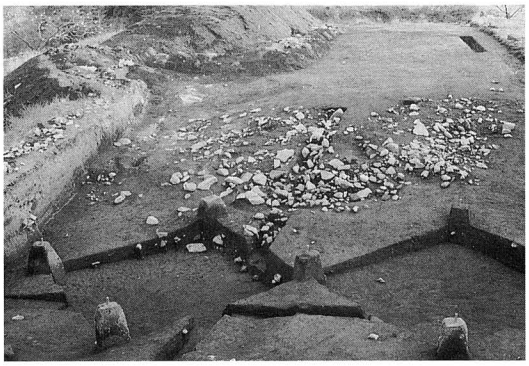
本遺跡は、甲府盆地の東部に連なる御坂山塊の北西緩斜面に位置し、金川の左岸にあたる。標高は525ｍを測り、右岸には『黒駒土偶』として有名な中丸遺跡が存在する。

桂野遺跡は、周知の遺跡として町内の上黒駒・下黒駒など広範囲にわたって展開している。昭和30年の土木工事の際に、縄文時代中期の井戸尻式～曽利式の土偶・土製円盤・顔面把手などの遺物や住居跡１軒、炉跡２基が確認されている。昭和51年には本遺跡の南側下黒駒平石地区において、甲斐丘陵考古学研究会によって発掘調査がおこなわれ、桂野平石遺跡と名付けられている。なおこの遺跡では、縄文時代中期前葉の新道式期土器をともなった住居跡１軒が確認されている。

本遺跡は昭和63年に開通した中央自動車道一宮・御坂インター供用により建設された国道137号のバイパスの延長線建設に伴う事業であり、平成７・８年度の２回の試掘調査によって対象となった約9,000㎡のうち今年度は約2,500㎡を対象に行った。

調査は、未買収の部分を挟んでＡ区・Ｂ区に分け、５ｍ×５ｍのグリッドを設定した。

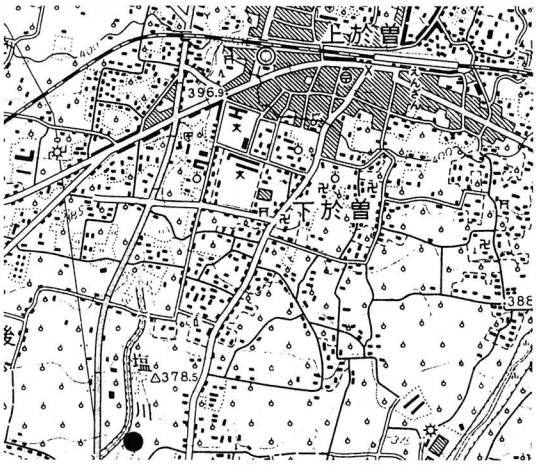
調査の結果、Ａ区約1,200㎡から縄文時代中期前葉五領ケ台式期の土器・土偶片および石鏃等の遺物約50,000点余りを検出した。調査区の約１／３は南東から北西にかけて谷を形成し、遺物の大多数はここから出土したものである。谷部は上部と下部との差が2.5ｍほどあり、そのため土壌が入り込んでいるため安定せず、住居跡などの遺構確認は困難であった。遺物包含層は厚く、最終的にちどり形に３グリットを深掘りし、遺物が存在しないことを確認して終了した。なお、Ｂ区は表土を剥いで住居跡１軒の存在を確認した状況で次年度へ繰り越した。



桂野遺跡　（Ａ区）全景

17. 一ノ坪（いちのつぼ）遺跡

所 在 地　塩山市熊野字一ノ坪27外
事 業 名　県営塩山熊野団地建設
調査期間　1996年４月15日～５月20日
調査面積　1,000㎡
担 当 者　小野正文・熊谷栄二



一ノ坪遺跡　位置図

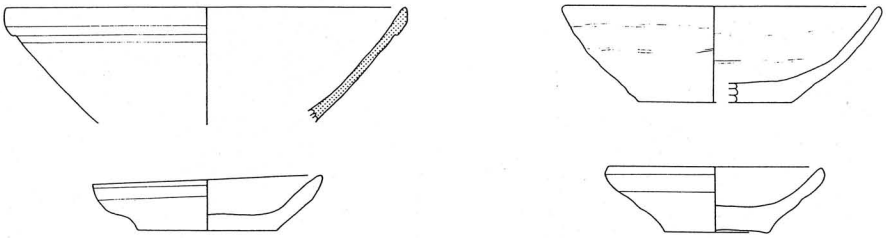
本遺跡は甲府盆地東部の重川と塩川に挟まれた塩川の河岸段丘上に位置し、その基盤は重川によって形成された扇状地の扇端部にあたる。標高は370mを測る。

昨年度は約2,200㎡を調査し、縄文時代の住居跡１軒、土坑３基、平安時代末の住居跡５軒、小竪穴２基、溝５条、土坑９基、掘立柱建物跡１棟を検出している。本年度は昨年発掘調査部分の北約1,000㎡を発掘調査した。

調査の結果、縄文時代の住居跡１軒、土坑６基、平安時代末の住居跡２軒、土坑29基、ピット群を検出しているが、掘立柱建物跡になるような連続性のあるものはない、昨年度の３号溝に続く溝１条を検出している。この溝は公共座標系とほぼ一致していることから、真北に伸びていることになる。平安時代末になるSB-08（８号住居跡）は鉄製品の鎌、舶載の白磁、土師器の坏など出土があり、白磁の様相は韮崎市中田小学校遺跡14号住居跡と類似しており、灰釉陶器の減少とともに舶載白磁の搬入が見られるという現象が窺われる。

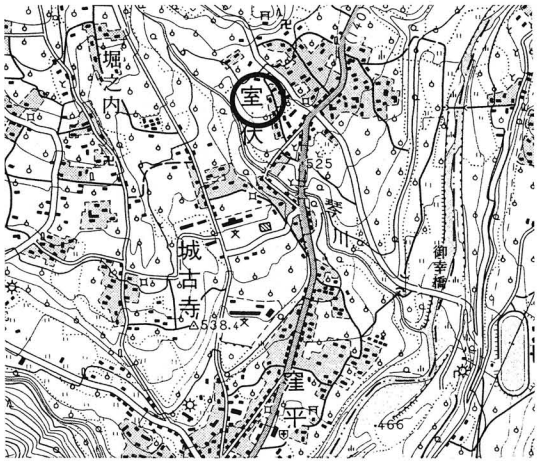
なお、遺跡全体をほぼ南北に貫くSD-03（３号溝）廃止後、SB-07（７号住居跡）を構築していることが判明しているが、塩川から流入したこれらの水路と平安時代末の一ノ坪集落との関係は、前後関係、機能の問題は本報告で解明してゆきたい。

縄文時代では、SB-09（９号住居跡）が昨年調査したSP-10（10号土坑）とよく類似した小竪穴遺構である。炉跡や柱穴は確認されなかったが、縄文前期諸磯ｂ式期の出土遺物は割合豊富であった。なお、調査区域の北端に底部穿孔埋甕がまったく遺構を伴わず単独で検出された。


一ノ坪遺跡　ＳＢ－08出土白磁と土師器（1：3）

18. 窪平（くぼだいら）バイパス関係遺跡（諏訪前（すわまえ）遺跡）

所 在 地　東山梨郡牧丘町室伏字西畑
事 業 名　国道140号（窪平バイパス）建設
調査期間　1996年５月13日～７月８日
調査面積　3,000㎡
調査担当　長沢宏昌・宮里　学



諏訪前遺跡　位置図

遺跡の所在地は、牧丘町役場の北西1.3㎞の地点で笛吹川支流琴川の左岸、南南東に傾斜する緩斜面に位置する。標高は調査区域内で588ｍ前後を測る

試掘調査の結果、遺構・遺物の分布範囲を3,000㎡と確定することができ、重機による表土剥ぎを行ったのち上記の日程で調査を開始した。調査区域には、５ｍ間隔の基準杭からなるグリッドを設定し、出土した遺構・遺物の平面的記録を行った。なお、基準杭の設定にあたって国土座標に準拠した。

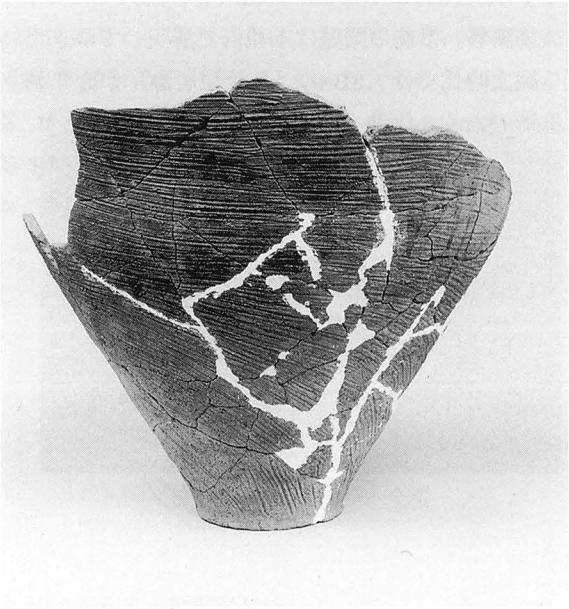
検出された遺構は、弥生時代の土坑１基、屋外埋甕１基（弥生時代前期）の他土坑32基である。なかでも、弥生時代に属する７号土坑の覆土中からは、該当期の土器片のほかにクルミやドングリなどの炭化物が多量に検出され、今後の整理作業を経て同定作業を行う予定でいる。また、弥生時代中期の屋外埋甕について土壌のサンプリングをおこない、土壌分析を実施中である。

出土した遺物は、縄文時代から中世までの土器・石器類がコンテナ（容量30ℓ）に約５箱分で、弥生時代に属する遺物が最も多く全体の60％を占める。

縄文時代に属するものは中期前半の土器を主体に石鏃・打製石斧・磨製石斧などが出土。４×0.8㎝程度の延長の軸部分に穿孔が認められる土製品が出土している。

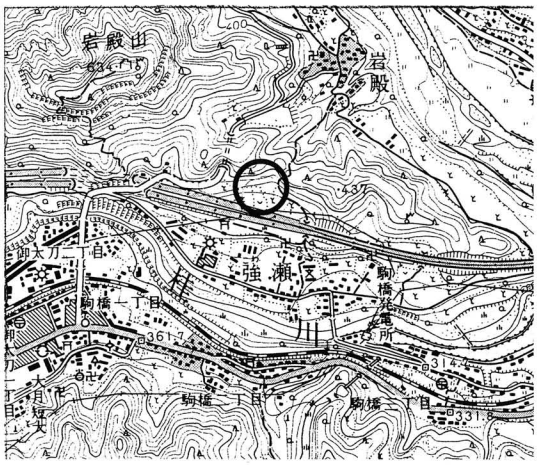
弥生時代の土器については破片資料が圧倒的に多く、個体資料になり得るのは弥生時代前期の屋外埋甕（上半分欠損）の壺形土器１点のみである。該当期の資料は県内でも少なく、今後の研究での資料的有効性は高いと思われる。

全体的には、遺物・遺構の分布は希薄ではあるが、弥生時代を主体とする調査事例は県内でも少なく今後の該期研究における重要な資料となろう。


１号埋甕（弥生時代前期）

19. 強瀬北遺跡（こわせきた）

所 在 地　大月市賑岡町強瀬字上平地内
事 業 名　中央自動車道拡張
調査期間　1996年11月25日～11月27日
調査面積　2,000㎡
調査担当　長沢宏昌・宮里　学



強瀬北遺跡　位置図

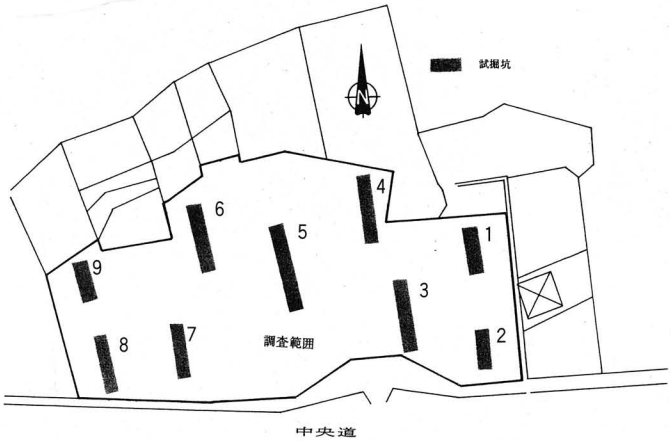
調査地点の所在地は、大月市役所の東南東1.5㎞、市立強瀬小学校の北300mの地点で、中央自動車道下り線の車線増加に伴う工事部分の発掘調査で、約2,000㎡が調査対象面積である。

地形的には、相模川（桂川）とその支流葛川の左岸に位置し、岩殿山から連なる15°～30°の山地斜面に存在する。標高は360m前後である。この周辺の地質は、沼沢・土石流堆積物から成り、一部古富士山火山噴出物が堆積している状況であった。

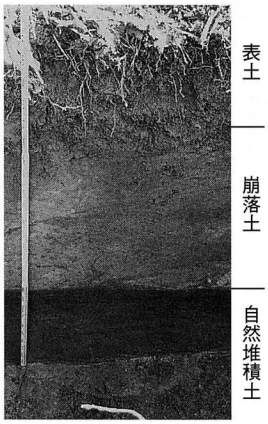
調査範囲は、現地踏査の結果現地表面から縄文時代に属する土器片が採取できた範囲と、工事予定区の重なりを検討し、調査対象面積を約2,000㎡と決定した。

発掘調査については、上記の日程で開始した。一部立ち木等の都合で調査できない範囲が存在し、これを迂回して小型重機と人力で９ヶ所に８×３ｍの試掘坑を設定し遺構・遺物の分布範囲確認をしながら調査に着手した。

９ヶ所の試掘坑を調査した結果、この全ての試掘坑で現地表下１～２ｍの深さで、調査地点に北側斜面から滑り落ちたと考えられる崩落土が厚く堆積していることが判明し、遺構・遺物は確認されなかった。更に下層を掘削可能な深さまで調査を継続したが、粘土質の土壌が堆積し同様に遺構・遺物は確認されなかった。この状況から、表面採取された土器片は崩落土中に含まれていた物と判断した。



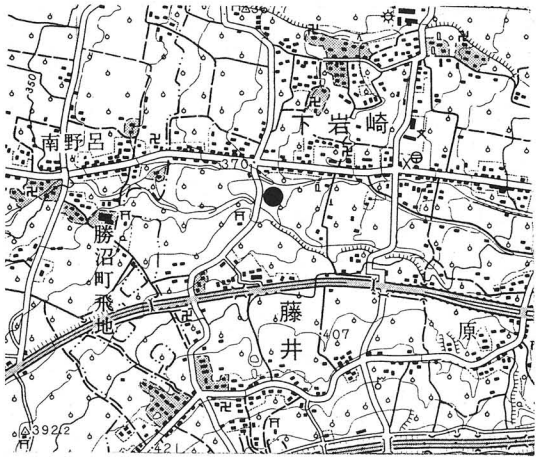
調査区域図



第２試掘坑土層断面

20. 古婦毛（こぶけ）遺跡

所 在 地　東山梨郡勝沼町下岩崎512－１外
事 業 名　県営住宅建設
調査期間　1996年４月15日～８月30日
調査面積　5,963㎡
担 当 者　村石眞澄・土屋浩之



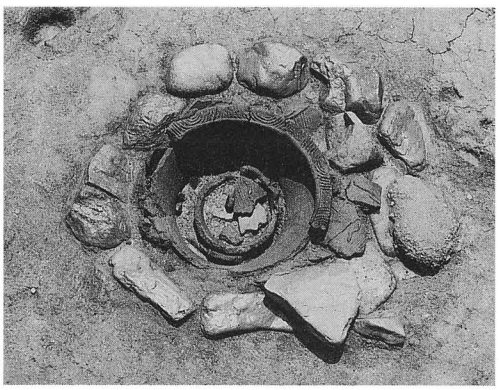
古婦毛遺跡　位置図

古婦毛遺跡は、京戸川扇状地の西北端に立地し、田草川・坂下川の両河川によって中州のように囲まれている。扇状地の扇頂部から扇央にかけては、釈迦堂遺跡群に代表される縄文時代を中心とした遺跡が豊富にある。また、中世の代表的な遺跡として岩崎氏館跡や勝沼氏館跡が近くに存在する。

県営住宅建設に伴い昨年度より調査が開始され、昨年度は、北側約半分を調査し２軒の住居跡を検出した。本年度は南側約半分の範囲の調査をおこなった。主な遺構として、埋甕と思われる埋設土器１基・住居跡３軒・水田跡約10枚を検出した。

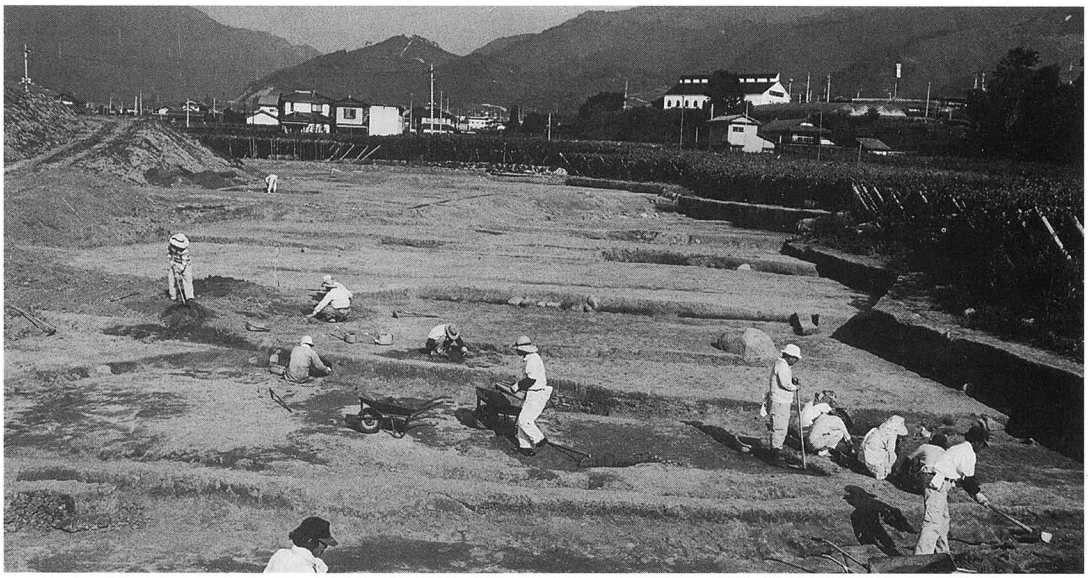
縄文時代の遺構としては、本年度調査区の北側で埋甕と思われる埋設土器（SZ-1）を確認した。石囲いされた土器が正位に埋設され、多くの土器片が埋設土器の周りと中から出土した。土器片は、埋設土器を支えるように周囲に設置されたり埋設土器に蓋をしたような状態で出土した。埋設土器は胴上半分だけで、底部を入れ子にしてあった。土器片は、埋設土器と同一個体のものと別個体のものを含んでいた。

埋設土器ＳＺ－１（その１）

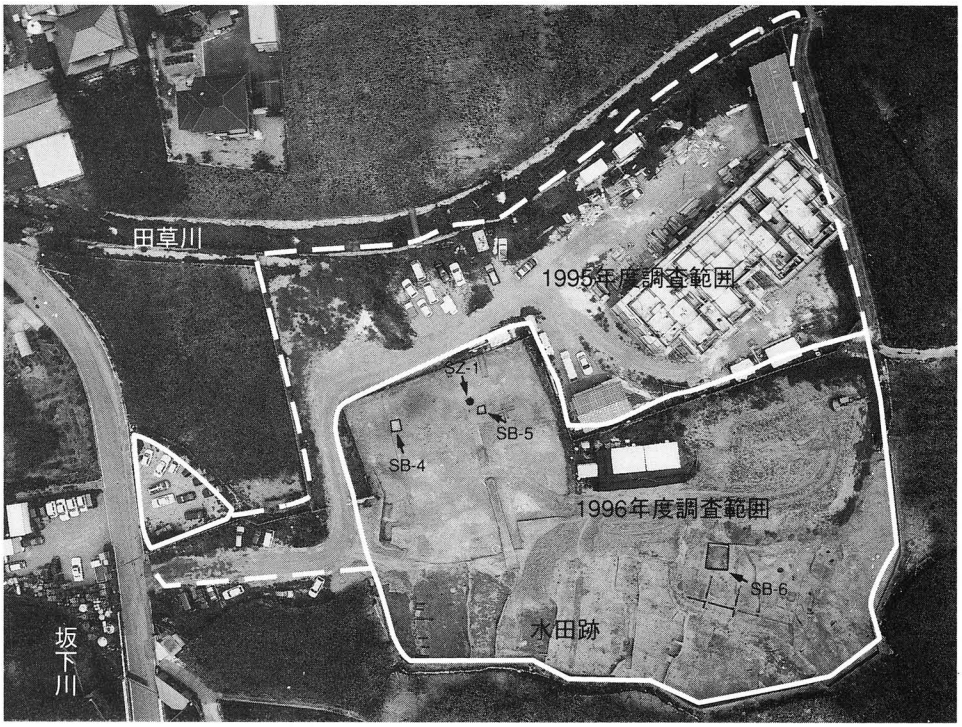

埋設土器ＳＺ－１（その２）

住居跡は奈良時代のもの３軒を検出した（それぞれSB-4・SB-5・SB-6とした。場所は写真参照）。SB-4とSB-6は東カマドで残りもよかった。SB-5は、やや小さめの住居跡で北東コーナーにカマドをもっていた。SB-4・SB-5は、住居跡から遺物がほとんど検出されなかった。

近世初頭のものと思われる水田跡は、坂下川の旧河道にあたる部分で確認した。水田面は、10㎝から30㎝にのぼる洪水砂に覆われていた。水田面は調査区の最も西側の部分にも続きこの地域では当時大規模な稲作が行われていたと思われる。水田跡では計５本の大きな畦畔も確認され、畦畔の中に石積をした部分が何カ所かあった。水田面・畦畔の中ともに遺物は少なかった。水田面では、人間の足跡や馬・獣らしき足跡も確認できた。



水田跡発掘調査風景



古婦毛遺跡全景

21. 大月（おおつき）遺跡（第８次調査Ⅰ・Ⅱ区）

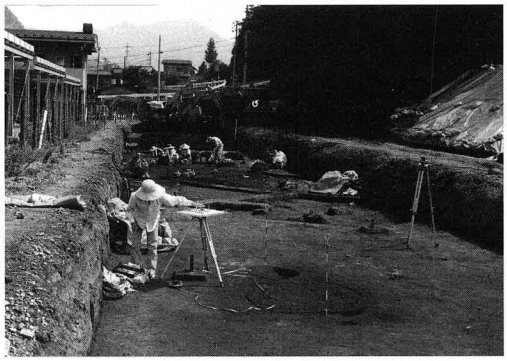
所 在 地　大月市大月２丁目11－20外
事 業 名　国道20号（大月バイパス）建設
調査期間　1996年６月５日～８月30日
　　1996年12月４日～1997年１月21日
調査面積　1,200㎡
担 当 者　笠原みゆき・伊藤伸一

大月遺跡　位置図

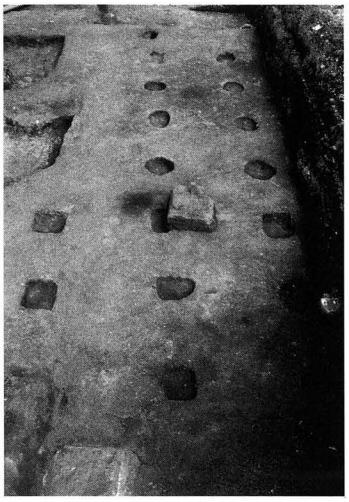
大月遺跡は、桂川と笹子川との合流点から南東およそ600m地点に位置し、桂川に沿って走る国道139号に隣接する県立都留高等学校の敷地およびその周辺一帯に広がる縄文中期～後期・奈良～平安時代にかけての集落遺跡である。昭和２年以来、数回にわたって発掘調査がおこなわれている。富士山の噴出物の調査を目的として、現県立都留高校の校庭が調査され、この時の遺物の出土位置や状態が記載された報告が残っているので、この段階を第１次調査とする。以後、数えていくと今年度調査は第８次調査となる。今回の調査は、大月バイパス建設に伴う側道及び市道切り回し工事と本線部分の事前調査で、便宜的に前者をⅠ区（側道）、後者をⅡ区（本線）とし、Ⅰ区は工程上Ａ・Ｂ・Ｃの３ヵ所に分けた。場所的には、敷石住居跡が６軒検出された第６次調査区の南側で、土偶などが出土した第７次の調査の東側に位置する。なお、これと並行しておこなわれた大月市教育委員会による調査を第９次調査とする。

調査の結果、Ⅰ区（側道）では、土坑15基・焼土２基・集石１基・列石１基・ピット数基が検出できた。山際からⅠ区－ＡとＢの堺目にかけては、地表面から0.7～１m掘り下げると地山が広がり、この周辺を先端として北側に傾斜する地形が観察できた。この傾斜し始める先端から有舌尖頭器が２点出土している。残念ながらこれらに伴う土器が発見されていないため、時期の確定には至らないが、県内の出土例でも有舌尖頭器が単独で出土することのほうが多いらしい。

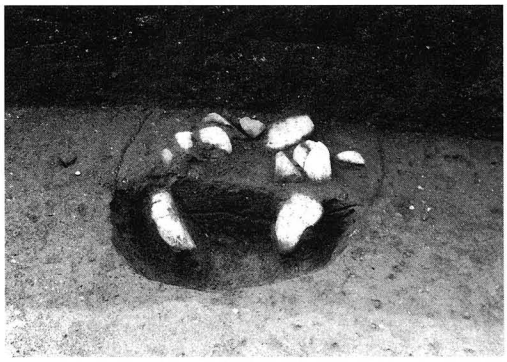
Ⅱ区では、Ⅰ区より更に山側へ近づくため表土が浅かった。しかし、集石２基、配石遺構３基、焼土土坑１基、ピット群等が検出されている。集石は、浅目の土坑に川原石を詰め込んだようなものと、多少だが粘土を石の間につめてたたせるように配置したものがあった。強い火を受けた形跡はほとんど無く、いずれも用途が不明である。配石遺構は、Ｌ字やコ字型で拳大～人頭大までの礫を並べるものであり、掘り込みや時期が確定できるような遺物は発見できなかった。調査区西南隅では表土剥ぎの段階で地山が確認できていたので、この地山は追っていくとⅠ区－Ｃの方向に向かって傾斜する地形がわかった。Ⅰ区－Ａで見られた地形とⅡ区西側に端を持つものを合わせてみると、大月遺跡の中には、幾つかの小さな谷が形成されているのではないかと推定される。今回の調査では、特筆する遺構や遺物の発見は少なかったが、大月遺跡全体の地形の復元と遺跡の範囲を確定するのに役立つ成果が得られたと考えられる。



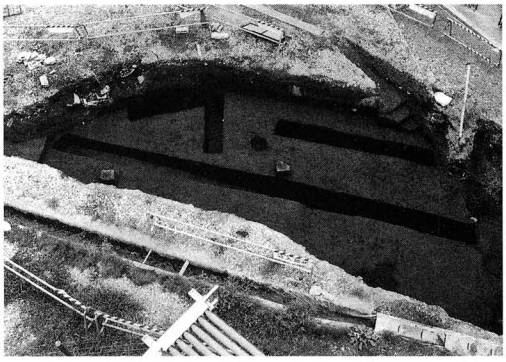
Ⅰ－B区　調査風景



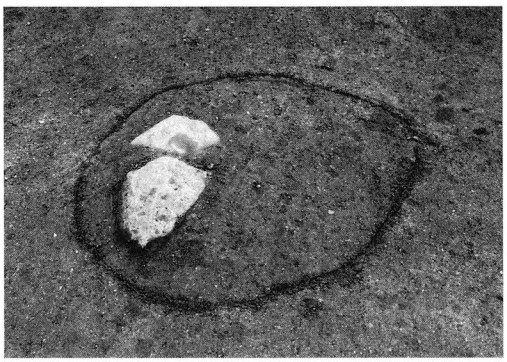
Ⅰ－B区　掘立柱建物跡



Ⅰ－A区　1号集石半截状況



Ⅰ－C区　調査区全景



Ⅰ－C区　10号土坑検出状況

Ⅱ区　調査風景

22. 大月遺跡（第10次調査Ⅰ・Ⅱ区）

所 在 地　大月市大月２丁目11－20外
事 業 名　県立都留高等学校渡り廊下及びポンプ室建設
調査期間　1996年12月11日～1997年１月29日
調査面積　200㎡
担 当 者　笠原みゆき・伊藤伸一

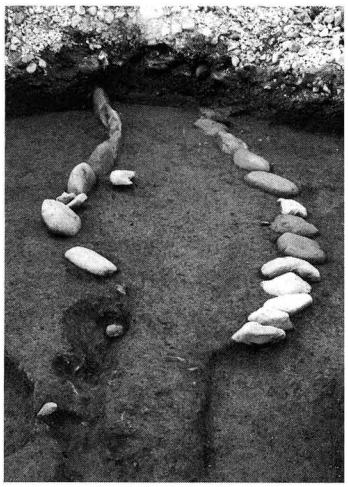
大月遺跡　位置図

大月遺跡第10次調査は、県立都留高校の施設建設に先立つ発掘調査で、大月バイパスⅡ区（本線）の発掘調査と並行しておこなわれた。本遺跡は昔から周知の縄文中期～後期・奈良～平安時代末にかけての集落遺跡であり、数度に渡って発掘調査がおこなわれている。今回の調査区は、第３次調査区（都留高校南館）の南西隅から第６次調査区（体育館）まで渡り廊下を取り付ける工事と、第６次調査区（体育館）北西隅・第９次調査区（大月市教育委員会）北側の隣接地にポンプ室を建てる工事の２ヵ所でおこなった。この調査では、便宜的に前者をⅠ区（渡り廊下）、後者をⅡ区（ポンプ室）として報告する。学校施設の建設に伴っては、平成８年11月頃からグランド整備や投球練習場の建設など様々な工事がおこなわれ、大月遺跡が周知の遺跡であることから、工事以前には立会い調査をおこなっていた。遺跡の中心は、大月保育園から体育館周辺にあり、その縁辺を確かめるための立会い調査であったが、想像以上に建物の基礎工事が深く広がっており、多少の遺物が回収出来た以外は、何ら特質すべきものは確認できなかった。そのため、当調査区もこの影響下にあるものと考えていた。

調査の結果、Ⅰ区（渡り廊下）では、竪穴住居跡２軒・配石遺構１基・土坑３基・焼土範囲１基などが発見できた。１号住居跡は全体の１／４程度で残りは調査区外である。縄文時代中期末曽利Ⅲ式の完形土器が２個体と、南北に軸を持つ石囲い炉が発見されている。また、北壁側に長さ44㎝、幅12㎝の平石が立てられるように埋められ、住居内祭祀の可能性が窺われ、遺物も炉からこの石の周辺に特に集中していた。調査面積が狭いため十分な資料が得られず、埋甕も確認することができなかった。２号住居跡は、埋甕と一辺１ｍ四方の大型の石囲い炉のみである。明確な柱穴は判らないが、周辺の小穴群を見ると炉を取り囲むようである。これらを、参考に住居跡の規模を復元してみると、長径８ｍ・短径６ｍ程の楕円形になるとおもわれる。埋甕は縄文時代中期末曽利Ⅱ式である。

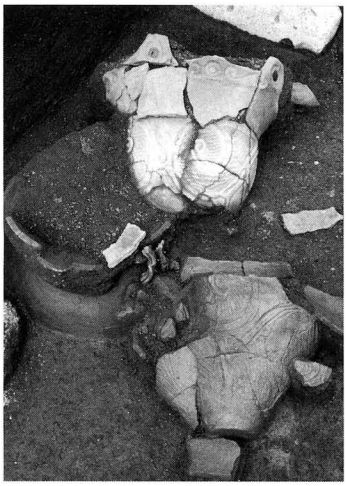
Ⅱ区（ポンプ室）では、第６次調査区の北西側に隣接する部分で、ここから配石遺構や敷石住居跡が検出されている経緯から、遺構の密度の高さが指摘されていたが、電柱などの掘削が激しく、土坑１基・溝１条・小穴数基が発見されたのみである。遺物は、調査区の全体から出土していたが、いずれも小破片で特筆すべきものは出土していない。

Ⅰ区　調査区風景

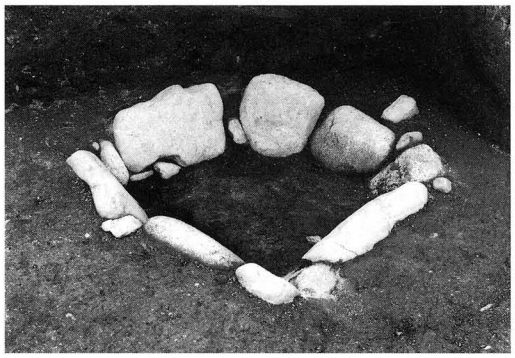


Ⅰ区　1号配石遺構検出状況

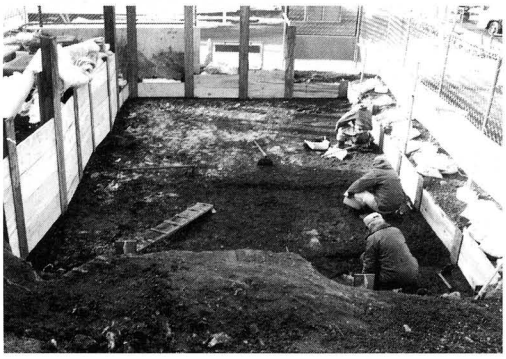
Ⅰ区　2号住居跡埋甕　検出状況



Ⅰ区　1号住居跡出土遺物



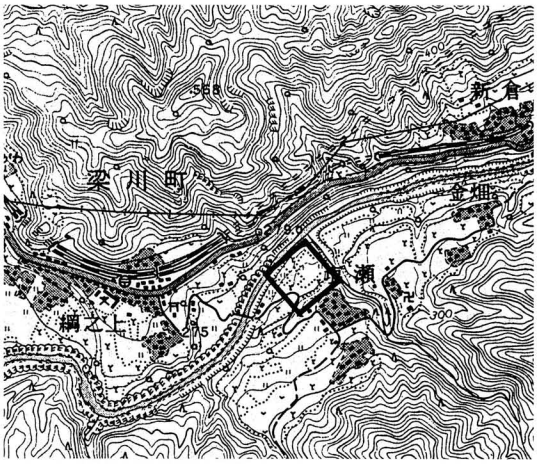
Ⅰ区　2号住居跡炉　完掘状況



Ⅱ区　調査風景

23. 塩瀬下原遺跡（しおせしたっぱら）

所 在 地　大月市梁川町塩瀬842－２番地外
事 業 名　桂川流域下水道終末処理場建設
調査期間　1996年５月15日～12月26日
調査面積　6.320㎡
担 当 者　吉岡弘樹・大庭　勝



塩瀬下原遺跡　位置図

忍野村の忍野八海を源として相模湾に下る桂川は、大月市地内においては国道20号に沿う様に流下し、右岸に大規模な河岸段丘を形成させている。この段丘中位（海抜約237,5m）に塩瀬下原遺跡が存在する。この周辺には今まで他遺跡の存在は確認されていなかったが、最近では、大月市立梁川小学校内において縄文時代と考えられる土壙等が調査されている。また、対岸に武田氏の狼煙台跡とされる御前山が鎮座し遺跡地を凝視しており、当地が戦国期の連絡中継地の要衝であったことがうかがわせている。

昨年度までの調査では、２面の文化層が確認され平安時代竪穴住居跡ほか、縄文時代中期の配石群・屋外炉・石器製作跡・土壙群・集石土壙等が検出されている。

今年度の発掘調査の結果、検出された遺構・遺物は以下のとおりである。

［Ⅲ区］　当調査区は遺跡の北東端に当たり、配石群が形成される礫層の落ち込みがみられる地点である。遺構検出面は、表土直下にあたるため攪乱や耕作による削平を多く受けており、遺構等の検出は希薄であった。このため、縄文時代中期後半の土壙３基・埋甕３基が検出されたに過ぎない。遺物は縄文時代中期中葉から末葉までを主体とした各種の土器類・石器類（打製石斧・磨製石斧・石鏃・スクレイパー・石核など）が出土している。

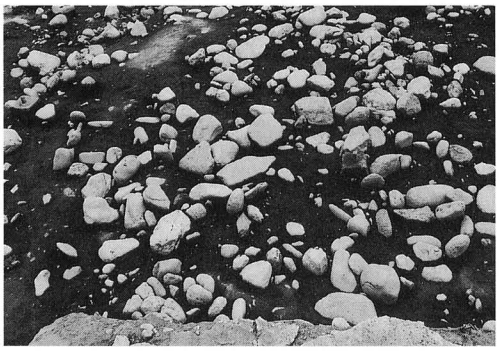
［Ⅳ区］　Ⅰ区の西側に隣接した位置にあり、２面の文化層が確認された。

第１面は縄文時代中期末葉の敷石住居跡３軒と縄文時代中期末葉から後期中葉に比定できる配石群を主体としており、調査区北西に位置する直径約3.5mの正円形を呈する７号配石は３基の石棺（0.8×1.5m）を伴うものとして特筆される。第２面からは縄文時代中期の配石８基・屋外炉６基・埋甕５基等が検出された。それぞれの遺構は自然礫層を利用したもので調査区の全体に広がり、各所に石皿（未製品を含む）を配置している。

遺物は、縄文時代中期中葉から後期中葉までの土器各種、石器類（打製石斧・磨製石斧・石鏃・スクレイパー・石核・石棒など）が出土している。

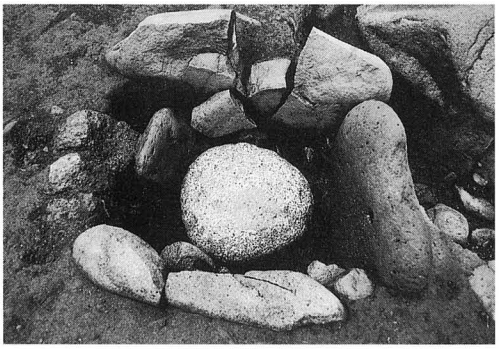
今年度の調査結果から、河岸段丘の中位部分を利用した配石群の中心が確認できたことと共に、昨年度検出されなかった配石群と同時期の住居跡が確認されたことは遺跡の性格を知る大きな手がかりとなるであろう。

Ⅳ区　完掘状況（東方より）



配石墓群　検出状況

4号配石　検出状況



7号屋外炉　完掘状況

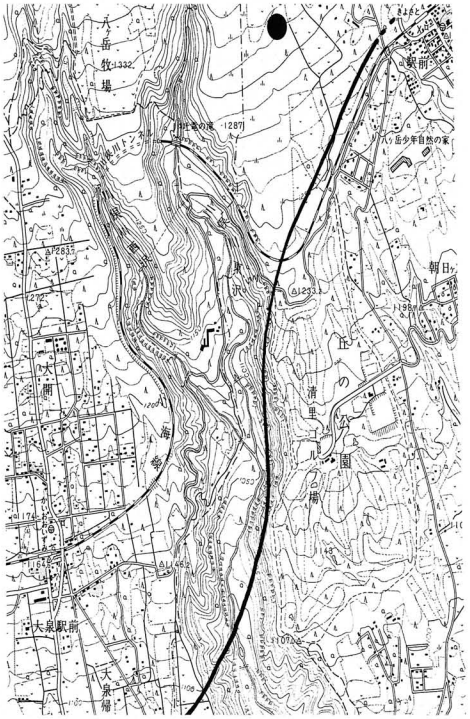
土壙　調査風景

24. 八ケ岳東南麓他遺跡分布調査

平成８年度以降の各種土木事業（中部横断自動車道を除く）に先立つ、埋蔵文化財の試掘確認調査は以下のとおり実施した。

24－１．清里（きよさと）遺跡
石堂（いしどう）遺跡

所 在 地　北巨摩郡高根町清里3545
　　北巨摩郡大泉村西井出石堂
事 業 名　清里高原有料道路建設
　　（県道路公社）
調査期間　1996年４月24日～７月12日
調査面積　清里遺跡　2,000㎡（45,000㎡）
　　石堂遺跡　500㎡（10,000㎡）
担 当 者　森原明廣・小林広和



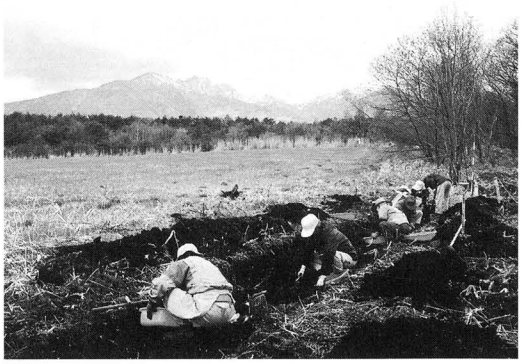
清里遺跡・石堂遺跡　位置図

清里高原有料道路建設予定地について、その対象面積の約５％を目安とした試掘調査を実施した。トレンチは幅２ｍ、長さ20～200ｍとし、建設予定地のほぼ全域を対象とした。

試掘調査の結果、高根町清里地内にて約2,600ｍの範囲に広がる縄文時代早期の土器・石器の分布域が確認され、事前の発掘調査の必要があるものと判断された。しかし、これ以外の地点には遺物・遺構の分布は全く見られず、発掘調査の必要はないものと判断された。

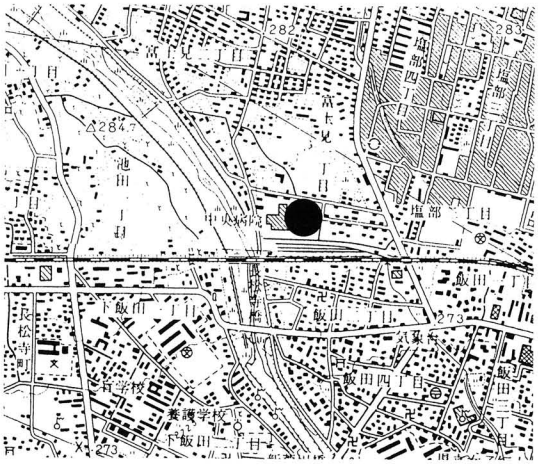
なお、高根町清里地内の発掘調査地については、遺跡名を「清里バイパス第２遺跡」とし、平成８年度中に発掘調査が実施されている。

試掘調査風景


試掘調査風景

24－2．富士見一丁目遺跡（ふじみいっちょうめ）

所 在 地　甲府市富士見一丁目１－１
事 業 名　県立中央病院建設（県厚生部）
調査期間　1996年７月17日～７月24日
調査面積　20㎡（10,000㎡）
担 当 者　森原明廣・小林広和

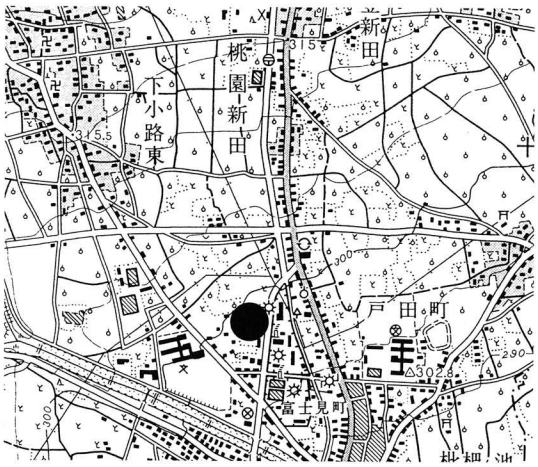


富士見一丁目遺跡　位置図

調査は既存施設敷地内という条件下であったために、狭小な面積（幅１ｍ×５ｍのトレンチを合計４地点のみ設定）を調査する形となった。各トレンチからは地表下約150～170㎝より中世の陶磁器類が出土し、さらに下層からは平安時代の土器片も出土している。周辺の微高地地形を併せ考えると、中世を主体とする遺跡が存在する可能性が高く、事前の発掘調査の必要があるものと判断された。

24－3．八田畑遺跡（はったばたけ）

所 在 地　中巨摩郡櫛形町八田畑1231－１
事 業 名　県営櫛形小笠原団地建設（県土木部）
調査期間　1996年７月25日～８月19日
調査面積　700㎡（13,000㎡）
担 当 者　森原明廣・小林広和

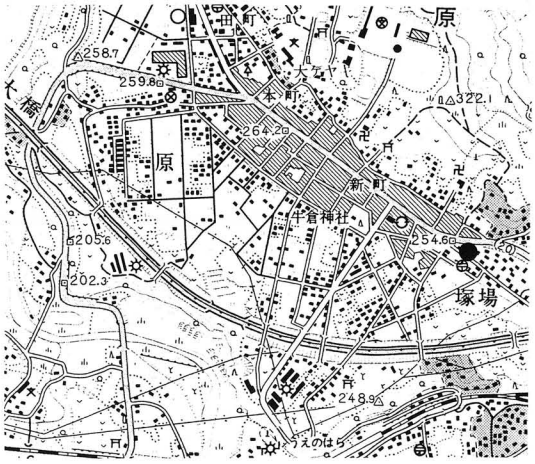


八田畑遺跡　位置図

建設予定地はグランド用の整地がなされており、地表下50㎝程度までは人為的な盛土が確認されたが、下層には自然堆積層が残存しており、その一部に見られる黒色土層中に弥生時代中期～後期の土器片を包含することが確認された。試掘調査では明確な遺構は確認されなかったものの、該期の遺構が存在する可能性が高く、事前の発掘調査の必要があるものと判断された。なお、発掘調査の対象面積は建設予定地の一部、約3,000㎡となる。

24－4．上野原郵便局遺跡（うえのはらゆうびんきょく）

所 在 地　北都留郡上野原町上野原地内
事 業 名　上野原郵便局建設（郵政省）
調査期間　1996年９月９日～９月10日
調査面積　100㎡（2,800㎡）
担 当 者　吉岡弘樹・大庭　勝

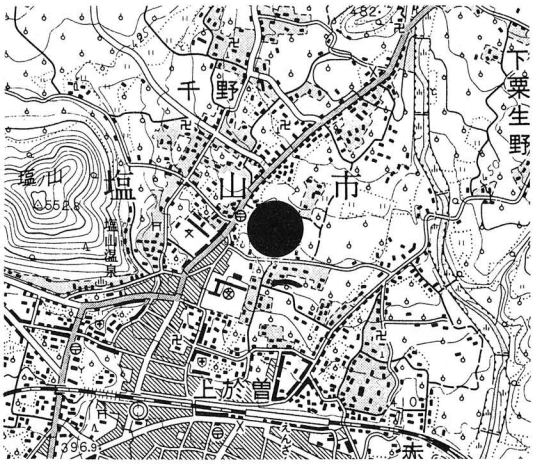


上野原郵便局遺跡　位置図

郵政省上野原郵便局の建設予定地について、試掘調査を実施した。調査予定地内に残存するコンクリート基礎などを避け、幅約1.2m、長さ約５～22mのトレンチを８地点設定した。調査の結果、調査区の一部では地表下約0.6～１mに見られるローム層まで良好な自然堆積層が見られる箇所があるものの、遺物・遺構は存在しないことが判明し、それ以外の地点でもコンクリート基礎がローム層真上まで及んでいる箇所が大半であった。全トレンチからの出土遺物は打製石斧片が１点と希薄であり、事前の発掘調査の必要はないものと判断された。

24－5．伊保水遺跡（いぼみず）

所 在 地　塩山市千野字伊保水
事 業 名　県立産業技術短期大学建設（県商工労働観光部）
調査期間　1996年12月９日～12月20日
調査面積　500㎡（19,000㎡）
担 当 者　森原明廣・小林広和



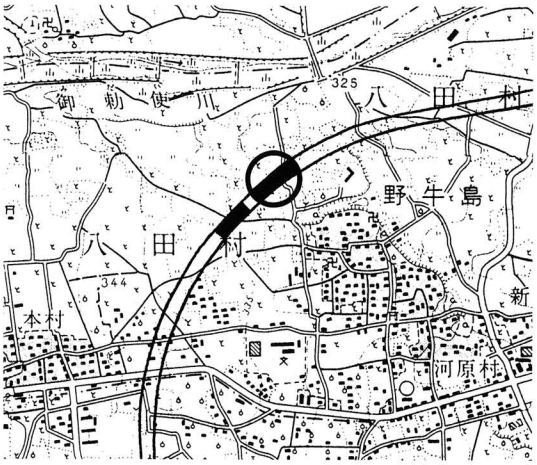
伊保水遺跡　位置図

県立産業技術短期大学の建設予定地について試掘調査を実施した。

調査は幅１m、長さ５～30mのトレンチを合計35箇所に設定して行なった。調査の結果、建設予定地のほぼ全域から縄文時代中期初頭・平安時代・中世の遺物の出土が確認された。しかし、全体的にはその密度は極めて希薄であり、事前の発掘調査を必要する箇所は建設予定地の一部である約3,000㎡の範囲に限定できるものと判断された。なお、この地点については縄文・平安・中世の遺物のほか中世の溝状遺構なども確認されている。

25. 中部横断道予定地内試掘調査

所 在 地　中巨摩郡八田村野牛島
調査期間　1997年１月31日～２月20日
調査面積　約420㎡（約4,000㎡）
担 当 者　小林健二・雨宮信仁



中部横断道予定地内試掘調査　位置図

調査は、道路建設予定地内の２地点に幅1.5～2.5m、長さ８～30mのトレンチを合計16箇所設定し、重機による掘削及び人力による精査を行った。調査の結果、北側の９箇所、南側の４箇所のトレンチにおいて、深さ60㎝前後で中世後半期の遺物包含層が確認された。さらに北側の９箇所では包含層下の遺構確認面（深さ70㎝前後）から溝状遺構や土坑、ピット群が発見された。遺物はかわらけ、擂り鉢、天目茶碗などが出土し、特に北側調査地点については、地元で「北屋敷」と呼ばれる一帯の西側にあたるとみられ、これに関わる遺構の可能性もあり、今後本調査の必要がある。遺跡名は「石橋北屋敷（いしばしきたやしき）遺跡」である。

Ⅲ　県内の概況

1．発掘調査　今年度の発掘調査件数は196件となっており、昨年度より41件増えている。内訳は緊急調査190件、学術調査６件である。調査件数は平成７年度から150件を越えていて、今年度は200件に近づいている状況である。発掘調査の原因別は、多い順にみると、住宅・宅地造成61件、道路39件、その他建物32件、農業関連18件、その他開発16件、工場９件、学校６件、河川３件、公園造成２件、ガス・電気・水道１件、区画整理１件、遺跡整備１件で、昨年度とほぼ同じ順序であり、また学術目的の調査は６件となっている。

2．遺跡の保存整備　これにかかわる調査は、まず県教育委員会によって平成２年度から、発掘調査が進められている県史跡甲府城跡がある。この調査や保存整備が進むにしたがって、天守閣建設について世論がもちあがっており、これに並行して築城時に建立されたかどうかの調査も進められている。また、県史跡岩殿城跡でも総合学術調査の一貫として発掘調査が実施されている。富士吉田市では吉田口登山道が文化庁による「歴史の道」に選定され、５カ年計画で整備するために発掘調査を行ない、一字一石経の出土を確認した。

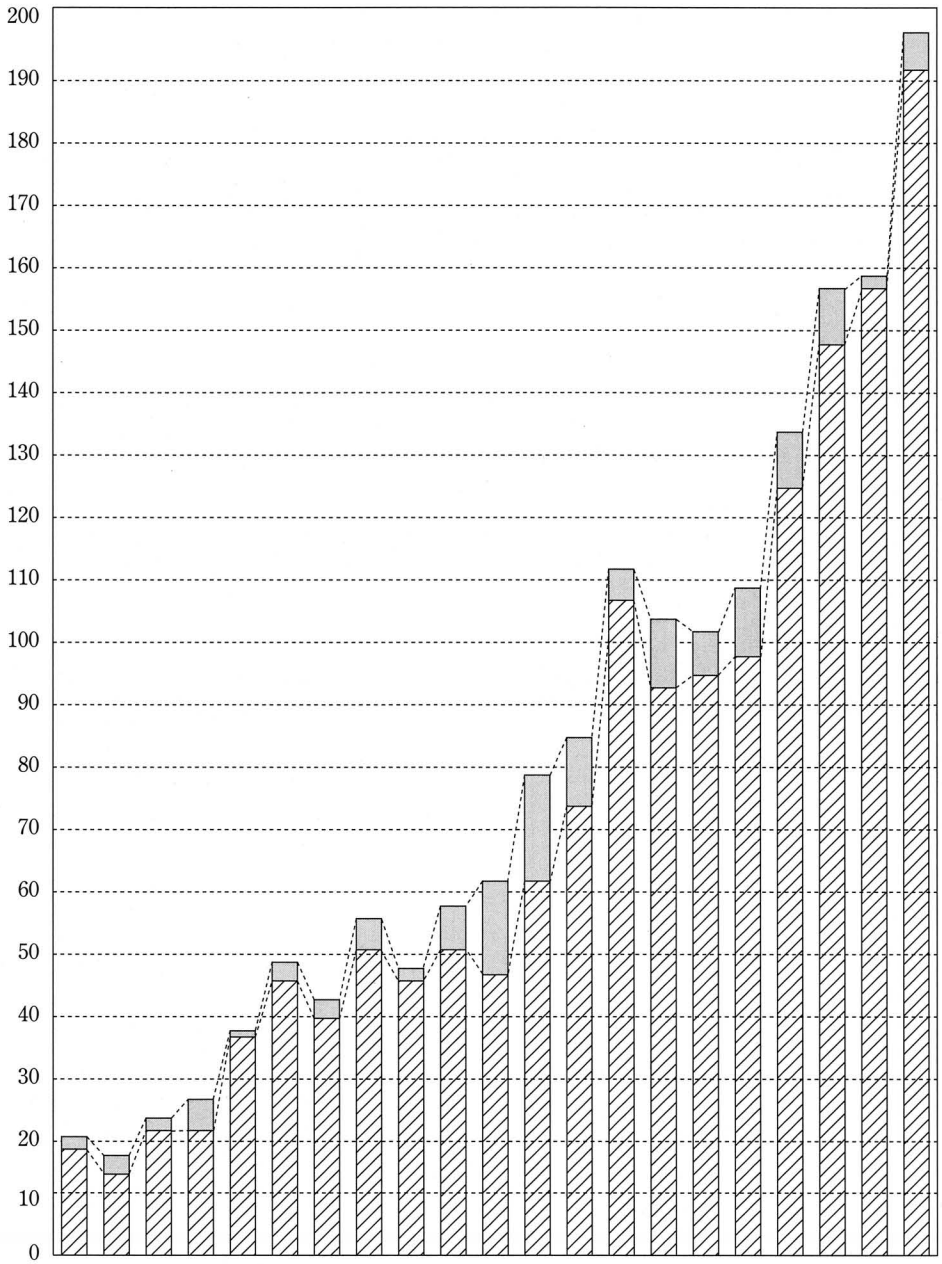
3．調査体制　埋蔵文化財専任職員（埋蔵文化財担当及び担当可能職員）については、県が学術文化課３名（他に博物館関係１名）、埋蔵文化財センター34名（他に非常勤嘱託２名）、考古博物館２名（他に非常勤嘱託１名）、なお阪神淡路大震災復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査支援職員として４月より埋蔵文化財センターから１名派遣されている。市町村では甲府市７名、御坂町２名（他に教育委員会外に１名）、韮崎市（他に非常勤嘱託１名）・都留市・塩山市・山梨市・春日居町（資料館兼務）・勝沼町・牧丘町・石和町・中道町・境川村・豊富村・八代町・一宮町（他に釈迦堂博物館に１名）・三珠町・増穂町・櫛形町・甲西町・白根町・敷島町・竜王町・双葉町・大泉村・須玉町・長坂町（他に非常勤嘱託１名）・明野村・高根町・武川村・白州町・上野原町に各１名、また大月市の郷土館に２名、富士吉田市の歴史民俗資料館等に２名が、若草町と昭和町の共同設置で１名と小淵沢町で教育委員会外に１名の合計43名（９名）となっており、64市町村のうち36市町村に配置されている。発掘調査の担当職員の配置は、年々充実しているが発掘件数の増加により、担当職員の１人あたりの事業量が多くなっている傾向が続いているため、整理体制が不十分となり、報告書の刊行や出土遺物の活用が問題となる傾向は続いている。県内の市町村では初めて、明野村によって展示室、整理室、埋蔵庫を備える851㎡の埋蔵文化財センターの建設が着手された。

4．発掘調査の成果　縄文時代では、昨年度に引き続き調査された長坂町酒呑場遺跡から、土棒が出土した。また、弥生時代になると櫛形町十五所遺跡から方形周溝墓18基が確認され、その中の一つは主体部がみられ、その周囲に６つの四角い柱穴を伴い“もがり”に結びつく上屋が存在した可能性が高いと話題を呼んだ。敷島町金の尾遺跡からは、弥生時代末から古墳時代初頭にかけての、本県では数少ない壺棺の好例が出土している。上野原町狐原遺跡の調査で、「山」の字を形どった類例の少ない鉄製の焼きコテが平安時代の住居跡から出土し、目を引いた。鰍沢町の鰍沢河岸跡の調査で、近世から近代にかけての富士川舟運に関係した施設が発見された。

（註）1.3は教育庁学術文化課の統計調査による。

山梨県埋蔵文化財発掘調査件数の推移

（単位：件）



	S 52	S 53	S 54	S 55	S 56	S 57	S 58	S 59	S 60	S 61	S 62	S 63	H 1	H 2	H 3	H 4	H 5	H 6	H 7	H 8	H 9
学術調査	2	3	2	5	1	3	3	5	2	7	15	17	11	5	11	7	11	9	9	2	6
緊張調査	17	13	20	20	35	44	38	49	44	49	45	60	72	105	91	93	96	123	146	155	190
合　計	19	16	22	25	36	47	41	54	46	56	60	77	83	110	102	100	107	132	155	157	196

1996年度発掘調査一覧表

（学術文化課に提出された発掘通知による）

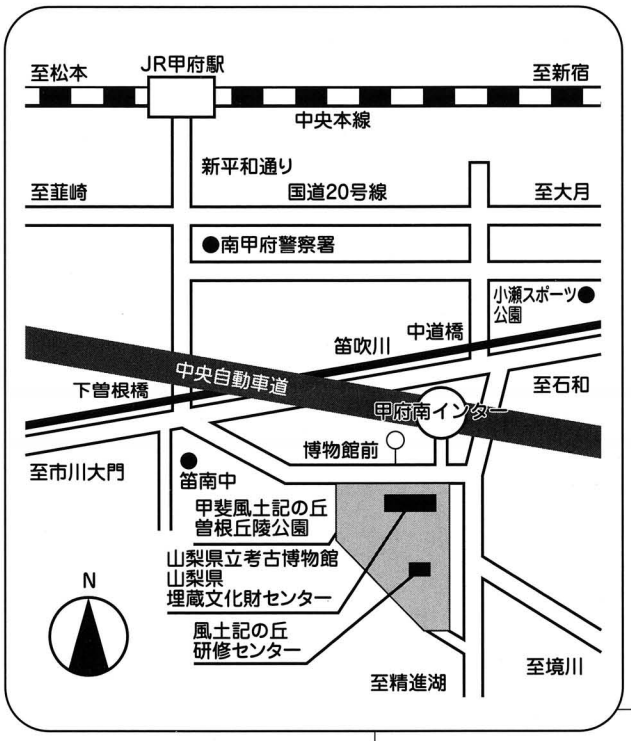
No.	遺　跡　名	所　在　地	面積(㎡)	遺跡の種類	遺跡の時代	調査目的	調査主体者	調査期間
1	砂間遺跡	甲府市高室町国母工業団地162	18787	散布地		工場	甲府市教育委員会	1996/5/1～1996/6/1
2	かすみ堤	中巨摩郡昭和町築地新居599坂	20	その他の遺跡(堤防)	近世	住宅	昭和町教育委員会	1996/5/16～1996/5/17
3	一の沢遺跡	東八代郡境川村小黒坂立石727－5	330	散布地	縄文	住宅	境川村教育委員会	1996/4/22～1996/5/2
4	清水遺跡	東八代郡八代町高家249－1他	45	散布地	平安・近世	農業関連	八代町教育委員会	1996/4/5～1996/4/17
5	石橋条里遺跡	東八代郡境川村石橋久保田943他	15889	その他の遺跡(条里)	平安	工場	境川村教育委員会	1996/4/30～1996/5/17
6	長沢平池遺跡	南巨摩郡増穂町長沢上永878－2	124	散布地	弥生・古墳	住宅	増穂町教育委員会	1996/4/24～1996/4/24
7	長沢平池遺跡	南巨摩郡増穂町長沢891	106	散布地	弥生・古墳	住宅	増穂町教育委員会	1996/4/11～1996/4/11
8	中秣塚古墳	中巨摩郡竜王町竜王211他	1000	古墳	古墳	公園造成	竜王町教育委員会	1996/4/22～1997/3/31
9	米倉山B遺跡	東八代郡中道町下向山3762－1他	145	その他の墓	近世	その他開発(ニュータウン造成)	山梨県教育委員会	1996/4/15～1996/4/30
10	村前東A遺跡(Ⅲ・Ⅴ区)	中巨摩郡櫛形町十五所村前東297他	17850	集落跡	弥生･古墳･平安～	道路	山梨県教育委員会	1996/4/10～1996/12/27
11	十五所遺跡	中巨摩郡櫛形町十五所西原729－1	12000	集落跡	弥生	道路	山梨県教育委員会	1996/4/8～1996/12/26
12	甲府城跡	甲府市丸の内1－5	7600	城館跡	近世	公園	山梨県教育委員会	1996/4/15～1997/3/31
13	上野原小学校遺跡	北都留郡上野原町上野原上宿3489	823	散布地	縄文	学校	上野原町教育委員会	1996/4/15～1996/6/30
14	一ノ坪遺跡	塩山市熊野27他	1000	集落跡	縄文・古墳	宅地造成	山梨県教育委員会	1996/4/15～1996/6/28
15	酒呑場遺跡	北巨摩郡長坂町長坂上条621－2	2150	集落跡	縄文・古墳	その他建物（牛舎）	山梨県教育委員会	1996/4/15～1996/9/30
16	一の沢遺跡	東八代郡境川村小黒坂313	268	散布地	縄文・古墳	住宅	境川村教育委員会	1996/5/20～1996/5/24
17	北原遺跡	東八代郡境川村寺尾上原2967	6614	散布地	縄文・古墳	住宅	境川村教育委員会	1996/5/7～1996/5/10
18	立石北遺跡	東八代郡境川村小黒坂1750	594	散布地	縄文	住宅	境川村教育委員会	1996/4/18～1996/4/26
19	古婦毛遺跡	東山梨郡勝沼町下岩崎512－1他	5570	散布地	縄文	宅地造成	山梨県教育委員会	1996/4/15～1997/3/31
20	宮の前遺跡	北巨摩郡高根町箕輪2343他	4000	散布地	縄文・平安	道路	山梨県教育委員会	1996/4/15～1996/7/15
21	大月遺跡	大月市大月2－11－20他	800	集落跡	縄文	道路	山梨県教育委員会	1996/4/15～1997/3/31
22	塩瀬下原遺跡	大月市梁川町塩瀬842－2他	5000	集落跡	縄文・平安	その他開発（下水処理場）	山梨県教育委員会	1996/4/15～1997/3/31
23	石堂遺跡	北巨摩郡大泉村西井出石堂	10000	散布地	縄文･平安･中世	道路	山梨県教育委員会	1996/4/18～1996/6/18
24	清里遺跡	北巨摩郡高根町清里3545他	45000	散布地	縄文・中世	道路	山梨県教育委員会	1996/4/18～1996/6/18
25	清里バイパス第1遺跡	北巨摩郡高根町清里3545－1	3000	その他の遺跡(陥穴)	縄文	道路	山梨県教育委員会	1996/4/24～1996/7/24
26	大田ヶ原遺跡	大月市賑岡町強瀬1101－2他	4838	散布地	平安	その他建物（事務所）	大月市教育委員会	1996/5/7～1996/9/30
27	大和田第4遺跡	北巨摩郡大泉村谷戸	300	散布地	縄文	工場	大泉村教育委員会	1996/5/1～1996/5/10
28	大鳥居宇山平遺跡	東八代郡豊富村高部1888	200	散布地	縄文・古墳	農業関連	豊富村教育委員会	1996/5/7～1996/5/31
29	甲斐国分尼寺跡	東八代郡一宮町東原644－1他	12	社寺跡	奈良・平安	電気	一宮町教育委員会	1996/4/22～1996/5/31
30	身洗沢遺跡	東八代郡八代町南2802－1他	773	集落跡	弥生・古墳	宅地造成	八代町教育委員会	1996/5/7～1996/6/28
31	鰍沢河岸跡	南巨摩郡鰍沢町鰍沢明神町	1000	その他の遺跡	近世	河川	山梨県教育委員会	1996/5/1～1996/6/30
32	実原B遺跡	北巨摩郡武川村黒沢実原1361－1他	10	散布地	縄文	住宅	武川村教育委員会	1996/5/13～1996/6/30
33	塩部遺跡	甲府市塩部3－571－2	156	集落跡	弥生･古墳･平安	住宅	甲府市教育委員会	1996/8/8～1996/8/9
34	甲ツ原遺跡	北巨摩郡大泉村西井出9077－1	200	集落跡	縄文・平安	農業関連	大泉村教育委員会	1996/4/20～1996/5/31
35	屋敷添第2遺跡	北巨摩郡明野村上手1306他	16000	集落跡	縄文･平安･中世	農業関連	明野村教育委員会	1996/6/1～1996/8/31
36	駒飼場遺跡	北巨摩郡明野村上手6244	776	集落跡	縄文	農業関連	明野村教育委員会	1996/5/7～1996/5/8
37	諏訪前遺跡	東山梨郡牧丘町室伏西畑588他	3000	散布地	縄文・平安	道路	山梨県教育委員会	1996/5/13～1997/3/31
38	永井原遺跡	北巨摩郡明野村永井原11999他	448	散布地	縄文･古墳･中世	工場	明野村教育委員会	1996/6/10～1996/6/14

No.	遺　跡　名	所　在　地	面積(㎡)	遺跡の種類	遺跡の時代	調査目的	調査主体者	調査期間
39	下新居遺跡	北巨摩郡大泉村1824－1他	1238	散布地	縄文・平安	農業関連	大泉村教育委員会	1996/5/15～1996/5/30
40	石和高校周辺遺跡	東八代郡石和町市部3他	10866	散布地	弥生・平安	学校	山梨県教育委員会	1996/5/20～1997/3/31
41	下大内遺跡	北巨摩郡明野村小笠原3220－1		集落跡	弥生・平安・中世	農業関連	明野村教育委員会	1996/5/30～1996/5/31
42	梨ノ木遺跡	北巨摩郡高根町村山東割1201	50	散布地	縄文	その他建物（消防防災施設）	高根町教育委員会	1996/5/13～1996/6/30
43	宮の前遺跡	北巨摩郡高根町蔵原1729－1	50	散布地	縄文	その他建物（消防防災施設）	高根町教育委員会	1996/5/13～1996/6/30
44	菅の神遺跡	北巨摩郡高根町東井出186	50	散布地	縄文	その他建物（防災消防施設）	高根町教育委員会	1996/5/13～1996/6/30
45	念場原遺跡	北巨摩郡高根町清里3545－4951	50	散布地	縄文	その他建物（消防防災施設）	高根町教育委員会	1996/5/13～1996/6/30
46	下原遺跡	北巨摩郡高根町箕輪上の原1033－1	1000	散布地	縄文・平安	道路	高根町教育委員会	1996/6/1～1997/3/28
47	扇田遺跡	東八代郡御坂町井之上横畑832－1	514	散布地	古墳・奈良・平安	その他建物（アパート）	御坂町教育委員会	1996/6/5～1996/6/6
48	橋立遺跡	東八代郡一宮町竹原田上大日町13－1	198	散布地	奈良・平安・中世	工場	一宮町教育委員会	1996/6/1～1996/6/30
49	真原A遺跡	北巨摩郡武川村山高字真原3567－8他	2000	散布地	縄文	その他開発（オートキャンプ場）	武川村教育委員会	1996/6/10～1997/3/31
50	古林第一遺跡	北巨摩郡大泉村西井出8510－1	100	散布地	縄文	農業関連	大泉村教育委員会	1996/6/1～1996/6/1
51	西田遺跡	北巨摩郡大泉村谷戸1873－1他	100	散布地	縄文・平安	宅地造成	大泉村教育委員会	1996/5/10～1996/9/30
52	寺所遺跡	北巨摩郡大泉村西井出314－1	3000	集落跡	縄文・平安	その他開発（下水処理場）	大泉村教育委員会	1996/6/17～1996/12/25
53	金の尾遺跡	中巨摩郡敷島町大下条457－1他	2300	集落跡	弥生・古墳・平安	住宅	敷島町教育委員会	1996/6/15～1996/10/14
54	浅尾原Ⅰ遺跡	北巨摩郡明野村浅尾原5259－335他	45243	散布地	縄文	その他建物（文化施設）	明野村教育委員会	1996/6/24～1996/7/31
55	西川遺跡	中巨摩郡甲西町清水西川4その他	4620	集落跡	弥生・古墳・奈良	学校	甲西町教育委員会	1996/6/28～1996/8/30
56	銀杏之木遺跡	甲府市東光寺2－310－1	562	散布地	平安・中世・近世	住宅	甲府市教育委員会	1996/7/1～1996/9/30
57	諏訪原遺跡	北巨摩郡明野村上神取1582－2	316	集落跡	縄文	住宅	明野村教育委員会	1996/6/17～1996/6/28
58	国分古墳群	東八代郡一宮町国分947－1	837	古墳	古墳	住宅	一宮町教育委員会	1996/6/17～1996/9/30
59	大月遺跡	大月市大月2－10	428	集落跡	縄文・平安	道路	大月遺跡調査会	1996/7/1～1996/8/31
60	おつき穴古墳	中巨摩郡白根町上今諏訪1325－3	416	古墳	古墳	道路	白根町教育委員会	1996/7/4～1996/9/30
61	宮沢中村遺跡	中巨摩郡甲西町宮沢東宮沢71－1	200	社寺跡	中世・近世	道路	山梨県教育委員会	1996/7/1－1996/12/20
62	桜井畑遺跡近接地	甲府市川田町内中代484－1	539	散布地	弥生・古墳・奈良	住宅	甲府市教育委員会	1996/8/1～1996/11/30
63	榎田遺跡	甲府市千塚5－2805－4	504	散布地	弥生・古墳・奈良	住宅	甲府市教育委員会	1996/8/10～1996/12/25
64	秋宮遺跡	中巨摩郡白根町上今諏訪秋宮552他	4	散布地		宅地造成	白根町教育委員会	1996/6/26～1996/7/5
65	鰍沢河岸跡	南巨摩郡鰍沢町鰍沢明神町	1000	その他の遺跡（河岸跡）	近世	河川	山梨県教育委員会	1996/7/1～1996/8/31
66	諏訪原遺跡	北巨摩郡明野村上神取	676	集落跡	縄文	住宅	明野村教育委員会	1996/7/1～1996/7/5
67	富士見1丁目遺跡	甲府市富士見1－1－1	10000	散布地	中世・近世	その他建物（病院）	山梨県教育委員会	1996/7/17～1996/7/24
68	八田畑遺跡	中巨摩郡櫛形町小笠原八田畑1231－1	13000	散布地	近世	住宅	山梨県教育委員会	1996/7/17～1996/8/9
69	大石畑遺跡	北巨摩郡高根町村山西割3612－1	494	散布地	縄文	住宅	高根町教育委員会	1996/6/10～1996/6/30
70	新井遺跡	北巨摩郡高根町蔵原1047－1	1490	散布地	縄文	住宅	高根町教育委員会	1996/6/11～1996/6/30
71	大久保遺跡	北巨摩郡長坂町渋沢大久保854－2他	3000	集落跡	縄文・平安	道路	長坂町教育委員会	1996/6/1～1997/3/31
72	第2農免関係遺跡	東八代郡御坂町尾山1210他	3028	散布地	不明	道路	御坂町教育委員会	1996/7/16～1996/7/31
73	地蔵北遺跡	甲府市東光寺3－1714他	1211	散布地	古墳・奈良・平安	宅地造成	甲府市教育委員会	1996/10/1～1996/12/20
74	新井B遺跡	北巨摩郡高根町蔵原1270－53	1300	集落跡	縄文	その他開発（下水処理場）	高根町教育委員会	1996/8/1～1997/3/31
75	神取遺跡	北巨摩郡明野村下神取431他	1386	散布地	縄文・平安	その他建物（保育園）	明野村教育委員会	1996/7/8～1996/7/9
76	清里バイパス第二遺跡	北巨摩郡高根町清里3545	2600	集落跡	縄文	道路	山梨県教育委員会	1996/7/22～1996/9/30
77	甲斐国分尼寺遺跡	東八代郡一宮町末木628－1	601	社寺跡	奈良・平安	その他建物（事務所）	一宮町教育委員会	1996/7/22～1996/9/30
78	温湯遺跡	東八代郡境川村大窪温湯705－1	150	散布地	平安	道路	境川村教育委員会	1996/8/12～1996/8/27

No.	遺　跡　名	所　在　地	面積(㎡)	遺跡の種類	遺跡の時代	調査目的	調査主体者	調査期間
79	東後屋敷遺跡	山梨市東後屋敷東原403－2	533	散布地	縄文・奈良・平安	住宅	山梨市教育委員会	1996/8/20～1996/6/20
80	藤塚遺跡	中巨摩郡櫛形町小笠原藤塚1077－2	200	散布地	中世・近世	その他建物（ケアハウス）	櫛形町教育委員会	1996/8/7～1996/8/31
81	久保遺跡	北巨摩郡長坂町中丸鳥久保3666－4	397	散布地	縄文	住宅	長坂町教育委員会	1996/8/1～1996/8/31
82	狐原遺跡	北都留郡上野原町新田62－3	319	集落跡	縄文・弥生・古墳	区画整理	上野原町教育委員会	1996/7/1～1997/3/31
83	向山遺跡	北都留郡上野原町櫚原	20	散布地	縄文	その他開発	上野原町教育委員会	1996/7/29～1996/8/31
84	東原遺跡	中巨摩郡白根町西野東原1593－1	1168	散布地	不明	宅地造成	白根町教育委員会	1996/8/24～1996/8/31
85	竹之花遺跡	中巨摩郡白根町在家塚竹之花	5550	散布地	不明	その他建物	白根町教育委員会	1996/8/7～1996/8/23
86	大原遺跡	東八代郡一宮町坪井	5000	集落跡	古墳・奈良・平安	道路	一宮町教育委員会	1996/6/20～1997/3/31
87	南西田遺跡	東八代郡一宮町坪井	5000	集落跡	古墳・奈良・平安	道路	一宮町教育委員会	1996/6/20～1997/3/31
88	西原遺跡	東八代郡境川村小山256－1他	3000	散布地	縄文・弥生・古墳	道路	境川村教育委員会	1996/9/1～1996/12/30
89	宮東遺跡	中巨摩郡白根町飯野宮東2473－1他	1277	散布地	不明	宅地造成	白根町教育委員会	1996/9/2～1996/9/20
90	薬師堂遺跡	東八代郡一宮町末木336	25	散布地	古墳・奈良・平安	その他建物（防災用貯水槽）	一宮町教育委員会	1996/8/19～1996/10/31
91	天神西遺跡	甲府市千塚4－3331他	558	散布地	古墳	住宅	甲府市教育委員会	1996/9/1～1996/10/1
92	梅平本田遺跡	南巨摩郡身延町梅平本田2916他	1200	城館跡	中世	道路	山梨県教育委員会	1996/8/28～1996/12/27
93	大林原遺跡	北巨摩郡高根町箕輪3197－12	2900	散布地	縄文・平安	その他建物	高根町教育委員会	1996/7/29～1996/8/31
94	念場原遺跡	北巨摩郡高根町清里3545－354他	384	散布地	縄文	その他建物	高根町教育委員会	1996/7/29～1996/8/31
95	関山遺跡	北都留郡上野原町上野原関山823－5	375	散布地	縄文	住宅	上野原町教育委員会	1996/8/28～1996/9/13
96	山高遺跡	北巨摩郡武川村山高北小路2762－1	10	散布地	縄文・中世	その他建物	武川村教育委員会	1996/8/23～1997/3/31
97	下反保遺跡	北巨摩郡明野村上手672	401	集落跡	平安	住宅	明野村教育委員会	1996/8/12～1996/8/19
98	五里原遺跡	東八代郡八代町南1179－1	30	集落跡	縄・古・奈・平	その他建物（携帯基地局）	八代町教育委員会	1996/9/9～1996/9/13
99	音羽遺跡	甲府市音羽町4	1050	集落跡	弥生・古墳	住宅	山梨県教育委員会	1996/9/11～1996/12/11
100	幸町遺跡	甲府市幸町2785他	2331	散布地	弥生	住宅	甲府市教育委員会	1996/9/1～1996/11/30
101	寺所第2遺跡	北巨摩郡大泉村西井出2895	325	集落跡	縄文・平安	その他開発（下水道）	大泉村教育委員会	1996/8/1～1996/9/30
102	上野原町郵便局遺跡	北都留郡上野原町上野原	2582	散布地	縄・古・奈・平	その他建物（郵便局）	山梨県教育委員会	1996/9/2～1996/9/12
103	綱の上遺跡	大月市梁川町綱の上1163－3他	956	散布地	縄文	学校	大月市教育委員会	1996/9/20～1996/10/25
104	東田・原屋鋪遺跡	北巨摩郡高根町箕輪横森前636他	1453	散布地	縄・平・中・近	宅地造成	山梨県教育委員会	1996/9/9～1997/3/31
105	石原田北遺跡	北巨摩郡長坂町八田石原田106－1	9082	散布地	縄文・平安	その他開発（ショッピングセンター）	長坂町教育委員会	1996/10/1～1996/12/24
106	中通遺跡	東八代郡御坂町二之宮中通577－1	2165	散布地	古墳・奈良・平安	宅地造成	御坂町教育委員会	1996/9/9～1996/9/20
107	龍角遺跡	北巨摩郡長坂町長坂上条竜角1342－3	921	散布地	古墳・平安・中世	その他建物（図書・美術館）	長坂町教育委員会	1996/6/18～1996/7/31
108	枇杷B遺跡	中巨摩郡櫛形町小笠原枇杷1841他	2400	散布地	弥生・古墳	道路	櫛形町教育委員会	1996/9/30～1997/1/31
109	大福寺境内遺跡	東八代郡豊富村大鳥居1621	30	散布地	近世	その他建物（寺院施設）	豊富村教育委員会	1996/9/24～1996/10/4
110	金田本都塚条里遺跡	東八代郡一宮町金田1208－1	600	その他の遺跡（条里）	奈良・平安	住宅	一宮町教育委員会	1996/9/24～1996/11/30
111	諏訪原遺跡	北巨摩郡明野村上神取諏訪原	171	集落跡	縄文	その他開発（下水道）	明野村教育委員会	1996/9/26～1996/10/25
112	榎田遺跡	甲府市千塚5－2926－1	1822	散布地	弥生・古墳・平安	宅地造成	甲府市教育委員会	1996/10/1～1996/11/30
113	家の前遺跡	甲府市里吉3－790他	1394	散布地	平安	住宅	甲府市教育委員会	1996/11/1～1996/11/30
114	桂野遺跡	東八代郡御坂町上黒駒桂野大道上18	2500	集落跡	縄文	道路	山梨県教育委員会	1996/10/14～1997/3/31
115	五里原遺跡	東八代郡八代町南1179－1	150	集落跡	縄文・古墳・平安	その他建物（携帯基地局）	八代町教育委員会	1996/10/7～1996/10/31
116	御岳田遺跡	中巨摩郡敷島町大下条968－3	200	その他の遺跡（溝跡）	古墳	その他建物（店舗）	敷島町教育委員会	1996/10/14～1996/10/18
117	鰍沢河岸跡	南巨摩郡鰍沢町鰍沢明神町	600	その他の遺跡（河岸跡）	近世	河川	山梨県教育委員会	1996/10/8～1996/12/27
118	溝呂木道上遺跡	中巨摩郡若草町十日市場1124他	2000	散布地	平安	道路	若草町教育委員会	1996/10/8～1996/12/27

No.	遺　跡　名	所　在　地	面積(㎡)	遺跡の種類	遺跡の時代	調査目的	調査主体者	調査期間
119	西原遺跡	中巨摩郡白根町西野西原2026－1	599	散布地	近世	その他開発（商業施設）	白根町教育委員会	1996/10/15～1996/10/18
120	塞神遺跡	中巨摩郡白根町西野西原塞神2308－1	842	散布地	近世	その他開発（商業施設）	白根町教育委員会	1996/10/15～1996/10/18
121	四ツ塚古墳群	東八代郡御坂町金川原大久保1106他	1472	古墳	古墳	その他開発（駐車場）	御坂町教育委員会	1996/10/14～1996/10/18
122	後呂遺跡	東八代郡中道町左右口上山越1613－1	150	散布地	縄文・弥生・古墳	その他建物（会社事務所）	中道町教育委員会	1996/10/11～1996/10/18
123	永井原遺跡	北巨摩郡明野村上手永井原12323－31	14748	散布地	縄文	その他開発（廃棄物処理）	明野村教育委員会	1996/10/10～1996/10/30
124	塩部遺跡	甲府市塩部2～3丁目	7000	集落跡	弥・古・奈・平	道路	甲府市教育委員会	1996/10/1～1997/3/31
125	北河原遺跡	中巨摩郡甲西町田島北河原1109他	5000	散布地	古・奈・平・中	その他建物（老人ホーム）	甲西町教育委員会	1996/11/1～1996/11/30
126	水口遺跡	東八代郡境川村藤垈水口728－1	333	散布地	縄文	住宅	境川村教育委員会	1996/11/11～1996/11/29
127	原遺跡	大月市笹子町西久保990－1	270	散布地	中世	その他建物（鉄塔）	大月市教育委員会	1996/11/11～1996/11/30
128	角屋敷遺跡	中巨摩郡甲西町秋山角屋敷544－1他		散布地	古・奈・平	道路	甲西町教育委員会	1996/10/14～1996/12/31
129	銚子原遺跡	東八代郡八代町岡2331他	15	集落跡	縄文・古墳	道路	八代町教育委員会	1996/10/21～1996/10/31
130	清水遺跡	東八代郡一宮町本都塚清水219他	458	散布地	縄・古・奈・平	農業関連	一宮町教育委員会	1996/11/11～1997/3/31
131	北腰巻遺跡	東八代郡一宮町坪井北腰巻700他	1000	散布地	平安	農業関連	一宮町教育委員会	1996/11/5～1997/3/31
132	本都塚条里遺跡	東八代郡一宮町本都塚・金田	258	その他の遺跡(条里)	奈良・平安	農業関連	一宮町教育委員会	1996/11/10～1997/3/31
133	国府遺跡	東山梨郡春日居町寺本41－2	50	官衙跡	古墳・奈良・平安	学術研究	春日居町教育委員会	1996/11/11～1996/12/26
134	神東町遺跡	東山梨郡春日居町寺本175－1	50	集落跡	古墳・奈良・平安	学術研究	春日居町教育委員会	1996/11/11～1996/12/26
135	金の尾遺跡	中巨摩郡敷島町大下条750－1他	300	その他の遺跡(溝跡)	古墳	その他建物（店舗）	敷島町教育委員会	1996/11/12～1996/11/20
136	岩上遺跡	北巨摩郡明野村上手1784	354	散布地	縄文	住宅	明野村教育委員会	1996/11/5～1996/11/6
137	家の前遺跡	甲府市里吉3－982－1	943	散布地	平安	住宅	甲府市教育委員会	1996/11/6～1996/11/22
138	榎田遺跡	甲府市千塚5－2962－7他	267	集落跡	縄・弥・古・奈・平	住宅	甲府市教育委員会	1996/11/1～1996/11/30
139	強瀬北遺跡	大月市賑岡町強瀬上平301他	2000	散布地	縄文	道路	山梨県教育委員会	1996/11/18～1997/3/31
140	扇田遺跡	東八代郡御坂町井之上832－1	530	集落跡	古・奈・平	その他建物（店舗他）	御坂町教育委員会	1996/11/6～1996/11/19
141	駒飼場遺跡	北巨摩郡明野村上手駒飼場7574	759	集落跡	縄文	農業関連	明野村教育委員会	1996/11/20～1996/11/22
142	田代遺跡	北都留郡上野原町鶴島田代3034	350	散布地	縄文	住宅	上野原町教育委員会	1996/11/21～1996/11/22
143	狐原Ⅱ遺跡	北都留郡上野原町新田22－1他	374	集落跡	縄・弥・古・奈・平	道路	上野原町教育委員会	1996/12/4～1997/2/28
144	笹原Ⅱ遺跡	北巨摩郡明野村浅尾富士塚3330－1	1017	散布地	縄・奈・平・中・近	住宅	明野村教育委員会	1996/12/9～1996/12/11
145	銚子原遺跡	東八代郡八代町岡2331他	400	集落跡	旧・縄・古・平・中	道路	八代町教育委員会	1996/12/2～1996/12/25
146	榎田遺跡	甲府市千塚5－2931他	43	散布地		住宅	甲府市教育委員会	1996/12/1～1997/1/31
147	塚場古墳群	北都留郡上野原町上野原大塚1002	10	古墳	古墳	住宅	上野原町教育委員会	1996/12/9～1996/12/9
148	東田・原屋鋪遺跡	北巨摩郡高根町箕輪	304	散布地	縄文	その他建物（駐在所）	山梨県教育委員会	1996/11/11～1997/1/18
149	東田・原屋鋪遺跡	北巨摩郡高根町箕輪	4700	散布地	縄・平・中・近	道路	山梨県教育委員会	1996/11/29～1996/12/26
150	横畑遺跡	東八代郡豊富村大鳥居3446他	60	集落跡	旧・縄・弥～平・中・近	道路	豊富村教育委員会	1996/12/17～1997/1/31
151	牧洞寺古墳	山梨市上岩下1508－79他	800	古墳	古墳	遺跡整備	山梨市教育委員会	1996/12/4～1997/2/19
152	伊保水遺跡	塩山市千野伊保水	19000	散布地	縄文・平安・中世	学校	山梨県教育委員会	1996/12/9～1996/12/26
153	枇杷B遺跡	中巨摩郡櫛形町小笠原1829－1他	200	散布地	古墳・平安	工場	櫛形町教育委員会	1996/12/24～1997/1/10
154	四ツ塚古墳群	東八代郡御坂町金川原大原1223－12	563	古墳	古墳	工場	御坂町教育委員会	1996/12/17～1996/12/20
155	田中畑遺跡	東八代郡八代町高家82他	60	散布地	縄文・平安・近世	住宅	八代町教育委員会	1996/12/11～1997/1/19
156	駒平遺跡	東八代郡豊富村木原17他	150	集落跡	縄文	道路	豊富村教育委員会	1997/1/9～1997/1/31
157	春米大明神遺跡	南巨摩郡増穂町春米134・小林14－1他	2134	散布地	縄文・古墳	道路	増穂町教育委員会	1997/2/3～1997/2/21
158	銚子原遺跡	東八代郡八代町岡2330他	722	集落跡	旧・縄・古・平・中	道路	八代町教育委員会	1997/1/8～1997/2/28

No.	遺　跡　名	所　在　地	面積(㎡)	遺跡の種類	遺跡の時代	調査目的	調査主体者	調査期間
159	大中寺遺跡	東山梨郡春日居町国府字大中寺163	50	集落跡・官衙跡	古墳・奈良・平安	学術研究	春日居町教育委員会	1997/2/13～1997/3/28
160	永井遺跡	甲府市小松町字永井町425－1	189	散布地	古墳・奈良・平安	住宅	甲府市教育委員会	1997/2/14～1997/3/31
161	池之久保Ⅴ遺跡	北巨摩郡明野村浅尾5259－1157	2533	散布地	縄文	その他建物（事務所）	明野村教育委員会	1997/2/19～1997/2/20
162	上条遺跡	北巨摩郡長坂町長坂787－1	60	集落跡	縄文・平安	宅地造成	長坂町教育委員会	1997/1/20～1997/3/30
163	古町遺跡	北巨摩郡白州町台ヶ原古町37他	400	散布地	縄文・平安・中世	農業関連	白州町教育委員会	1997/2/24～1997/2/26
164	前田遺跡	北巨摩郡白州町大坊字前田30－1他	100	散布地	縄文・平安	農業関連	白州町教育委員会	1997/2/26～1997/2/28
165	塩部遺跡	甲府市塩部2－7	3700	集落跡・その他の墓	弥・古・奈・平・中・近	道路	甲府市教育委員会	1996/10/26～1997/3/31
166	防沢東遺跡	北巨摩郡双葉町岩森字防沢東1078－1	456	散布地	縄文	住宅	双葉町教育委員会	1996/10/28～1996/10/29
167	金丸遺跡	中巨摩郡白根町下今諏訪287	1378	散布地	平安	工場	白根町教育委員会	1997/2/27～1997/2/27
168	北新田遺跡	中巨摩郡白根町北新田4382他	1399	散布地	平安・中世	住宅	白根町教育委員会	1997/2/27～1997/2/27
169	上野原遺跡	東八代郡中道町右左口字雨堤904－11	500	散布地	縄文・古墳	農業関連	中道町教育委員会	1997/2/24～1997/2/28
170	明治遺跡	東八代郡豊富村高部465他	8	散布地	近世	その他開発	豊富村教育委員会	1997/2/17～1997/2/27
171	扇田遺跡	東八代郡御坂町二之宮2741－4	348	散布地	古墳・奈良・平安	工場	御坂町教育委員会	1997/2/24～1997/3/5
172	北小路遺跡	北巨摩郡武川村黒沢字北小路1646	456	散布地	縄文・中世	農業関連	武川村教育委員会	1997/3/10～1997/3/31
173	山田C遺跡	北巨摩郡武川村三吹字山田3559－1	100	散布地	中世・近世	その他建物（鉄塔）	武川村教育委員会	1997/3/7～1997/3/31
174	西ノ宮遺跡	北巨摩郡武川村山高字西ノ宮3002－1	10	散布地	縄文・中世	その他開発（温泉掘削）	武川村教育委員会	1997/1/8～1997/1/31
175	和田第2遺跡	北巨摩郡大泉村西井出8977－2	40	散布地	縄文	宅地造成	大泉村教育委員会	1996/11/1～1997/3/31
176	白旗神社関連遺跡	北巨摩郡大泉村西井出8240－371他	300	散布地	平安	学術研究	大泉村教育委員会	1996/11/29～1997/3/31
177	城上第3遺跡	北巨摩郡大泉村谷戸2998他	400	散布地	縄文	学術研究	大泉村教育委員会	1996/11/1～1997/3/31
178	塩川下河原堤防遺跡	韮崎市中田町中条1830－1先地	1200	その他の遺跡(堤防跡)	近世	観光開発	韮崎市教育委員会	1997/2/10～1997/3/31
179	筑前原北遺跡	東八代郡一宮町金田1146	640	集落跡	古墳・奈良・平安	道路	一宮町教育委員会	1997/3/5～1997/3/31
180	天神西遺跡	甲府市千塚4－3231他	944	散布地	古墳	住宅	甲府市教育委員会	1997/2/18～1997/2/25
181	堀川遺跡	東八代郡八代町北844	50	散布地	古墳・奈良・平安・中世	住宅	八代町教育委員会	1997/3/5～1997/3/12
182	大中寺遺跡	東山梨郡春日居町国府字大中寺160－	40	集落跡・官衙跡	古墳・奈良・平安	学術研究	春日居町教育委員会	1997/3/12～1997/3/31
183	神明遺跡	中巨摩郡白根町百々字神明2357	1933	散布地	平安	住宅	白根町教育委員会	1997/3/13～1997/3/13
184	仲畑遺跡	中巨摩郡白根町在家塚字仲畑1266－1	1639	散布地	平安	その他建物（貸店舗）	白根町教育委員会	1997/3/14～1997/3/14
185	朝気遺跡	甲府市朝気2－670－2	151	散布地	縄文・古墳・奈良・平安	住宅	甲府市教育委員会	1997/3/10－1997/3/31
186	勝山城址	東八代郡中道町上曽根字西田621－31		城館跡	中世	住宅	中道町教育委員会	1997/2/12－1997/2/20
187	後畑遺跡	東八代郡御坂町二之宮字宝手2652－1	827	散布地	古墳・奈良・平安	住宅	御坂町教育委員会	1997/3/21～1997/3/28
188	大原Ⅰ遺跡	北巨摩郡白州町大原8587－4	100	集落跡	縄文・平安	住宅	白州町教育委員会	1997/3/10～1997/4/18
189	東原Ⅱ遺跡	中巨摩郡白根町西野字東原1502－3	1560	散布地	平安	宅地造成	白根町教育委員会	1997/2/3～1997/2/7
190	木地蔵遺跡	東八代郡一宮町国分1844塩田1393他	9384	散布地・古墳	縄文・古墳・平安・中世	道路	一宮町教育委員会	1996/12/25～1997/3/31
191	一の沢遺跡	東八代郡境川村小黒坂720－1	60	散布地	縄文	農業関連	境川村教育委員会	1997/3/4～1997/3/31
192	宮ノ前第5遺跡	韮崎市藤井町駒井字宮ノ前2248－1他	400	散布地・集落跡	奈良・平安	その他開発（児童センター）	韮崎市教育委員会	1996/4/22～1997/3/31
193	後田堂ノ前遺跡	韮崎市藤井町北下条字後田	1800	散布地・集落跡	古墳・奈良・平安	道路	韮崎市教育委員会	1996/4/22～1997/3/31
194	石之坪遺跡	韮崎市上円井字石之坪1604－1他	4000	散布地・集落跡	縄文	農業関連	韮崎市教育委員会	1996/8/19～1997/3/31
195	大月遺跡	大月市大月2－11－20他	200	集落跡	縄文・平安	学校	山梨県教育委員会	1996/12/10～1997/3/31
196	中部横断道予定地内遺跡	中巨摩郡八田村野牛島字石橋3005他	4000	集落跡	縄文・近世	道路	山梨県教育委員会	1997/2/3～1997/2/21



●路線バスのご利用

敷　島ー豊　富（中道橋経由）考古博物館で下車

●高速バスご利用（２時間）

新宿西口……甲府南インター下車・徒歩10分

年　報 13

印刷日　平成９年３月25日
発行日　平成９年３月31日

発行所　山梨県埋蔵文化財センター
山梨県東八代郡中道町下曽根923
TEL0552―66―3881・0552―66―3016
FAX0552―66―3882

印刷所　株式会社 少 国 民 社
TEL0552―26―2125